

令和2年度(2020年度)「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業に係る研究指定校事業研究報告書(令和3年3月提出)

1 研究テーマ及び目標

(1) 研究テーマ「リーダーシップ教育を柱とした援助希求力の育成」

(2) 目標

「リーダーシップ教育を柱としたカリキュラム・マネジメントを行い、自己肯定感を高め、自分自身の強みや弱み(悩み)を掘り下げ、支援行動や援助希求行動を選択できる人材の育成を目指す。」

2 現状と課題を踏まえた具体的な研究計画

(1) 現状と課題

ア 現状

- (ア) 創立138周年の伝統校であり、優秀な生徒が多く入学する。
- (イ) 出身中学校は約80校と多くの地域から生徒が集まっている。
- (ウ) 地域や保護者の学校への関心が高く、同窓会等の支援も手厚い。
- (エ) 文武両道を目指し日々教育活動を展開している。
- (オ) 社会におけるグローバルリーダーの育成を期し、5年間のSGH指定を受け研究を行い、Super Global Research(生徒課題研究)、英語におけるディベートを中心としたSuper Global Communicationなど独自の教育資産がある。
- (カ) 新型コロナウイルス感染防止のため約2ヶ月の休校が続いた。

イ 課題

- (ア) 学校不適應の生徒が一定数おり、主な原因として次のようなものが挙げられる。
  - a 学習についていけない。課題の未提出がある。
  - b 完璧を求めるあまり自分を許せない。
  - c 入学後、目的を見失ってしまった。
  - d 部活動等の人間関係がうまくいかない。
- (イ) 周りの生徒が学習・部活動とも順調にできているように見え、他人と比較して不安を感じる生徒がいる。
- (ウ) 自分自身ができないことや困っていることなど弱みを他者に見せずに自分自身だけで解決しようとする生徒がいる。
- (エ) 長期間の休校により、不安を感じる生徒や保護者がいる。
- (オ) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が十分でない。
  - a 受験対策で教師主導型の授業が多く知識伝達形式の授業内容になり、協働的な場面が設定されていない。
  - b 個々での取組事例はあるが、系統性がない。

- (カ) 教職員と保護者との間に生徒の悩みを受け止める上で認識にずれが生じる場合がある。
- (2) 研究体制
- ア 推進体制  
教育相談部を中心とし、教務部、進路指導部、総務部の協力体制のもと研究を推進する。
- イ 評価機関  
学校評議員会を外部評価機関と位置付ける。
- (3) 具体的な研究計画  
リーダーシップの育成を柱にし、「権限のないリーダーシップ\*1」をベースに、令和元年度は第1学年を対象に、令和2年度は第1、第2学年を対象に研究を行う。
- ア 各教科の授業で実施
- イ 特別活動（HR活動）での定期的なエンカウンターの設定
- ウ 学校行事や委員会活動など生徒が主体的な活動を実施する機会の設定
- エ 講話や講演会などにより、生徒達が自己や他者について深く考える機会を設定し、論理的思考力を育成
- \*1 権限のないリーダーシップとは、権限を持たない人でも発揮できるリーダーシップのこと。変化の激しい現代では、この素養の必要性が高まると考えられている。早稲田大学 大学総合研究センター教授 日向野幹也氏が提唱
- (4) 仮説  
1年生・2年生を対象としたリーダーシップ教育を各教科・特別活動で取り入れ、生徒が主体的・協働的・深い学びを意識した活動を行うことで、生徒の自己理解や他者理解を深める。その結果生徒が自己肯定感を高め、自分をかけがえのない個人として尊重するとともに支援行動や援助希求行動を選択することができるようになる。
- (5) 評価方法  
生徒の自己肯定感アンケート結果や授業評価、生徒主体の活動内容などを評価指標とする。

### 3 研究内容

#### (1) 授業を通したリーダーシップ教育の実践

「リーダーシップ教育」の要素を取り入れた授業を各教科で展開した。この際、授業におけるリーダーシップ教育の授業デザインを提示するために、必要な情報を精査し、授業の見どころを記載するデザインシートを開発した。授業実施は、学校の公開授業週間「济々元気デイズ」に合わせて実施した。また、令和2年度については授業を編集した動画を作成し、校内で公開した。

【令和元年度（2019年度）】

##### ① 1学期

英語科の竹原亜紀教諭が「コミュニケーション英語Ⅰ」の公開授業を実施した。課題

として取り上げたことは、『グループの中で自分の役割を見出し、全体へ貢献する態度を育む』である。生徒の個性に応じて、それぞれが周囲への配慮を行いながら、自信を持って自分の意見を主張することのできる雰囲気を生徒達が自ら作り出すことができるようにすることを目標にして授業を実施した。

## ② 2学期

1学期は1教科1名のみでの公開授業であったので、2学期には指導者と教科を拡大し、8教科（9名）で「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業の公開授業を実施した。担当者は、1学期に開発した授業デザインシートを作成しながら、目的を教科の内容に落とし込むなどの工夫を行った。

特に家庭科では、井手文子教諭が「家庭基礎」の保育分野のまとめとして、「これからの保育環境 ～グループ活動でリーダーシップを育む～」の内容でグループワークを行った。課題として取り上げたことは『個人や社会の一員として課題解決の方法を主体的に考える』である。生徒たちは、グループの意見を用紙にまとめ、発表を行った。



【各教科による公開授業の様子】

### 令和元年度（2019年度）「SOSの出し方に関する教育」公開授業一覧

	実施科目	授業テーマ	学年組	指導者
1	家庭基礎	これからの保育環境 ～グループ活動でリーダーシップを育む～	1年2組	井手 文子
2	英語E	スキットコンテスト (ALTとのチームティーチング)	1年4組	竹原 亜紀
3	社会と情報	数値データの活用(表計算ソフトの利用) ～グループワークを中心とした実習～	1年5組	金子 周平
4	音楽 I	合唱の楽しさを味わおう ～グループ活動でリーダーシップを育む～	1年78組	荒木 良吾
5	数学 I	問題に対する深い考察と学び ～グループ活動を通してリーダーシップを養成 する～	1年9組	松尾 直之
6	国語総合 (古典)	対話による読解の深化	1年10組	中村 静夏
7	物理	～オールリーダーシッププログラム～	2年5組	赤峯 達雄
8	物理	～オールリーダーシッププログラム～	2年6組	中山 武也
9	保健体育 (体育)	ハンドボールにおける個人・チームの課題解決	2年48組	中山 恵太

【令和2年度（2020年度）】

①1学期

7月に家庭科の井手文子教諭が「食文化」の公開授業を実施した。テーマは、「食育新聞」の発表である。課題として取り上げたことは、作成した食育新聞を他者に分かりやすく発表するために、班員が協力しコミュニケーションを深めることができるか、である。食育新聞の相互評価については、ループリックに準じた評価表を作成した。

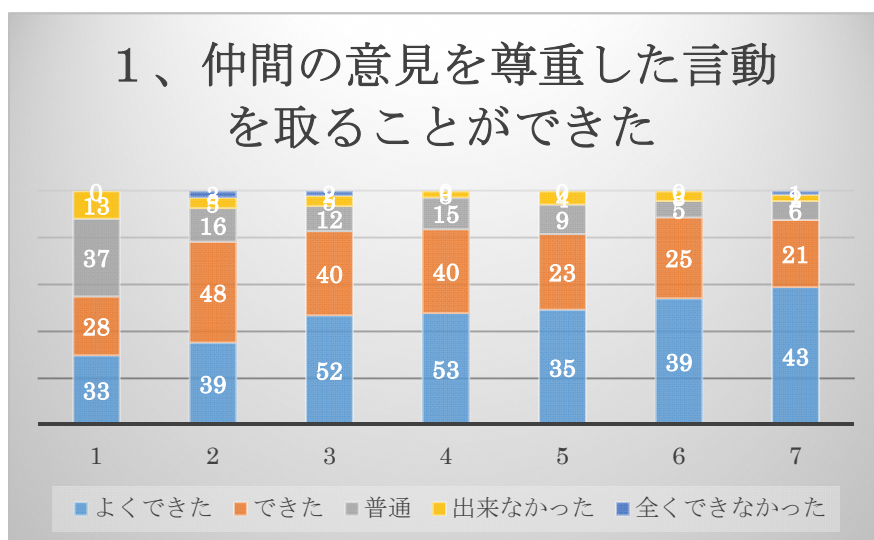
②2学期

2学期は、7教科（8名）で公開授業を実施した。「授業デザインシート」を作成し、各教科で工夫を凝らした授業展開を行った。

特に、理科（物理）では、中山武也教諭が「リーダーシップ教育の視点を取り入れた物理実験の実践」というテーマで公開授業を行った。「出席者」から「参加者」へ発問で授業に貢献しようルールの下で「リーダーシップの視点を取り入れた全員参加型の物理実験」を行った。また、リーダーシップ教育の3要素（目標設定・共有、同僚支援、率先垂範）を実験の『態度目標』として自己評価及び相互評価のループリックの評価を行った。

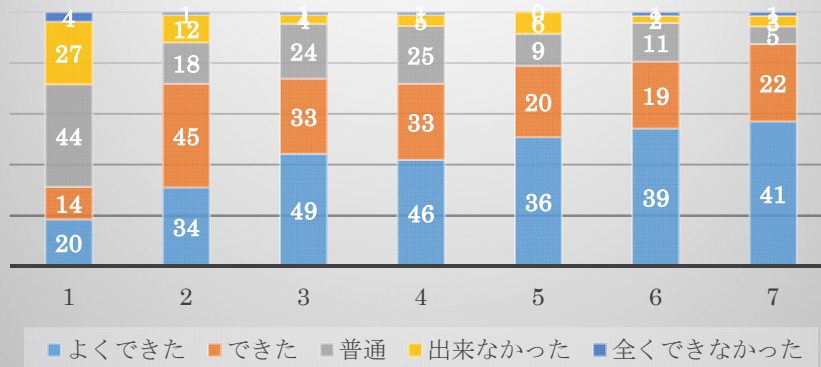
また、体育科では、中山恵太教諭が「ハンドボール ～グループで課題解決に取り組む～」というテーマで公開授業を行った。自身と自分たちのチームの課題を見つけ毎時間のチームミーティングで話し合いを行い、課題解決をすることができる力を養うことを目的としたものである。技術の向上のみならず、他者を理解し配慮した行動ができるようになることも目標の一つである。実施後のアンケート調査においては、授業の回数が増すごとに、「仲間の意見を尊重した言動をとることができた」「自分の課題（弱みや悩み）を発信できた」と回答した生徒が増加したことが分かった。

【体育(ハンドボール)授業後アンケート結果】

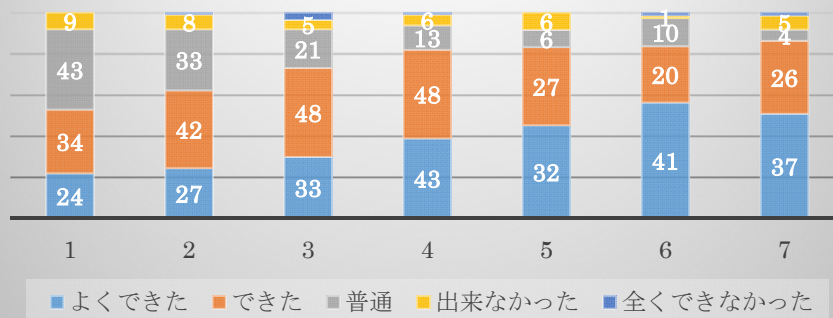


※下の数値は、授業実施回数を表す

## 2、自分の課題（弱みや悩み）を発信できたか



## 3、本時の課題解決状況はどのようか



【数学授業】



【生物授業】



【情報授業】

令和2年度（2020年度）各教科でのリーダーシップ教育の実施状況報告

	教科	授業テーマ	授業実施 クラス	授業実施者
1	理 科 (物理)	リーダーシップ教育の視点を取り入れた 物理実験の実践	2年6組	中山 武也
2	公 民	消費者問題～契約～	1年5組	村田 幸一郎
3	数 学	大学入試問題を協働で取り組み、解決する ～グループワーク～	1年4組	大城 寛幸
4	理 科 (生物)	バイオテクノロジーについて考える	2年78組 生物選択者	永田 友美
5	保健体育	ハンドボール グループで課題解決に取り組む	2年410組 男子	中山 恵太
6	英 語	ゴミ問題解決のためにできること ～グループで考える～	1年3組	仲村渠 雄次
7	家 庭	消費者をめぐる問題 ～グループワークで悪質商法の断り方を 考える～	1年8組	井手 文子
8	情 報	Javascriptによるプログラミング ～グループで課題に取り組む～	1年4組	金子 周平

(2) エンカウンターを通じたリーダーシップ教育の実践

「SOSの出し方に関する教育」に係るエンカウンターを実施した。全体的に、自己理解・他者理解を深め、他者と協力して課題解決に向かう力の育成を目的としたものである。実施に際しては、スクールカウンセラーと、事前の打合せを行い内容の決定を行った。また、令和元年度（2019年度）2学期はスクールカウンセラーがエンカウンターを実施している各教室を見学し、1クラスについて最後のまとめを行った。

令和2年度（2020年度）は1・2年生とも年度当初から実施予定であったが、休校や新型コロナウイルス感染症予防のために、時期や内容を変更せざるを得なかった。特に1学期は感染症防止のため、広い場所で接触の少ない内容のエンカウンターを実施した。

【令和元年度（2019年度）】

対象学年：1年生

実施期日：4月（宿泊研修） 「新聞タワー」  
9月 「漢字ゲーム」

【令和2年度（2020年度）】

対象学年：1年生

実施時期：6月 「サインを読み取ろう」  
1月 「漢字ゲーム」

対象学年：2年生

実施時期：9月 「共同絵画」

ア 令和元年度（2019年度）実施「新聞タワー」「漢字ゲーム」について

宿泊研修での「新聞タワー」では生徒の様子や感想から、協働作業を通して会話をし、お互いを知り合い、仲間作りを進めることができたことがわかった。特に、入学して間もない時期でクラス間の親交が深まっていない時期であったことから、クラス間の交流のきっかけにもなった。

2学期の「漢字ゲーム」では、生徒達は、「閉じた質問」「開いた質問」について学び答えやすい質問の仕方考えることができた。また、質問の口火を切ることの大切さ、たくさん意見を出す姿勢や質問しやすい雰囲気を作ることの重要性などを学んだ。



【新聞タワー】

【漢字ゲーム】

【漢字ゲーム】

【新聞タワーの生徒感想】

- 協力してできた。誰も否定する人がいなかった。人任せにすることがなくてよかった。
- 初めて話す人とでも、何か目的があれば会話が生まれ、その中で目標に達するまでにすることは、とても楽しいということがわかった。
- 一人では思い浮かばないことが集まることでアイデアがどんどん浮かんできた。必死に知恵を集めることができ協力は人数以上のことができると学んだ。

【漢字ゲームの生徒感想】

- 最初に手を挙げ発表する人がいるとグループワークがとてもうまくいくことがわかった。最初に発言してくれると「自分も！自分も！」とどんどん手が上がりチームの士気が向上することができた。
- ヒントを出した時にみんなが意見をたくさん出す姿勢からチャレンジすることの大切さを感じた。

イ 令和2年度（2020年度）6月実施 1年生「サインを読み取ろう」

1年生で実施した「サインを読み取ろう」は、他者理解と協働作業を目的としたものである。休校明けの学校再開後間もない時期での実施だった。密を避けるための体育館や武道場での実施となった。「言葉を発しない」というルールがあるので、生徒達は身振り手振りや、指で表現をしていた。クラス全員で「下の名前であいうえお順に並ぶ」という活動では、1ヶ所だけ違ってしたが、ほぼ順番どおりに並ぶことができていた。



#### 【生徒感想】

- クラスでまだ男子と女子がほぼ初対面に近い状態で話したことがなかったが、今日の活動でより近い存在になった。
- 笑顔で接することが大切だと思った。笑顔で接することで、相手が心を開きやすいと分った。
- しゃべらずに相手とコミュニケーションを取るのは難しいと思った。普段は口で話せるので、自分の考えていることをしっかり伝えようと思った。
- 名前を覚えていてくれて嬉しかった。自分は名前を覚えていないから覚える努力をしたい。
- 相手によりよく伝わる方法を考えてしないとイケなかったもので、相手のことを考えることの大切さがわかった。

#### ウ 令和2年(2020年)9月 2年生実施「共同絵画」

「SOSの出し方に関する教育」のエンカウンターでは、協働作業、協調性、役割遂行等を主たる目的にエンカウンターのエクササイズを検討してきた。該当学年の生徒達は1年次に「新聞タワー」「漢字ゲーム」を実施しており、協働作業、質問をしながら問題解決をする等を体験している。

2年次には、コンセンサス(合意形成)ができるものと考えたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、言葉を介しての議論を避け、非言語(絵やジェスチャー)を介して、グループでまとまったものを作り出すことができる課題としてこのエクササイズを考えた。

今回実施した「共同絵画」は、「タイトルを考えながら全員でまとまった絵を作成する」という内容のエンカウンターである。4～5名のグループ編成で、タイトルは最初に描く生徒しか知らない。描いている途中で、タイトルがうまく伝わっていないと思った生徒は、身振り手振りで伝えようと必死になっていた。結果は、ほぼすべての班がタイトルを当てることができた。生徒達の様子はとても楽しそうであり、クラスのコミュニケーションが深まった様子が見て取れた。

#### 【生徒感想】

- 伝えたいという気持ちの大切さを感じた。
- ジェスチャーや声を出すことの必要性を感じた。
- 周囲への反応を表に出すことで活動が円滑になることが分かった。
- 共通の目的を持ち、取り組むことの楽しさが分かった。
- 感じ方や考え方は人それぞれであることがわかった。
- コミュニケーションをとると、団結力が高まるなと思った。
- 課題は難しかったが、みんなで協力することができた。
- みんなで共感できるものを見つけて伝えていくのが楽しかった。
- グループの人と仲良くなれた。





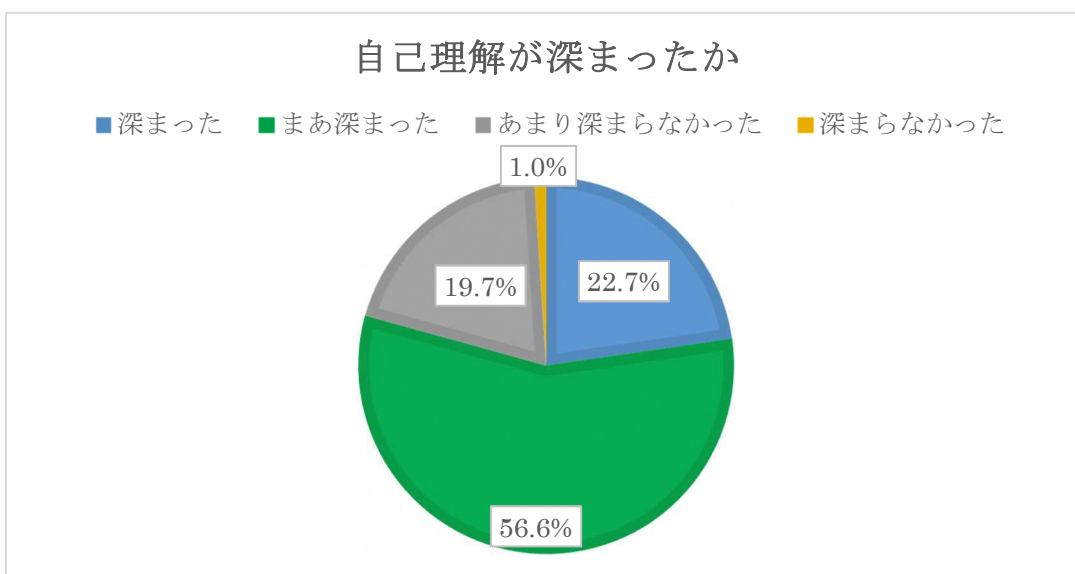
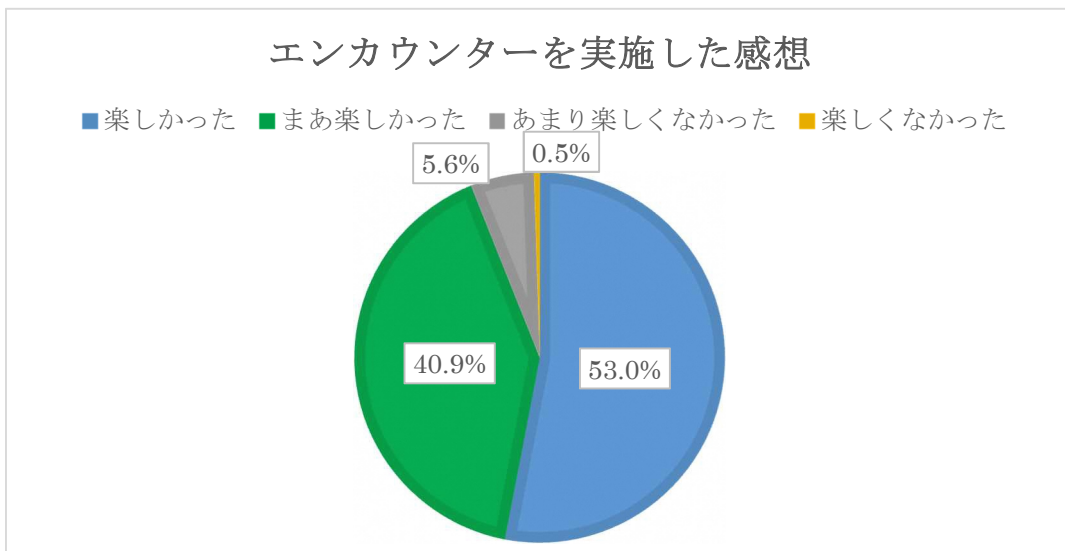
【グループワークの様子】

【テーマ：現実】

【テーマ：遠足】

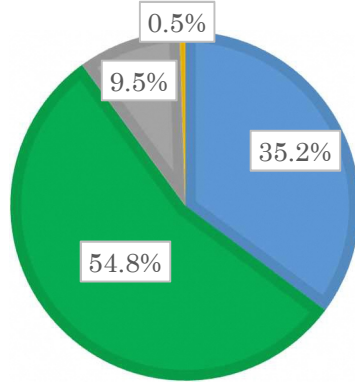
エ エンカウンター実施後のアンケートについて

令和3年（2021年）1月、1年生で第2回目のエンカウンター実施後にアンケートを実施した。対象は、1学年5クラス（200名）である。アンケート結果は次の通りである。



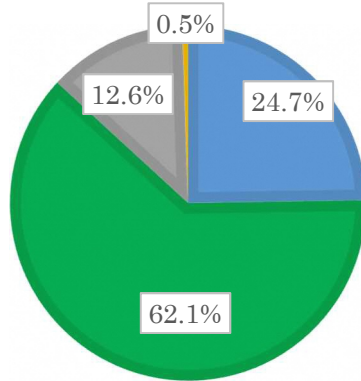
### 他者理解が深まったか

■深まった ■まあ深まった ■あまり深まらなかった ■深まらなかった



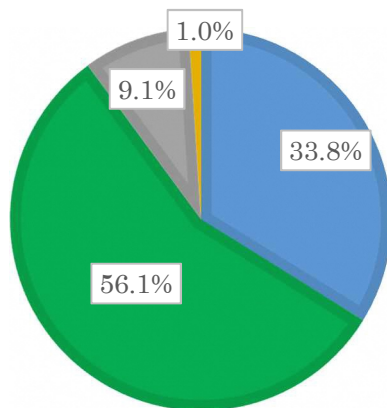
### 困り感を援助や援助希求する態度

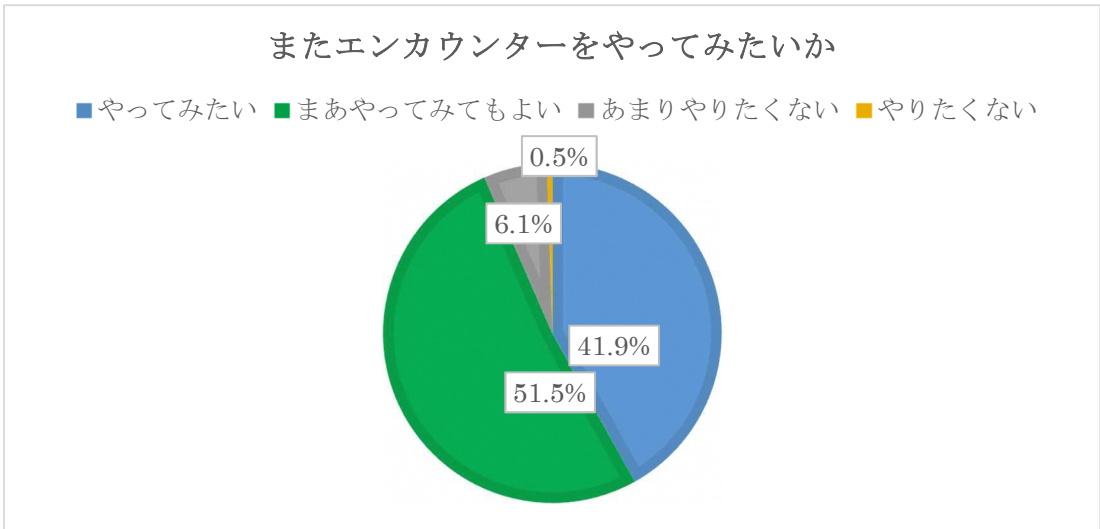
■身についた ■まあ身についた ■あまり身につけていない ■身に付かなかった



### クラスの団結力

■深まった ■まあ深まった ■あまり深まらなかった ■深まらなかった





#### 【エンカウンターアンケート結果の考察】

生徒たちの9割以上がエンカウンターを楽しんで、またやりたいと思ったことでエンカウンターの意義を感じた。アンケート結果からは自己理解も他者理解も高まったという生徒が多かったが、若干他者理解の方が高まったと答えた生徒が多くなっている。漢字ゲームというエクササイズを通すことで「人の意見を聞く」という態度を意識できたのではないだろうか。また、他者への関心を持ち、協力し合う気持ちや役に立ちたいという気持ちの高い生徒が多いということでもあると推察される。

エンカウンターを「またやってみたい」という意見も多かったので、年度始めのクラス開きや授業の中や行事などの様々な場面で活用していきたい。

#### (3) 学校行事や委員会活動など生徒が主体的な活動を実施する機会の設定

##### ○ 保健委員会の活動

学校行事や委員会活動で、生徒達が主体的な活動を実施する機会を設定した。保健委員会では、例年文化祭で全校生徒の前で発表を行っている。発表は、保健委員会の生徒がテーマを選定しそのテーマに沿った内容を考え、インタビューなどを交えて作成したものである。「SOSの出し方に関する教育」指定校の2年間については、指定校事業に関連するテーマを設定して発表を行った。

#### 【令和元年度（2019年度）】発表テーマ：「ストレス対処について」

生徒の中には、勉強や学校での人間関係などでストレスを感じている人も見られることから、誰でも簡単にできるストレス解消法について発表した。

##### ・ 色々なストレス解消法

ストレス対処の呼吸法や笑顔の効果、泣く効果などを紹介し、自分でもできそうなストレス解消法を見つけてもらうことを目的とした。

<h4>ストレスの原因は・・・？</h4> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原因</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>勉強</td> <td>43%</td> </tr> <tr> <td>学校での人間関係</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>部活動</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>家庭での人間関係</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>	原因	割合	勉強	43%	学校での人間関係	16%	部活動	16%	わからない	14%	家庭での人間関係	8%	その他	3%		<h4>ストレスホルモン排出作用</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>感情が高ぶった時の涙にはストレスホルモンが含まれており、泣くことで排出される。その後脳内モルヒネのエンドルフィンが増加し、<b>痛みや悲しみをやわらげてくれる</b></li> </ul>
原因	割合															
勉強	43%															
学校での人間関係	16%															
部活動	16%															
わからない	14%															
家庭での人間関係	8%															
その他	3%															

・ストレスマネジメントとはなにか

教師や他の生徒がどのようなストレス解消法を持っているのかを紹介し、ストレスマネジメントは特別なことをすることではなく、自分に合った方法でストレスとうまく付き合っていくことが大事ということに気づいてもらうことを目的とした。

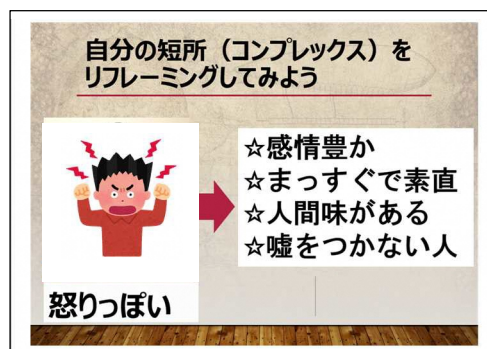
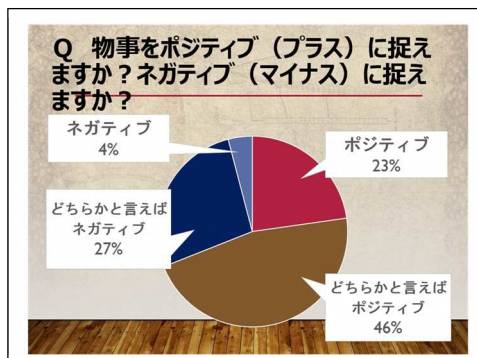


【令和2年度（2020年度）】発表テーマ：「リフレーミングについて」

自分の性格や考え方がネガティブであったり、自信が持てない人もいることから、保健委員会では「リフレーミング」について発表をした。

・自分自身の考え方を換え、自己肯定感をあげる

自分の性格や思考の、見方を変えるリフレーミングの方法を伝え、自分を肯定できるようにすることを目的とした。



・相手を支える立場になったとき、相手の自己肯定感を高める。

相手から相談された時にリフレーミングを行い、相手のいいところを再発見するなど、それまで相手が気付かなかったことを助言し、問題解決へ導いていくことを目的とした。



#### (4) 研修・講演会の実施

生徒や職員の「リーダーシップ教育」についての理解と意識を深めるために研修及び講演会を行った。令和2年度(2020年度)は、新型コロナウイルス感染予防のため、計画通りの研修や講演会は実施することができなかった。

##### ア 職員研修

【令和元年度(2019年度)】

##### ① スクールカウンセラーによる講話(職員研修)(6月)

「生徒への理解をより深めるために ～“気づき”のポイントについて～」

講師 臨床心理士 高木 ひろみ 先生(スクールカウンセラー)

##### ② 研究の理論的背景について(8月)

「権限によらないリーダーシップで発するSOS」

講師 株式会社イノベスト代表取締役 松岡 洋佑 氏

##### ③ カリキュラム・マネジメントの主体について(8月)

「カリキュラム・マネジメント」 ファシリテータ 赤峯主幹教諭

##### ④ 感情のコントロールについて(11月)

「アンガーマネジメント」 講師 社会保険労務士 川内 恵里氏

【令和2年度(2020年度)】

「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業

～ソーシャルスキルとは?から考える～

熊本県教育庁県立学校教育局

学校安全・安心推進課 いじめ防止推進班 田上 繁樹 指導主事

##### イ 講演会

【令和元年度(2019年度)】

##### ① 主体的な在り方について(7月)

進路講演会

「年中夢求 ～24時間をデザインする～」 講師 宇城市教育長 平岡 和徳 氏

##### ② 適切なSOSの出し方について(7月)

1年生性教育講演会

「デートDVって何？」 講師 熊本県人権擁護委員会 男女共同参画委員

【令和2年度(2020年度)】

適切なSOSの出し方について(12月)

1年生性教育講演会

「デートDVって何？」 講師 熊本県人権擁護委員会 男女共同参画委員

#### (5) 生徒の自己肯定感の調査

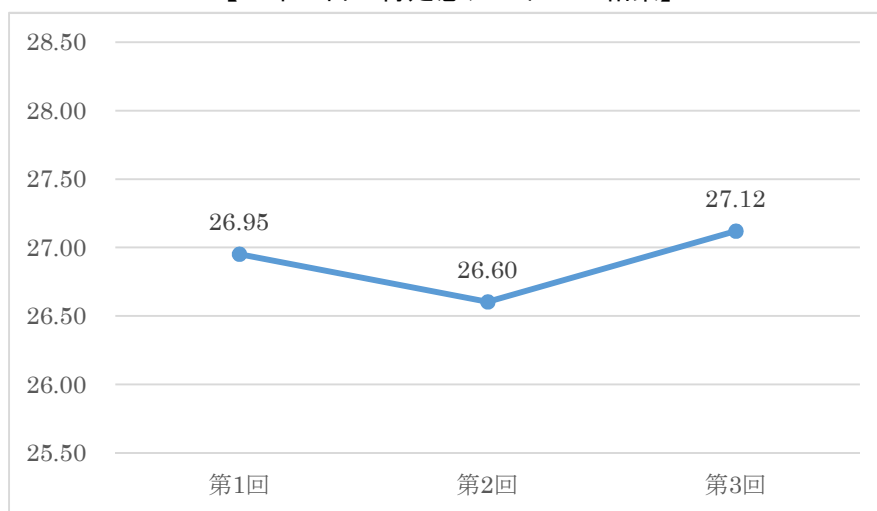
生徒の自己肯定感の在り方と変容を見るためにアンケートを実施した。対象生徒は1年生412名、2年生410名である。1年生は1年間(令和2年度)、2年生は2年間(令和元・2年度)、4月に1回目、9月に2回目、2月中旬に3回目を実施した。

質問項目は10項目、それぞれを4点満点で集計した。結果は集約し当該学年に配付した。前回と比較し点数が大きく減少した生徒に対しては、詳細な状況把握と心理的ケアを目的として担任による個人面談を行った。

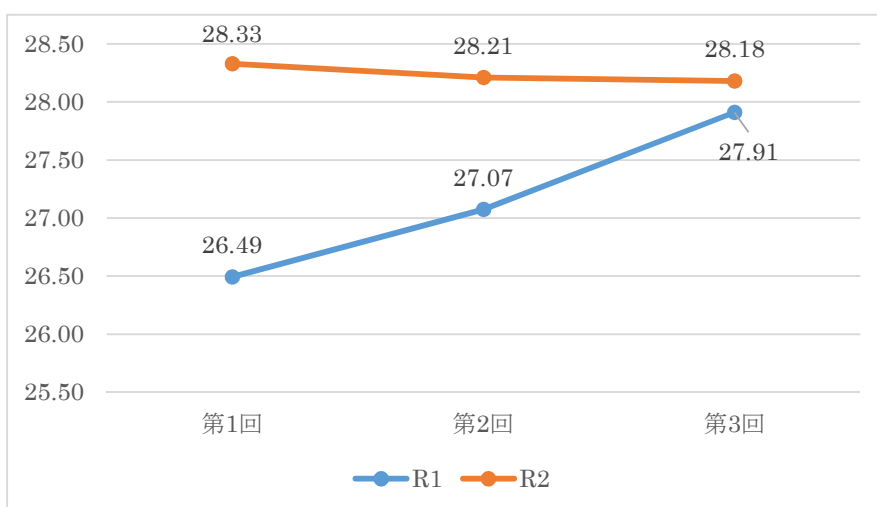
【アンケート項目】

- 1 私は、自分自身にだいたい満足している。
- 2 時々、自分はまったくダメだと思うことがある。
- 3 私にはけっこう長所があると感じている。
- 4 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる。
- 5 私には誇れるものが大してないと感じる。
- 6 時々、自分は役に立たないと強く感じることもある。
- 7 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じている。
- 8 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う。
- 9 よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう。
- 10 私は、自分のことを前向きに考えている。

【1年生自己肯定感アンケート結果】



【2年生自己肯定感アンケート結果】



○自己肯定感アンケート結果考察

【1年生の結果】

1回目より2回目が低下しているが、3回目は1回目と同程度の値まで回復している。この背景には、2回目は、コロナ禍における行事の縮小・中止、休校などで、対人交流及びコミュニケーション機会が減ったこと等の影響があると思われる。3回目は行事等も少しずつ実施され、一年間の「SOSの出し方に関する教育」取組により、入学当初まで回復したといえるのではないかと考える。

【2年生の結果】

1年次（R元年）は点数が右肩上がり、2年次（R2年）の第1回目も1年次3回目の得点より少し高く維持されていた。1年間の取組により、自己肯定感が高まったといえる。

2年次は微減であるが、統計上有意差はないかとみなすことができ、多くの生徒が1年次に形成した自己肯定感を維持できているといえる。また、社会の状況、コロナ禍の影響は、1年生よりも少ないといえる。それは、1年生が高校入学という環境の変化とコロナ禍の状況が重複し、より影響が大きかったこと、2年生は自己肯定感を獲得し、安定していること、つまり自己理解・自己受容が確立してきていること、によると考えられる。

(6) 授業評価アンケート

1学期末と2学期末に実施する生徒の授業アンケートについて、令和元年度に主体的な学びを推進する観点などから、教務部で項目の改訂を行った。

回答は4件法で、4 そう思う、3 どちらかというと思う、2 どちらかというと思う、1 そう思わない から選択する。

【令和元年度（2019年度）】アンケート結果

B あなたは授業内容に触発され、更に学習しようとする意欲が高まりましたか。

4の割合	1学期	2学期	2学期—1学期
普通教科	37.3%	41.7%	+4.4%

D 先生は、発表や質問、グループ活動や意見交換などの活動場面を設けていますか。

4の割合	1学期	2学期	2学期—1学期
普通教科	54.0%	57.6%	+3.6%
実技教科	41.8%	52.8%	+11.0%

【令和2年度（2020年度）】アンケート結果

D 先生は、発表や質問、グループ活動や意見交換などの活動場面を設けていますか。

	7月（1学期）				12月（2学期）				増減（2学期-1学期）			
	1年	2年	3年	3学年平均	1年	2年	3年	3学年平均	1年	2年	3年	3学年平均
普通教科	76.9%	88.5%	92.9%	86.1%	82.5%	63.0%	93.6%	79.7%	5.6%	-25.5%	0.6%	-6.4%
実技教科	75.9%	85.3%	75.4%	78.9%	74.0%	55.7%	93.1%	74.3%	-1.9%	-29.6%	17.7%	-4.6%

#### 【授業アンケート結果考察】

令和元年度（2019年度）は、リーダーシップ教育を実施して初年度であったが、特に1学年で多くの教科で取り組んだため、「先生は、発表や質問、グループ活動や意見交換などの活動場면을設けていますか。」という質問には、1学期に比べると2学期は、普通教科・実技教科とも「そう思う」と回答した生徒は、有意な増加を示した。

令和2年度（2020年度）は、新型コロナウイルス感染症予防のため教科の授業内容が制限された部分があった。「先生は、発表や質問、グループ活動や意見交換などの活動場면을設けていますか。」という質問には、1学期に比べると2学期は1年生の普通教科では多少増加したものの、全体的には普通教科・実技教科とも減少することとなったが、全体的には、約80%と高い値を示している。

#### （7）学校評価アンケート

職員による学校評価アンケートを例年1月に実施している。学校経営の中で、「SOSの出し方に関する教育」の項目を作っている。4（十分達成）3（おおむね達成）2（やや不十分）1（不十分）で評価し、平均を行う。令和元年度（2019年度）の平均点は、2.9ポイントだったが、令和2年度（2020年度）の平均点は、3.2ポイントとなり、0.3ポイント増加している。

#### 4 成果と課題

研究指定校として2年目を迎えた。事業の内容では、「リーダーシップ教育の要素を取り入れた授業の展開」や「エンカウンター」に特に力を入れてきた。

「リーダーシップ教育の要素を取り入れた授業の展開」では、多くの教科で実践することができ、それが「主体的・対話的で深い学びの視点」からの授業改善に繋がったことが分かった。リーダーシップ教育の3要素（目標設定・共有、同僚支援、率先垂範）は、新指導要領の評価の観点「学びに向かう力、人間性」に繋がるものでもあり、今後も積極的に取り入れていく必要性を感じている。また、今まで「授業進度」を優先して生徒が主体的な授業を取り入れることが難しかった教科でも、いずれかの授業のタイミングでリーダーシップ教育の要素を取り入れることができることが分かった。公開授業や授業参観で、教師間での情報共有や他教科での授業内容を知ることができたことは成果である。

また「エンカウンター」では、スクールカウンセラーの先生方に多くの助言をいただき、新しい「エンカウンター」を生み出すことができたのは、大きな成果である。特に今年度は、「コロナ禍の状況でできるエンカウンター」を実施することができた。生徒達は、そのエンカウンターの中で、アクションや表情などの「非言語的コミュニケーション」の重要性を知ることができた。また、「エンカウンター」を通して自己理解、他者理解、自己受容、自己表現・自己主張、感受性（の促進）、信頼体験、役割遂行などの力を身に付けることができた。このような力をつけることが、自分には得意なことと苦手なことがあって、それが自分であると受容できること、そして困ったときは援助も求めるといふ援助希求行動がとれるようにつながると思われる。援助希求行動は自殺防止、いじめの防止にもつながると考える。また、同一の「エンカウンター」を実施することにより、職員の情報共有もでき、スキルアップに繋がったと考えられる。この汎



用的な取組は、「エンカウンター」のみならず授業に活かすこともできると考える。

また、生徒の状況を把握するために2年間実施した「自己肯定感アンケート」は、全体的な生徒の状況の変化を知ることだけではなく、個人の状況把握に活用できており、学年団と情報を共有し、個人面談の資料として活用できた。本校では、個人面談が頻繁に行われており、特に自己肯定感が低下した生徒などは、担任や教科担当者から生徒に声をかける一つの指標となった。職員全体で生徒を見守ることに繋がったと考える。

今後の課題としては、「自己肯定感アンケート」の継続実施を行い、生徒の状況把握と職員間の情報共有を進めることだと考える。また、新しい「エンカウンター」については、2年間の本校の財産として、今後も実施していきたい。授業については、「リーダーシップ教育」から繋がっている「主体的・対話的で深い学び」の視点を、新指導要領に向けて積極的に取り入れていきたい。

今年度は、コロナ禍の1年で予定計画通りに進まない部分が多分にあった。学校行事も同じで、たくさんの学校行事ができずに終わってしまった。生徒の様子から推察すると「共通体験」の機会が少ないことは、人間関係を構築することの難しさや「学習以外」で自分の力を発揮し、お互いに認め合うことの機会の減少に繋がる。今年1年で、学校行事や「エンカウンター」の重要性を再認識することができた。今後は、「生徒が活躍できる場面」を作ることができるよう、コロナ禍でもできる学校行事を模索していきたい。

## 7 資料

- (1) SOSの出し方に関する事業実施状況（令和元年・令和2年）
- (2) 自校肯定感アンケート用紙
- (3) エンカウンター1「新聞タワー」指導案及びワークシート
- (4) エンカウンター2「漢字ゲーム」指導案及びワークシート
- (5) エンカウンター3「サインを読み取ろう！」指導案及びワークシート
- (6) エンカウンター4「共同絵画」指導案及びワークシート
- (7) 令和2年度研究授業（理科（物理））指導案及び資料
- (8) 令和2年度公開授業デザインシート
  - ア 公民
  - イ 数学
  - ウ 理科（生物）
  - エ 保健体育
  - オ 英語
  - カ 家庭
  - キ 情報
- (9) 令和2年度研究発表会参観者によるアンケート集計

# 「SOSの出し方に関する教育」研究指定校実施状況報告

熊本県立済々黌高等学校

## (1) 令和元年度(2019年度)「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業実施状況(第1学年)

月	関連行事等	SOSとのつながり
4	1 職員会議	・SOS具体案の周知
	1 宿泊研修エンカウンター資料	・ワークショップ案の作成
	5 県通知	・教安第9号
	12~14 新入生学習合宿	・アンケート1 ・ワークショップ実施
	15~26 面談週間	・学校への適応
5	16 主幹課からの指導助言	・計画書の作成、方向性等
	17 同心会総会	・保護者への事業の周知 ・保護者研修(SC)
6	13 公開授業	・コ英語I・5限・1-6・竹原
	14 人権教育講話	・「e-ネット安心講座」インターネットと人権 講師 兼松コミュニケーションズ株式会社 黒川 智章 様 SNSの危険性とSOSの出し方 * * 1年から高校生県議会参加希望者4人(前年度0)
	21 いじめ人権アンケート	
	25 生徒理解職員研修	・職員研修・SC 高木先生
	* * 28 運動部活動リーダー研修	・キャプテン、希望者 「リーダーシップ」
7	3 1年進路講演会	・「年中夢求 ~24時間をデザインする~」 宇城市教育長 平岡和徳氏
	8 生徒会立会演説会	* * 1年生から立候補者10人(前年度6人)
	10 いじめ防止対策委員会①	・職員・保護者研修(SC 足田先生)
	11 学校評議員会	・事業の説明 ・公開授業2教科目 主体的協働的な学びの授業 ・国語・2-8・益田
	12 性教育講演会	・「デートDVって何?」 熊本県人権擁護委員会 男女共同参画委員 適切な人間関係とSOSの出し方
8	1~9 校外研修(1学年)	・北九州学術研究都市1~3(23人) 5~7(24人) ・熊本大学1~2(41人) 8~9(46人) ・JICA6~8(40人)
	23 職員研修	・権限によらないリーダーシップで発信するSOS 講師 株式会社イノベスト代表取締役 松岡洋佑氏
	29 職員研修	・カリキュラム・マネジメント
9	6・7 文化祭	・保健委員会「ストレス対処について」「アンケート調査」発表 ・JRC部、献血の取組 54人
	面談週間	・進路、学習上の悩みについて ・アンケート2(SOS)
	13 SOS公開授業の派遣(依頼)	・南稜高校(10月23日)
	18 中間報告	・運営委員会でこれまでの取組、今後の方向性について
	201学年LHR	・エンカウンター
	24 主幹課からの指導助言	・公開授業の方向性などについて
10	3 生徒理解職員研修	・職員への中間報告
	上旬	・公開授業案内発送
	23 他校公開授業の参加	・南稜高校
11	11 公開授業(済々元気DAYS)	・3教科目
	13 学校保健委員会	・保健委員会「ストレス対処等」
12	3~6 修学旅行	・スタディーツアー
	13 成果発表会(GC)	・生徒の姿(自分の考えをもち相互にディスカッションする)
	いじめ防止対策委員会②	・職員・保護者研修(SC)
1	次年度へ向けての提言~3月	
2	学校評議員会	・事業の報告
3	いじめ防止対策委員会③	・職員・保護者研修(SC)

(2) 令和2年度(2020年度)「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業実施状況(第1・2学年)

月	関連行事等	SOS	月	関連行事等	SOS
4	職員会議 面談 新入生リエンション 自己肯定感アンケート①	・職員への周知 ・各教科、校務分掌の企画の集約 ・SCによる講話	10	生徒理解研修② 中間報告 エンカウンター①(2学年)	・職員への中間報告
5	同心会総会 ※書面	・保護者への事業の周知	11	公開授業 (済々元気DAYS) 学校保健委員会	・教科(英語・数学・公民・理科・体育・情報・家庭)
6	面談 エンカウンター① (1学年) 生徒理解職員研修① 学校評議員会※書面	・職員への具体案の周知 ・事業の説明	12	研究発表大会(12/4) ※オンライン 成果発表会(GC) いじめ防止対策委員会②	・SGR ・職員・保護者研修(SC)
7	いじめ防止対策委員会① SOS関連公開授業	・職員・保護者研修(SC) ・家庭科	1	エンカウンター② (1年生)	
8	職員研修	・学校安全・安心推進課(田上指導主事)	2	学校評議員会(書面) 自己肯定感アンケート③ いじめ防止対策委員会③	・事業の報告
9	文化祭 面談 自己肯定感アンケート②	・保健委員会発表	3	事業のまとめ・報告	・職員・保護者研修(SC)

このアンケートは教育相談部の資料のみとして使います。今の自分として考え、下の文章の質問項目で当てはまるものに○を付けて下さい。最後に、点数の合計の記入をして下さい。

- 1 私は、自分自身にだいたい満足している。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)
- 2 時々、自分はまったくダメだと思うことがある。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 3 私にはけっこう長所があると感じている。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)
- 4 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)
- 5 私には誇れるものが大してないと感じる。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 6 時々、自分は役に立たないと強く感じることもある。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 7 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じている。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)
- 8 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 9 よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 10 私は、自分のことを前向きに考えている。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)

合計点数( )点

# 新聞タワー指導案

令和 2,4,1(水)  
教育相談部

## 1 目的

リーダーシップ教育として共同作業を通して、仲間との協働性を身に付け、集団への貢献を考える力、他者と協働して課題解決へ向かう力を育成する。

## 2 準備物

新聞紙 6枚(教育相談部より)  
セロハンテープ(持参) メジャーまたは物差し(家庭科より貸出)

## 3 展開(60分)

時間	活動内容	留意点
10分	<p>班編成(5~6人の班)</p> <p>アンケート実施(別紙)</p> <p><b>目的の確認</b> 時間内にできるだけ高い新聞タワーを作ることを通して、新しい仲間と協力することを目的とする。</p> <p><b>アイスブレイク</b> しりとり自己紹介</p>	<p>○協働作業を行うことにより、お互いのよさを見つけたり、互いに協力し合ったりという意識を高める。</p> <p>○グループ内ではじめに自己紹介をした人の名前の最後の一文字をとり、その言葉から始まる自分を説明するような形容詞を付けて自己紹介。 (例) せいせいたろう→ うるわしいとよく言われるやままだはなこです</p> <p>※時間があれば2周・3周する</p>
20分	<p><b>ワークショップ①</b>(ワークシート)</p> <p>新聞タワーの説明(5分) (注意事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新聞紙6枚を使用</li> <li>2 紙は折り曲げても切っても良い</li> <li>3 はじめに、作戦タイムを行う。</li> <li>4 作戦タイムは紙1枚にだけ触れていい。</li> </ol> <p>◇作戦タイム(5分)→組み立て(5分) ※組み立てタイム終了後、全員がタワーから手を離し、10秒間直立なら成功</p> <p><b>振り返り①</b>(5分)</p> <p>◇自己評価、良かった点、改善点を話し合う。 (振り返りポイント)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 互いが意見をを出し合うことができたか</li> <li>2 役割分担をして、進めることができたか</li> <li>3 よい考えを認め、共有して作成できたか</li> <li>4 時間を意識して、協力できたか</li> </ol>	<p>○新聞タワーの作成方法を説明、注意事項を確認。2回戦行うことを伝える。 自分の考えを伝えたり、仲間の話をよく聞いたりして、互いに協力しようとする姿を認める。</p> <p>○1回目の新聞タワーを見ながら、感じたことや気付いたこと、よかったこと、改善点を交流し、第2回目に、さらに高いタワーを作成するためには、どうしたらよいかを話し合うようにする。</p>
20分	<p><b>ワークショップ②</b>(ワークシート)</p> <p>◇作戦タイム(5分)→組み立て(5分) ※終了後、タワーの高さを計測して発表(5分)</p>	<p>○できるだけ高いタワーを完成するためには、チーム全員で知恵を出し合い、作戦を立て、協力することの大切さを助言。</p> <p>○協力して積み上げていく中で、仲間に合わせてたりコミュニケーションをとったりしている姿を褒める。</p>
5分	<p><b>振り返り</b>(ワークシート)</p> <p>ワークシートに感想等をメモし、交流</p>	
5分	<p><b>リーダーシップ教育について</b></p> <p>◇本校でこれから行うリーダーシップ教育について述べる 本事業で目指す本校生に求める姿・自己理解のフェーズ・リーダーシップ行動のフェーズについて説明 ◇今後も活動を行うことを確認</p>	<p>○別紙参照 ※スクールカウンセラー(高木先生)によるまとめ</p>

## 高い新聞タワーを作ろう！

1年 組 号 氏名 \_\_\_\_\_

### 新聞タワー1

#### チームの作戦1

--

#### 振り返り(1回目について)

	振り返りポイント	自己評価○○△
1	自分の意見を出すことができた。	
2	自分の役割を意識して作成した。	
3	仲間のよい考えを認め共有できた。	
4	時間を意識して、協力できた。	

#### ☆自分のチームについて 良かった点 & 改善点

--

#### チームの作戦2

--

(感想)・新聞タワーを仲間と一緒に作り、振り返りをしてどうだったか？  
・今日学んだこと・考えたことは何か？

--

# 漢字ゲーム(質問によりリーダーシップを発揮する) 指導案

R3年,1,8(金)  
教育相談部

## 1 目的

質問によってリーダーシップを発揮出来ることを体験する。  
自己理解・他者理解を深め、他者と協働して課題解決へ向かう力を育成する。

## 2 準備物

筆記用具

## 3 展開(50分)

時間	活動内容	留意点
10分	本日のHRの目的を述べる。 「質問することで、相手が思い描いている漢字を当てるゲームを行う。質問力を高めることが相手を引き出し、リーダーシップを発揮することにつながる。」  ※担任の先生方は、漢字を2種類考え、紙に書いておく。(昨年度の職員研修で実施したときの漢字は「助」と「徳」でした)	
10分	生徒達は5人程度の班を作成する。 <b>ワークショップ①</b>  ・各班1名に、正解の漢字を教える。 ・他の班員は、その漢字を導くための質問をする。質問は、制限時間内で繰り返す。正解が出れば終了。 ※①出題者は、一度に一つの答えしか言えない。 ②出題者は、質問された内容にしか答えることができない。 ③訓読み・音読みを聞くのはNG 例:「忍」について「忍ぶ」「ニン」はだめ	○時間があれば簡単なアイスブレイク  * 質問の仕方、返答の仕方について、具体的に説明をする ○閉じた質問 ・「はい・いいえ」など、相手の話し方が限られる質問 ・論点を絞り込みたいときは有効 ・決断を迫るときは有効
10分	<b>ワークショップ②</b>  ・2種類目の漢字で同じワークショップを繰り返す。	○開いた質問 ・5W1H(What When Who Where Whh How) ・たくさんの情報が欲しいとき ・相手に考えさせたいときは有効
10分	<b>振り返り</b>  ・漢字ゲームで、チームメンバー全員に対してポジティブ面を振り返る。 ・ワークに振り返りを記入し、グループ内で発表。その後、いくつかのグループは全体の前で発表する。	○どんな状況でどんな質問がどう影響したかを振り返る。 例:「質問が思い浮かばなかったときに、Aさんが初めに質問をしてくれたので、自分の聞きたいことが引き出せた」 ○批判的な態度をとらず、傾聴する。
10分	<b>まとめ</b>  質問によりリーダーシップを発揮するために ①目標設定と共有(成果目標を掲げ、共有) → 質問によって確かめる ②率先垂範(成果達成のため、自ら動く) → 質問によって口火を切る ③相互支援(他人を巻き込み支援する) → 質問によって支援 質問によって支援を求める	○目標にたどり着くときに、他者の力を借りても良いことを理解する。  ○誰でもがリーダーシップを発揮出来ることを理解する

ワークシート

漢字ゲーム（質問によりリーダーシップを発揮する）

1年組号 氏名 \_\_\_\_\_

班員：( \_\_\_\_\_ )

ワークショップ①

私の考えた質問

印象に残った他の人の質問

ワークショップ②

私の考えた質問

印象に残った他の人の質問

【 振り返り 】

☆チームメンバー全員に対して、良かった面を考えよう。  
(どんな状況で、どんな言動が、私にどのように良く影響したか)

ワークショップ①

ワークショップ②

☆今日のグループワークから考えたことは何ですか？



# 「サインを読み取ろう！」指導案

令和2, 5, 27(水)  
教育相談部

## 1 目的

リーダーシップ教育として非言語的コミュニケーションにより仲間とのコミュニケーションの大切さに気づき、他者を理解し、他者と協働して課題解決へ向かう力を育成する。

## 2 準備物 ワークシート

## 3 展開 (30分～50分)

時間	活動内容	留意点
(5分)	班編成(10人の班) ※班が4つできるが、最初に活動する班は、2つであとは見学。	
	<b>目的の確認</b> 言葉を発せず、ジェスチャーだけ(非言語的コミュニケーション)で相手に気持ちや伝えたいことを伝えたり相手から読み取ったりする力を身に付ける。	○言葉以外にも伝達方法があり、それを使ったり読み取ることが自己を表現し、相手を理解することにつながる。(自己表現と他者理解)
(15分) ※並ぶ時間は約5分 答え合わせの時間が約5分	<b>ワークショップ①</b> (1) 10人のグループでジェスチャーにより、自分の下の名前でアイウエオ順に並ぶ。言葉は発しないこと。 (2) 10人のグループが2つ集まり、ジェスチャーにより自分の下の名前でアイウエオ順に並ぶ。 ※20人集まった所で順番に名前を言うていく。(答え合わせ)	○20人の活動。残りの20人は、活動を見て誰のどんなところが良かったのかを観察してワークシートに記入。 ※良かった点に注目するのがポイント  ○ヒントを出してもOK 「あ」から始まる名前なら頭をさし、一番上の文字であることを示すなど。
(20分) ※並ぶ時間は約5分 答え合わせの時間が約5分	<b>ワークショップ②</b> 次の20人のグループと交代する。 (1) 10人のグループでジェスチャーにより、誕生日順(1月1日から12月31日まで)に並ぶ。ただし、数字を指で示すのは不可。また、言葉は発しないこと。 (2) 10人のグループが2つ集まり、20人でジェスチャーにより、誕生日順(1月1日から12月31日まで)に並ぶ。ただし、数字を指で示すのは不可。また、言葉は発しないこと。 (3) 担任の先生がジェスチャーにより自分の誕生日を示す。それを見て当てはまる場所に生徒が担任の先生を招き入れる。 ※担任の先生が入った所で順番に誕生日を言うていく。(答え合わせ)	○20人の活動。残りの20人は、活動を見て誰のどんなところが良かったのかを確認してワークシートに記入。 ※良かった点に注目するのがポイント  ○ヒントを出してもOK 「8月」生まれなら、海水浴のジェスチャーをするなど。  ○担任の先生方もグループに入られた方が活動が活発になると思います。 ※誕生日を生徒達が知っていてもOK
(5分)	<b>振り返り</b> (ワークシートに記入する)	○自己表現と他者理解(他人の良い点への理解)を深めることができたか。
(5分)	◇記入した後、時間があれば数人に発表させる。 ◇本校でこれから行うリーダーシップ教育について述べる 本事業で目指す本校生に求める姿・自己理解のフェーズ・リーダーシップ行動のフェーズについて説明 ◇今後も活動を行うことを確認	○人と接する時に、言葉も含め、他人のサインを感じることも重要だが、自分からサインを発することも大切であることに触れる。  ○別紙参照

「サインを読み取ろう！」

1年 組 号 氏名 \_\_\_\_\_

活動1( 参加 ・ 見学 )

活動1のテーマ ( )

活動1で誰のどんな伝え方が良かったのか、わかりやすかったのか。誰のどんな受け取り方、サインを受け取る態度が良かったのかなどを振り返ってみましょう。

活動2( 参加 ・ 見学 )

活動2のテーマ ( )

活動2で誰のどんな伝え方が良かったのか、わかりやすかったのか。誰のどんな受け取り方、サインを受け取る態度が良かったのかなどを振り返ってみましょう。

(感想)・仲間と一緒に活動をして振り返りをしてどうだったか？  
・今日学んだこと・考えたことは何か？

# 「共同絵画」指導案

R2,10,28(水)  
教育相談部

## 1 目的

リーダーシップ教育として協働作業を通して、他者理解を深め、支援行動や援助希求行動を経験し、他者と協力して課題解決へ向かう力を育成する。

## 2 準備物

- ①用紙(A3の白紙) 班で1枚 ③複数のテーマが書かれた紙(担任用)  
②ワークシート(全員分) ※絵を描く道具は各自の持ち物を使用

## 3 展開(50分)

時間	活動内容	留意点
5分	<p>班編成(4~5人の班) 8班~10班でクラス裁量</p> <p><b>目標の確認</b> 「声を出さないでコミュニケーションを行い、グループでまとまりのある1枚の絵を完成させる。」 ・各々のリーダーシップの在り方を考えさせることが目的ですので、グループにどのように貢献できるのか考えながら頑張るようにご指導お願いします。</p> <p><b>アイスブレイク</b>(必要があれば) (例)「実は、自己紹介」</p>	<p>○マスク着用の確認 ○クラスで協働作業を行うことにより、他者理解を深める。 ○言葉を使わない →ジェスチャーや表情で工夫する →よりお互いの気持ちに注意を向けられる</p> <p>○自己紹介をするときに、「実は」という言葉を入れて自己紹介をします。 (例)「実は」私、音楽はクラシックが大好きです。※プライベートなことが少しだけ話しやすいくなる。</p>
25分	<p><b>ワークショップ</b>(注意事項) 1 班の1名に、絵画のテーマを教える。 2 テーマを知っている人から順番に1人ずつ絵を描いていく。(一人約1分×グループの人数、合わない時は2回描く生徒が出る) →そのテーマに沿った絵画を制限時間の中で完成させる。 →描いている以外の生徒は、テーマを予想するために工夫してコミュニケーションを行う。</p> <p>※ルール ①声を出さない ②制限時間 最大10分 ③班の全員が描く</p>	<p>○ジェスチャーやアイコンタクトはOK ○テーマを知っている人から描く ○相手の行動や絵画より、<u>テーマを読み取る</u>。 →他のメンバーがどのようなテーマで描こうとしているのかを読み取る</p>
15分	<p>3 完成したら、クラスに絵を見せ、テーマ(分からない場合はタイトルをつけさせて)発表させる。</p> <p><b>振り返り</b>(ワークシート) ワークシート記入の時間をしばらく設けた後、グループ内で他の人の良かったところを発表させる。 特に、誰のどんな行動がテーマをイメージすることに繋がったか、自分がどんなサインを出したのかなど、良かった点をグループで出し合う。</p>	<p>○2回実施することも可能</p> <p>○個人やグループで良かった点を振り返る(ポジティブフィードバック) ○正解・不正解だけでなく、導き方や理解の仕方、やり取りに目を向ける。</p> <p>○各グループでの振り返りを全体で共有する。時間がなければ、数グループに発表してもらう。</p>
5分	<p><b>リーダーシップ教育について</b> リーダーシップ行動の3要素 ①目標共有 ②率先垂範 ③相互支援(支援をしたり支援を求めたりすること)</p>	<p>○グループの中で、各自の取り組みやすいリーダーシップの形を確認し、権限がなくてもグループに貢献できることを理解する。</p>

ワークシート

共同絵画

2年 組 号 氏名

班員:( )

～ワークショップ～

☆私の考えたテーマ :( )

☆実際のテーマ :( )

【 振り返り 】

☆テーマを共有するために、他の人のどんな行動が良かったのかを振り返ろう。

(班員のどんな行動や表情が、ヒントになったのか)

☆テーマを共有するために、自分が出したどんなサインが絵画の完成に繋がったのか？

☆今日のグループワークから考えたことは何ですか？

# 物理学習指導案

令和2年(2020年)11月10日(火)2限目

教科・クラス：物理 2年6組

(男子27名 女子13名)

担当者：教諭 中山 武也

## 1 単元名 第4章 円運動と万有引力 (3) 単振動 (使用教科書：改訂版 物理(数研出版))

### 2 単元観

本単元では等速円運動を学習(速度, 周期, 角速度, 向心加速度及び向心力)の軸とし, 等速円運動の見方・考え方を活用しながら, 単振動や万有引力による惑星運動(円軌道・楕円軌道)への理解へつなげる。これらの内容は物理基礎を含む力学全分野の既習事項とも関連が深く, この単元を通じて力学分野の総合的な理解を図る。

### 3 生徒観

2年6組は全員物理選択者であり, 物理をはじめとする自然現象や科学技術に対して興味関心が高い。授業を行っている物理準備室では座席の指定をしていないが, 最前列の席で常に授業を受ける生徒が複数おり, クラスの核になる存在が育ってきている。

生徒は10月までに, 運動方程式, 力学的エネルギー保存則, 運動量保存則の学習を終えており, 力学分野における基本法則及び概念についての基礎知識が定着してきている段階である。

一方で, 物理に対して苦手意識を持っている生徒もいるため, 教師や周囲の生徒がサポートしながら学習を展開する必要がある。

### 4 指導観

角速度(弧度法による表記を含む), 向心加速度及び向心力については中学校では未学習の概念であるので, 学習の際には, 観察, 実験だけでなく, コンピュータのシミュレーションや動画教材を利用してイメージを持たせて理解を促していきたい。

併せて, 本単元では三角関数や微積分といった数学の内容を含むため, 進度や指導内容等, 数学科との連携を図りながら進めていく必要がある。

また, 実験や問題演習の際には, 本研究の主題であるリーダーシップの三要素についても適宜触れながら生徒のリーダーシップ及び援助希求力の育成を図っていく。

### 5 単元の目標と本時の評価規準

- ・円運動をする物体の様子を表す物理量(周期, 角速度, 向心加速度, 向心力)やそれらの関係式を理解する。
- ・単振動をする物体の様子を表す物理量(変位, 速度, 加速度, 周期, 角振動数, 復元力)やそれらの関係式を理解する。
- ・単振り子の実験を通じて, 単振り子の周期, 等時性を理解するとともに実験の技法及びデータの処理の仕方について理解する。

#### 本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・学習活動の目的を理解し, 主体的に参加することができる。 ・同僚支援及び援助希求ができています。	・単振り子の周期の公式の振り子の長さやどの部分に当たるのかを考察している。 ・データの処理の仕方による精度の違いについて理解している。	・実験器具(ノギス)を正しく使用し, 正確な測定ができています。 ・データの処理が正確にできています。	・単振り子の周期について理解している。 ・誤差の取扱いについて理解している。

## 6 単元計画

### 第4章 円運動と万有引力 (3) 単振動 (12時間)

- (1) 等速円運動 (3時間)
- (2) 慣性力 (2時間)
- (3) 単振動 (3時間)
- (4) 万有引力 (3時間)
- (5) 探究活動 (1時間) 本時

#### 指導計画と評価基準

時	学習目標	学習活動	評価の観点				評価基準B及び評価方法
			関	思	技	知	
1~3	円運動する物体の様子を表す方法やその物体にはたらく力などについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演示実験をもとに円運動の特徴を理解する。</li> <li>・ 数式を用いて円運動を表す。</li> </ul>	○			○	向心力・向心加速度等の円運動を表す方法について理解している。 【ワークシート】 【定期考査】
4~5	等加速度直線運動から見た物体の運動の取扱いについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シュミレーション等を通じて観測者の立場によって物体の運動が異なって見えることを理解する。</li> <li>・ それぞれの観測者で矛盾なく運動が記述できるように慣性力を取り入れて運動を表す。</li> </ul>		○		○	慣性力を考慮してエレベーター内の体重計の値や無重量状態の様子を説明することができる。 【ワークシート】 【口頭試問】 【定期考査】
6~8	単振動する物体の様子を表す方法やその物体にはたらく力などについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演示実験をもとに単振動の特徴を理解する。</li> <li>・ 数式を用いて単振動を表す。</li> </ul>		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単振動を等速円運動の関連性について理解している。</li> <li>・ 復元力等の円運動を表す方法について理解している。</li> </ul> 【ワークシート】 【定期考査】
9~11	ケプラーの法則について理解する。万有引力による惑星等の運動について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコンのシュミレーションや実験動画をみてケプラーの法則について理解する。</li> <li>・ 万有引力及びその位置エネルギーを数式を用いて表す。</li> </ul>	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケプラーの法則を用いて惑星の公転周期を求めることができる。</li> <li>・ 万有引力を用いて第一宇宙速度、第二宇宙速度、静止衛星の軌道など求めることができる。</li> </ul> 【ワークシート】 【定期考査】
12	単振り子の周期の式から重力加速度を求める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験で単振動の周期を求める。</li> <li>・ 測定値から重力加速度を算出する。</li> </ul>	○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダーシップの3要素を理解し、全員が協力して実験に取り組んでいる。</li> <li>・ 単振動の周期から重力加速度の大きさ求めることができる。</li> </ul> 【ワークシート】 【自己評価表】

## 7 本時の学習

### (1) 本時の目標

単振り子の実験を通じて、理論値（公式）と実験値がほぼ一致することを確認する。併せて重力加速度を求めた振り子の周期から算出し、実際の南九州における重力加速度の値  $9.795\text{m/s}^2$  と比較する。

### 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	準備物
導入 (5)分	本時の学習内容の確認	事前に4人のグループを編成しておく。 ・本日の学習内容を知らせる。 ・リーダーシップの三要素（目標共有・率先垂範・同僚支援）を理解させる。 ・自らの行動で授業に貢献するように伝える。	ワークシート
展開  実験 (20)分  データ処理 (5)分  考察 (10)分	①役割分担 ②実験器具の準備 ③実験 ④データの処理 ⑤考察	<b>単振り子の周期を測定し、その値から重力加速度を求める</b>  班で実験の内容に関する理解度を揃える  班で実験における役割分担を決める  実験の準備及び測定の練習  実験  評価：「関心・意欲・態度」「技能」 <b>B基準</b> 【態度】班の全員で実験に取り組んでいるか。 【技能】測定器具を正確に使用できているか。  <b>A基準</b> リーダーシップの3要素を理解し、協力しながら全員で実験に取り組んでいる。 測定器具の正確に使用し、有効数字を考慮してデータを測定している。  <B基準に達していない生徒への手立て> 【態度】参加できていない生徒、あるいは勝手に実験をしている生徒に対してリーダーシップの3要素について確認し態度の改善を促す。 【技能】理解できている生徒に尋ねるように促す。や教科書を参考にして、考えを深めるように促す。	ワークシート 用紙 マジック
振り返り (10)分	生徒による自己評価及び相互評価  教師による振り返り	班員で互いの実験に臨む態度について相互評価するよう指示する。  実験の取り組む様子について教師からの振り返りを行う。	

# テーマ

## 単振り子による重力加速度gの測定

### 【目的】

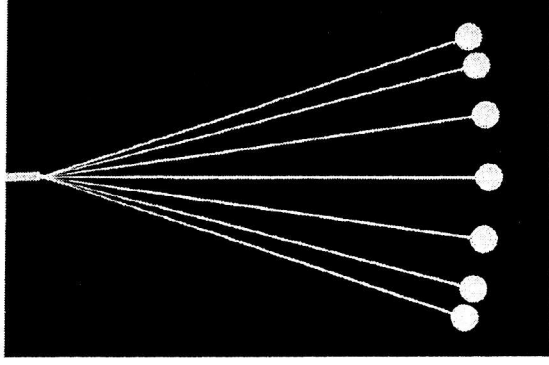
<知識・技能>

単振り子の周期 $T[s]$ が、糸の長さ $l[m]$ を用いて、下記の式で表されることを確認する。また、この式から重力加速度の大きさ $g[m/s^2]$ の値を求めめる。

$$T = 2\pi \sqrt{\frac{l}{g}} \quad g = \frac{4\pi^2 l}{T^2}$$

<思考・表現・判断力>

データの処理の仕方によって、実験値の精度が異なることについて理解する。

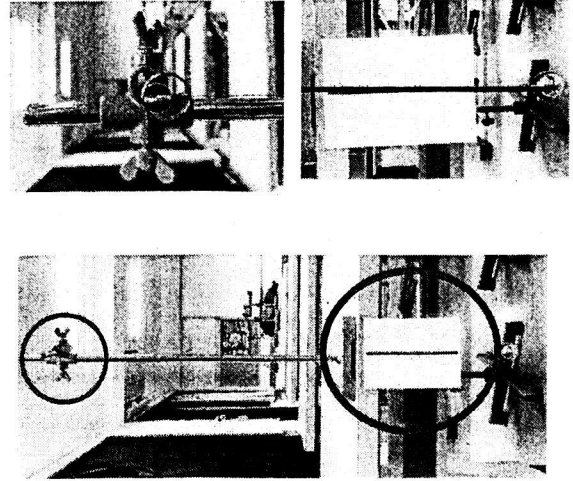
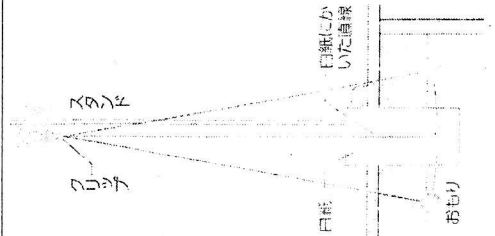


### 単振り子の周期

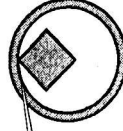
糸の長さ $l[m]$ 、重力加速度の大きさ $g[m/s^2]$ とすると単振り子の周期 $T[s]$ は以下のようになる。

$$T = 2\pi \sqrt{\frac{l}{g}} \quad g = \frac{4\pi^2 l}{T^2}$$

### 実験の準備 (セッティング)



### 事前計測



ここから測る

<1m定規で計測>

〇〇.〇cm

〇リング上端内側からおもりまでの長さ1回目          m

〇リング上端内側からおもりまでの長さ2回目          m

平均  $l_0 =$           m

<ノギスで計測>

〇.〇〇cm

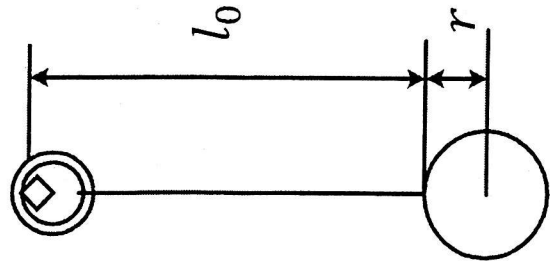
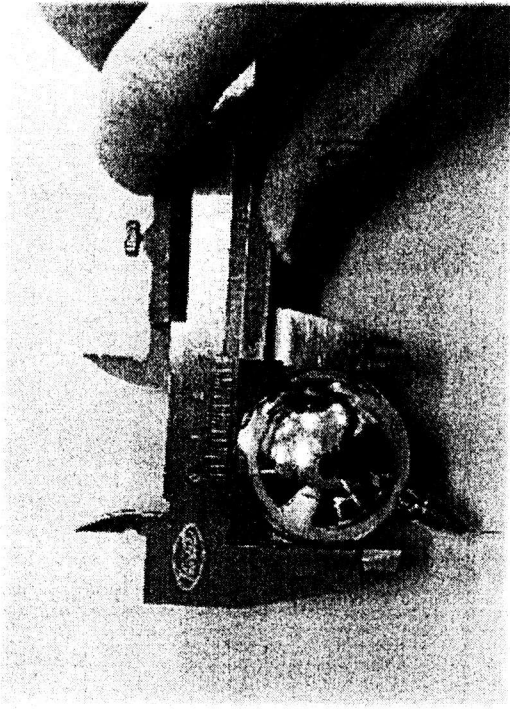
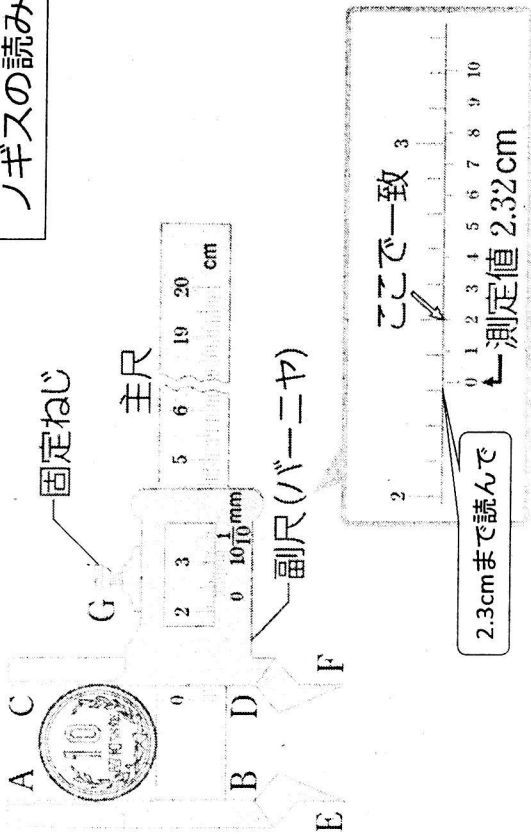
〇おもりの直径  $2r =$           m よって 半径  $r =$           m

〇単振り子の長さ  $l = l_0 + r =$           m  $=$           m

リングを含むピアノ線の長さ+おもりの半径



ノギスの読み方



単振り子の長さ

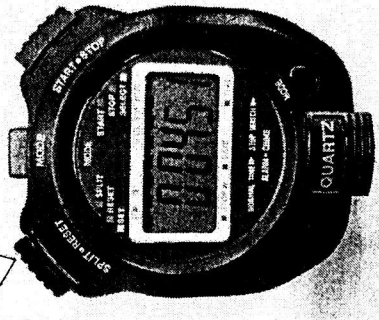
$$l = l_0 + r$$

理論値による周期 ( $g = 9.795 \text{ m/s}^2$ ) とする。

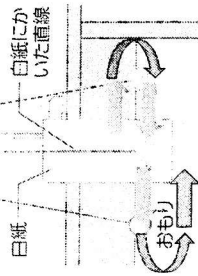
$$T_0 = 2\pi \sqrt{\frac{l}{g}}$$

回数の数え方

スタート  
ストップ



10周期ごとの  
ラップタイムをとる



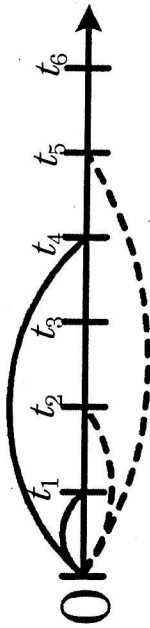
往復で1回  
とする

重力加速度の算出

円周率 ( $\pi = 3.14$ ) とする。

$$g = \frac{4\pi^2 l}{T^2}$$

	30回振動した時間	周期
$t_4 - t_1$		
$t_5 - t_2$		
$t_6 - t_3$		



【誤差 物理基礎 教科書P260】

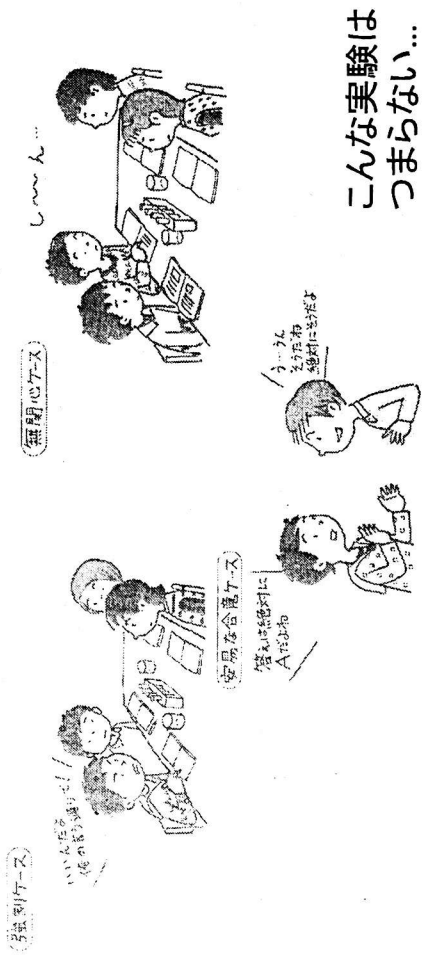
(a) 絶対誤差 (ふつつ「誤差」というと、絶対誤差のことをいう)

$$\text{絶対誤差} = \text{測定値} - \text{真の値}$$

(b) 相対誤差 (「誤差何%」というときに使う)

$$\text{相対誤差} = \frac{|\text{誤差}|}{\text{真の値}} \times 100\%$$

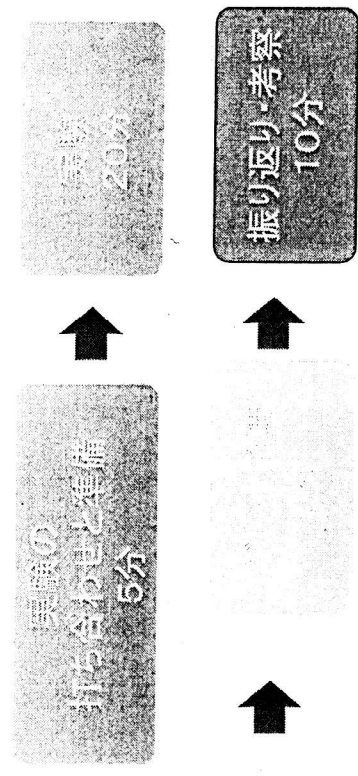
# 「リーダーシップの視点を取り入れた全員参加型の物理実験」



こんな実験は  
つまらない...

出典：理科だからできる本場の「言語活動」 東洋館出版社（2014、西川純）

# 実験の流れ



## 権限のいらないリーダーシップ三つの最小要素

- 目標設定・共有
- 同僚支援
- 率先垂範

つまり、リーダーシップは誰にでも発揮できるということです。  
そして、部活動では既に実践できていることでもあります！

そこで、今回はその3要素を実験の『態度目標』として自己評価及び相互評価してもらいます。

3	率先垂範(目標達成のために自ら動く)	目標達成に向けて課題を解決するために、率先して取り組むことができた。	与えられた役割について、積極的に関わり、取り組むことができた。	与えられた役割についても、率先して取り組むことができた。
率先垂範した場面:				
4	目標設定・共有(成果目標を掲げ、仲間と共有する)	目標達成に向け、より具体的な目標や方法を明確に提示し、確実に共有することができた。	課題の解決に向け、より具体的な目標や方法を提示したり、共有することができた。	課題の解決に向け、より具体的な目標や方法を提示したり、共有することができた。
共有した目標:				
5	同僚支援(仲間を巻き込み、支援する)	班員の考えを受け止めながら、目標達成のために必要な支援を行うことで、仲間の活動が活性化した。	班員の考えを受け止めながら、目標達成のために必要な支援を行うことができた。(あるいは支援を求めたことができた。)	班員の考えを受け止めながら、目標達成のために必要な支援を行うことができた。(あるいは支援を求めたことができた。)
行った支援(または実践してもらったこと):				

○理論値9.795[s]と実測値 $g[s]$ の相対誤差(誤差率(%))

$$\frac{|g - 9.795|}{9.795} \times 100$$

**目指せ，誤差1.0%未満<実験の技能>**

## 思考

今回の実験データの処理に対して，以下のように平均を求めた場合，仮に同じ実験結果が同じ値であったとしても，その実験値の精度は下がっている。その理由を考察せよ。【類：2020九州大学】

	10回振動した時間	周期
$t_2 - t_1$		
$t_3 - t_2$		
$t_4 - t_3$		
$t_5 - t_4$		
$t_6 - t_5$		

○ 授業ルーブリック

2年 組 号氏名

単振り子

仲間からのエール (フィードバック)					
カテゴリー		2点	1点	0点	自己評価
1 知識・技能	この実験を通して、授業で学習した物理法則や原理に関する理解が確実に深まった。	この実験を通して、授業で学習した物理法則や原理に関する理解が深まった。	この実験を通して、授業で学習した物理法則や原理に関する理解があまり深まっていない。	この実験を通して、授業で学習した物理法則や原理に関する理解があまり深まっていない。	
深まった点:				今回の物理法則 単振り子の周期	
2 思考・表現・判断力	課題の解決のために、既習内容をもとに自分の意見(仮説)を持ち、それを班員と議論することができた。	課題の解決のために、既習内容をもとに自分の意見(仮説)を持ち、それを班員に伝えることができた。	課題の解決のために、既習内容をもとに自分の意見(仮説)を持ち、それを班員に伝えることができた。	課題の解決のために、既習内容をもとに自分の意見(仮説)を持つことができなかった。	
伝えたこと(上手く伝えられなかったこと):				今回の課題 データの処理による精度の違い	
3 率先垂範(目標達成のために自ら動く)	目標達成における課題を解決するために、率先して取り組むことができた。	目標達成における課題を解決するために、率先して取り組むことができた。	与えられた役割について、概ね率先して取り組みることができた。	与えられた役割について、率先して取り組むことができなかった。	
率先垂範した場面:					
4 目標設定・共有(成果目標を掲げ、仲間と共有する)	課題の解決に向け、より具体的な目標や方法を的確に提示し、確実に共有することができた。	課題の解決に向け、より具体的な目標や方法を的確に提示し、確実に共有することができた。	課題の解決に向け、より具体的な目標や方法を提示し、だいたい共有することができた。	課題の解決に向け、より具体的な目標や方法を提示したり、共有したりすることができなかった。	
共有した目標:					
5 同僚支援(仲間を巻き込み、支援する)	班員の考えを受け止めながら、目標達成のために必要な支援を、適切に行うことで、仲間の活動が活性化した。	班員の考えを受け止めながら、目標達成のために必要な支援を、適切に行うことができた。	班員の考えを受け止めながら、目標達成のために必要な支援を行うことができた。(あるいは支援を求めることができた。)	班員の考えを受け止めながら、目標達成のために必要な支援を行うことができなかった。(支援も支援希求もできなかった。)	
行った支援(または支援してもらったこと):					

実験日	2020年	月	日	( )	第	時限目
氏名	2年	組	番	( )		
共同実験者						

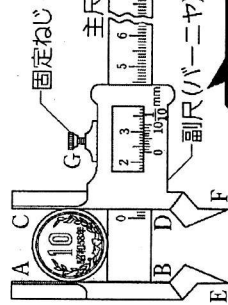
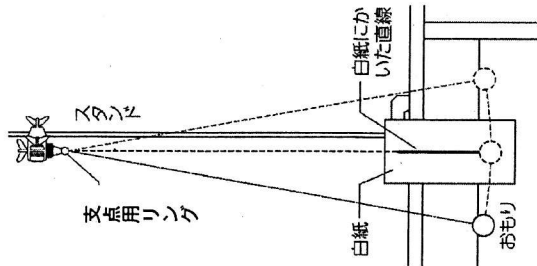
【目的】単振り子の周期  $T$  [s] が、糸の長さ  $l$  [m] を用いて、下記の式で表されることを確認する。また、この式から重力加速度の大きさ  $g$  [m/s<sup>2</sup>] の値を求める。

$$T = 2\pi \sqrt{\frac{l}{g}} \quad g = \frac{4\pi^2 l}{T^2}$$

【準備物】鉄製スタンド、ピアノ線、単振り子用金属球、支点用リング、支点用金属棒、支点用金属棒、ものさし、ストップウォッチ、白紙、ノギス、電卓

【実験方法】

- (1) おもりの直径をノギスで測定する。
- (2) 支点用リングの穴にピアノ線を通し、他端におもりをつける。ピアノ線の長さは1m弱にする(長いほうが良いが、ものさしの長さの関係のため)。
- (3) 鉄製スタンドのクランプに支点用棒を取り付け、これに支点用リングをはめ、振り子をつるす。
- (4) 白紙に直線を書き、鉄製スタンドの下部に接着テープでとめる。このとき、前方から見てももりが最下点のときにピアノ線と直線が重なるようにする。
- (5) 支点用リングの上端内側からおもりまでの長さ  $l_0$  を2回測り、その平均値とおもりの半径  $r$  を加えて単振り子の長さとする。
- (6) 単振り子をごく小さく振らせ、おもりが直線運動と見なせることを確認する。
- (7) 白紙に書いた直線上を、ピアノ線が一方方向に通過する瞬間にストップウォッチを始動させ、10周期ごとの時刻を記録しながら100周期まで測定する。このとき、回数を数える係、ストップウォッチで時間を測る係、記録する係を決めておくことよい。



左図において、AC間が外径を、EF間が管などの内径をはかるときに用いる。副尺の0目盛りが示す点が測定値である。0.1cmの位までは主尺で読み取る。0.01cmの位は、副尺の目盛りと主尺の目盛りが一致している点をさがすと、そこでの副尺の目盛りとなる。

【測定結果】

(1) 単振り子の長さとその周期

- リング上端内側からおもりまでの長さ1回目 \_\_\_\_\_ m
- リング上端内側からおもりまでの長さ2回目 \_\_\_\_\_ m
- おもりの直径  $2r =$  \_\_\_\_\_ m よって 半径  $r =$  \_\_\_\_\_ m
- 単振り子の長さ  $l = l_0 + r =$  \_\_\_\_\_ m

理論値による周期 ( $g = 9.795 \text{ m/s}^2$ ) とする。

$$T_0 = 2\pi \sqrt{\frac{l}{g}}$$

(2) 周期の測定

○実験データ (通し時間で小数第一まで記入)

回数	10( $t_1$ )	20( $t_2$ )	30( $t_3$ )	40( $t_4$ )	50( $t_5$ )	60( $t_6$ )
時間(s)						

	30回振動した時間	周期
$t_4 - t_1$		
$t_5 - t_2$		
$t_6 - t_3$		

周期  $T =$  \_\_\_\_\_ [s]

(3) 重力加速度の算出

円周率 ( $\pi = 3.14$ ) とする。

$$g = \frac{4\pi^2 l}{T^2}$$

**【誤差 物理基礎 教科書 P260】**

(a) 絶対誤差 (ふつう「誤差」というと、絶対誤差のことをいう)

$$\text{絶対誤差} = \text{測定値} - \text{真の値}$$

(b) 相対誤差 (「誤差何%」というときに使う)

$$\text{相対誤差} = \frac{\text{誤差}}{\text{真の値}} \times 100\%$$

○理論値9.795[s]と実測値 $g$ [s]の相対誤差 (誤差率 (%))

$$\frac{|g - 9.795|}{9.795} \times 100$$

**【班の考察】**

**【感想】**

**【思考】**

今回の実験データの処理に対して、以下のように平均を求めた場合、仮に同じ実験結果が同じ値であったとしても、その実験値の精度は下がっている。その理由を考察せよ。

	10回振動した時間	周期
$t_2 - t_1$		
$t_3 - t_2$		
$t_4 - t_3$		
$t_5 - t_4$		
$t_6 - t_5$		

周期  $T =$  \_\_\_\_\_ [s]

## 「SOSの出し方に関する教育」研究 公開授業デザインシート

### 1 基本情報

実施教科	現代社会
月日時	令和2年11月12日(木) 2限目
実施教室	1年5組教室
授業者	村田幸一郎

### 2 授業者の課題意識

「現代社会」では、生徒の身近な社会現象をとりあげることも多く、通常の授業であれば、グループ討議や、座席の近所での意見交換の時間を設けて、意見発表を求める授業を展開してきたが、概ね、発問の趣旨に沿う回答であったり、私の意図しない視点からの回答もあり、改めて気づかされることもあった。しかし、今年はコロナ禍で、密を避けるためにグループ討議等は控えてきたが、発問に対しては反応を示す生徒もおり、教師・生徒ともにもどかしさを感じる場面がある。

今回は、消費者問題の契約について意見交換する場面を設けるが、意見発表は求めず、プリントに記入する形で評価したい。

### 3

教授の見どころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○契約について身近な具体例を提示して考察させる。</li> <li>○クーリング・オフの様式から、契約のポイントを理解させる。</li> </ul>
学習の見どころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○消費者問題の要因を理解し、他者と共有する様子。</li> <li>○消費者問題の当事者となった時の危機回避について理解する様子。</li> </ul>

### 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか(目指す姿)
目標設定・共有	消費者問題について主体的に考えることができる。
言語化	自分の考えをまとめ言葉にして伝える。
率先垂範	他者に積極的に働きかけ、意思の疎通を図る。
同僚支援	自分の考えを提示した上で、他者の考えを導き出すことができる。

————— 切り取り —————

[授業者へ一言エールをお願いします]



1年 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_ 号 氏名 \_\_\_\_\_

◆契約…下のQ. 1～Q. 3にそれぞれ答え、選んだ理由を簡潔に書きなさい。

Q. 1 次のうち契約に当たるのはどれか？ A. 1 \_\_\_\_\_

- ①映画館へ映画を観に行こうと友人と約束する。
- ②映画館までバスに乗る。
- ③映画館でポップコーンを買う。
- ④映画館で映画を観る。

理由：

---

Q. 2 次のうち返品や交換が認められるのはどれか？ A. 2 \_\_\_\_\_

- ①昨日買ったスニーカーより、もっと良いのが出た。
- ②店頭で買ったものと違う商品が入っていた。
- ③買ったばかりの文庫本のページが破れていた。
- ④同じ帽子が他のショップで安く売られていた。

理由：

---

Q. 3 次のうち未成年者が行った契約で、取り消せるのはどれか？ A. 3 \_\_\_\_\_

- ①こづかい程度の売買契約。
- ②成人であると嘘をついて行った売買契約。
- ③保護者の記名欄に無断でサインした売買契約。
- ④未成年者だが、結婚している人が行った売買契約。

理由：

---

◆クーリング・オフの様式から、契約をする際に心がけることを簡潔に書きなさい。

---

---

1年 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_ 号 氏名 \_\_\_\_\_

◆契約…下のQ. 1～Q. 3にそれぞれ答え、選んだ理由を簡潔に書きなさい。

Q. 1 次のうち契約に当たるのはどれか？ A. 1 ②（旅客運送契約） ③・④（売買契約）

- ①映画館へ映画を観に行こうと友人と約束する。
- ②映画館までバスに乗る。
- ③映画館でポップコーンを買う。
- ④映画館で映画を観る。

理由：(例) 契約は、商品を買ったりサービスを利用する際に、消費者と事業者との間で合意することによって成立することだから。

Q. 2 次のうち返品や交換が認められるのはどれか？ A. 2 ② ③

- ①昨日買ったスニーカーより、もっと良いのが出た。
- ②店頭で買ったものと違う商品が入っていた。
- ③買ったばかりの文庫本のページが破れていた。
- ④同じ帽子が他のショップで安く売られていた。

理由：(例) ①と④は、個人の都合が返品・交換の理由だから。

Q. 3 次のうち未成年者が行った契約で、取り消せるのはどれか？ A. 3 全て取り消せない

- ①こづかい程度の売買契約。
- ②成人であると嘘をついて行った売買契約。
- ③保護者の記名欄に未成年者が無断でサインした売買契約。
- ④未成年者だが、結婚している人が行った売買契約。

理由：(例) ④は、未成年でも結婚していれば、民法上成人とみなされるから。

民法5条2項「法定代理人の同意なしに法律行為をした場合には、その法律行為を取り消すことができる」

◆クーリング・オフの様式から、契約をする際に心がけることを簡潔に書きなさい。

(例) リコール可能か確認する。リコール可能な期間に注意する。

### 未成年者契約の取消しの通知の書き方（参考例）

未成年者本人からでも親権者からでも取消しができます。ハガキなどの書面に出します。コピーを取り、「特定記録郵便」または「簡易書留」で送付することが望ましいです。

### 未成年者本人からの取消しの場合

取消通知		
熊本県熊本市中央区黒髪〇丁目〇番地	氏名	(印)
東京都〇〇区〇丁目〇番地		
〇〇〇株式会社		
代表取締役〇〇〇〇殿		
<p>令和〇年〇月〇日に、貴社のセールスマン〇〇氏に勧められて締結しました&lt;商品名&gt;又は&lt;役務名&gt;（価格〇〇円）の購入契約は、未成年者の私が、親の同意なしに行ったものであり、取り消します。</p> <p>つきましては、当該契約に際して支払いました金〇〇円は、直ちに〇〇銀行〇〇支店普通預金口座〇〇号に振り込んでください。</p> <p>なお、商品は、早急に引き取ってください。</p>		
令和〇〇年〇〇月〇〇日		

### 親権者(親)からの取消しの場合

取消通知		
熊本県熊本市中央区黒髪〇丁目〇番地	氏名	(印)
東京都〇〇区〇丁目〇番地		
〇〇〇株式会社		
代表取締役〇〇〇〇殿		
<p>令和〇年〇月〇日に、貴社のセールスマン〇〇氏に勧められて、私共の子供〇〇との間で締結された&lt;商品名&gt;又は&lt;役務名&gt;（価格〇〇円）の購入契約は、未成年者が親の同意を得ずに行った行為であり、親権者として取り消します。本人も取消しを望んでいます。</p> <p>つきましては、当該契約に際して支払いました金〇〇円は、直ちに〇〇銀行〇〇支店普通預金口座〇〇号に振り込んでください。</p> <p>なお、商品は、早急に引き取ってください。</p>		
令和〇〇年〇〇月〇〇日		

相談窓口（一部抜粋、県内各市町村に設置されている。）

<p>熊本県消費生活センター 電話：096-383-0999 FAX：096-383-0998 受付時間…月曜日から金曜日 9時から17時まで（※土曜日、日曜日、祝日、年末年始はお休み。） 所在地…〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18-1</p>
<p>適格消費者団体 NPO法人 消費者支援ネットくまもと事務局 TEL 096-356-3110 / FAX 096-356-3119 / <a href="http://www.net-kuma.com/">http://www.net-kuma.com/</a> 〒862-0941 熊本市中央区出水2丁目5番8 水前寺パークマンションII-205号</p>
<p>法テラス熊本（電話0570-078365）IP電話の場合は、法テラス熊本（電話：050-3383-5522） 〒860-0844 熊本市中央区水道町1-23 加地ビル3F</p>
<p>熊本市消費者センター 電話番号：096-353-2500 住所：熊本市中央区手取本町1-1 市役所別館5館（駐輪場） 相談対応時間：月曜日から金曜日 午前9時から午後5時（祝日、年末年始を除く） 備考：ファックス、手紙、電子メールによる相談の受け付けは行っていません。</p>
<p>八代市消費生活センター 電話番号：0965-33-4162 住所：八代市松江城町1番25号 八代市役所1階 市民相談室内 相談対応時間：月曜日から金曜日 午前9時から午後5時（祝日、年末年始を除く）、 木曜日は午前9時から午後7時</p>
<p>人吉市消費生活センター 電話番号：0966-22-2111（内線1215、1216） 住所：人吉市西間下町118番地1（人吉市役所西間別館2F） 相談対応時間：月曜日から金曜日 午前9時から午後5時（祝日、年末年始を除く）</p>
<p>荒尾市消費生活センター 電話番号：0968-63-1173 住所：荒尾市宮内出目390番地（市役所本館1階 総合案内前） 相談対応時間：月曜日から金曜日（木曜日を除く）午前10時から午後4時まで（祝日、年末年始を除く）木曜日は県消費生活センターにご連絡ください。電話番号：096-383-0999</p>
<p>水俣市消費生活センター 電話番号：0966-61-1333 住所：水俣市陣内1丁目1番53号（市役所仮庁舎1階） 相談対応時間：月曜日から金曜日 午前9時から午後4時まで（祝日・年末年始を除く）</p>
<p>土日祝日は、国民生活センターにおいて相談を受け付けています。（年末・年始を除く） 相談時間：午前10時から午後4時 電話番号【消費者ホットライン】：188</p>

## 1 基本情報

実施教科	数 学
月日時	11月17日(火) 2限目
実施教室	1年4組教室
授業者	大城 寛幸

※教科書 数学A Advanced (東京書籍)

※教材 大阪大学 2010年 入試問題 理系<sup>3</sup>

## 2 授業者の課題意識

<p>これからの時代は自分の意見を発信し、共有する力が求められている。</p> <p>1年4組は活発で授業態度も良好な生徒たちばかりであるが、教員からの発問に対して、周囲と協力をはかり課題解決に取り組む姿勢が少ない。従って、グループ活動を通して自分の意見を述べ、班員と協力して意見をまとめたりして、上に挙げた力を養成してほしいと考える。</p>
--

## 3 授業の見どころ

教授の見どころ	問題に対する深い考察をさせられているかどうか。
学習の見どころ	グループ学習で活発な活動ができているか。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか(目指す姿)
言語化	自分の意見を具体的に分かりやすく述べる。
同僚支援	班で協力して意見を集約する。
率先垂範	自班で出た意見を他班の人にきちんと説明する。

—————切り取り—————

[授業者へ一言エールをお願いします]

大阪大学に挑戦!!!

---

$l, m, n$  を 3 以上の整数とする。等式  $\left(\frac{n}{m} - \frac{n}{2} + 1\right)l = 2$

を満たす  $l, m, n$  の組をすべて求めよ。

## 1 基本情報

実施教科	生物
月日時	令和2年11月17日(火)
実施教室	第1生物室
授業者	永田 友美

※教科書 改訂 生物(東京書籍) P130~131

※教材 三訂版 フォトサイエンス生物図録(数研出版) P91, 97, 99

## 2 授業者の課題意識

<p>バイオテクノロジーは、農業から刑法や医学研究に至るありとあらゆるものに影響を与えている。これまで数千年をかけて進化してきた生物種を一瞬にして変化させることも可能にする。未来を創る生徒たちにとって、バイオテクノロジーとの関わりは切り離せないものになる。遺伝子を扱う技術の原理に関しては学習したが、その技術が日常生活に広く浸透したために派生する社会的および倫理的な問題についても自分の意見を持ち、他者の考えを理解しながら、創造力や思考力を深めていく必要がある。</p>
---

## 3 授業の見どころ

教授の見どころ	バイオテクノロジーと日常生活に関連する4つのテーマを設定し、その中で関心があるものを各グループで決める。そのテーマに関する課題を見出し、今後の対策と展望を協議する。個人思考・グループワークの時間を適切にとり、議論が深まるようファシリテートする。
学習の見どころ	各自がそれぞれのリーダーシップを発揮し、一つのテーマについてのメリット、デメリットや今後の展望を見出す。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか(目指す姿)
目標設定・共有	バイオテクノロジーの課題と展望をグループで考える。
言語化	グループで話し合った結果をA4用紙4枚にまとめて表現する。ワールドカフェ形式で発表する。
率先垂範	自分の意見を的確に他者に伝え、相手の意見も理解しつつ、最終的にグループの意見をまとめる。
同僚支援	意見を出しやすい環境を作り、課題と展望を見出すためお互いの意見を尊重しながら、協力する。

—————切り取り—————

[授業者へ一言エールをお願いします]

## バイオテクノロジーについて考える

( ) 組 ( ) 号 ( )

### 本時の目標

- ①自分の意見を他者に伝える ……( ◎ ・ ○ ・ △ ・ × )
- ②班員の意見を理解し、班の意見をまとめる ……( ◎ ・ ○ ・ △ ・ × )
- ③班の中で自分の役割を進んで果たす ……( ◎ ・ ○ ・ △ ・ × )

### 取組1. 3つのテーマから一番興味をもったものを選ぶ

(1) 個人思考

テーマ
-----

選んだ理由
-------

(2) グループワーク

テーマ
-----

選んだ理由
-------

### 取組2. テーマに関するメリット、デメリット、“これからどうしたい？”をまとめる

メリット
------

デメリット
-------

これからどうしたい？
------------

### 取組3. 他者、他班の意見を聞き、学んだ事

--



## バイオテクノロジーについて考える(補助資料)

### 1. 遺伝子組換え生物 (図録 p 91)

遺伝子組換え技術に関連する潜在的な危険性についての当初の関心は、有害な新規の病原体を生み出す可能性について高かった。たとえば、研究の過程でがん細胞の遺伝子が細菌やウイルスに移ったら何が起こるだろうかなどの不安の声があがった。しかし、現在では最大の関心はそのような微生物についてではなく、食料などに用いられる遺伝子組換え生物の安全性等に集中している。遺伝子組換え作物は米国やブラジル等で広く栽培されている。世界で流通しているトウモロコシ、ダイズ、ナタネの大部分は遺伝的に改変されたものである。各国で様々な法規制があり、日本では1979年から遺伝子組換え実験に関するガイドラインが施行され、2004年に「カタルヘナ法」とよばれる遺伝子組換え生物等の使用規制に関する法律に置き換えられている。

### 2. DNA鑑定や遺伝子診断 (図録 p 97)

遺伝子診断とは、遺伝子を検査することで、本人の病気やその発症リスク、薬の効き具合を診断したり、胎児を含めた親子鑑定を行ったりすること。遺伝子検査、DNA検査とも呼ばれる。染色体の個々の遺伝子を調べ、変異体の遺伝子を持つことに伴う遺伝性疾患のリスクを測定する。

医学者が疾患に関連する遺伝子を標的とするプライマーを用いたPCRを行うことにより、数百種類のヒトの遺伝性疾患を診断することが可能である。増幅されたDNA断片については、塩基配列を決定して疾患を引き起こす変異の有無を確認する。鎌状赤血球症、血友病、デュシェンヌ型筋ジストロフィーなどがある。このような遺伝性疾患を持つ人は、発症するよりも前に、時には誕生前に識別することが可能である。ただ、時には遺伝子検査は単に疾患との相関関係を反映しているだけであり、疾患の存在を予測するものではないことを理解する必要がある。

### 3. 遺伝子治療 (図録 p 99)

遺伝性疾患に苦しむ人に治療目的で遺伝子を導入することであり、単一の遺伝子の不具合によることが判明している比較的少数の遺伝性疾患の治療法としては、非常に大きな可能性を秘めている。理論的には、欠陥のある遺伝子の正常型の対立遺伝子を、疾患に冒された組織の体細胞に導入する治療法である。

遺伝子治療や遺伝子編集は倫理的な問題も引き起こしている。どのような形であれ、ヒトの遺伝子に手を加えることは不道徳または非倫理的な行為であると考えられる人々がいる。このような遺伝子操作は、現在では実験室の小型哺乳類や大型哺乳類に対しては日常的に実施され、実際にヒトの胚に対する遺伝子操作を許容する条件が整えられつつある。

## 1 基本情報

実施教科	体育（ハンドボール）
月日時	10月16日
実施教室	済々黌ハンドボールコート
授業者	中山 恵太

## 2 授業者の課題意識

<p>相手のフォーメーションや特徴を捉え、瞬時に最適な判断を要する球技、ゴール型のハンドボールにおいて、自身と自チームの課題を見つけ、毎時間のチームミーティングで話し合いを行い、課題解決することができる力を養う。</p> <p>技能や技術、戦術を理解させ、他者を尊重し配慮した行動をとることができるようになる。</p> <p>ハンドボールのルールを理解させ、怪我の防止に努め公正に競技させる。</p>
--

## 3 授業の見どころ

教授の見どころ	ミーティング前後の練習風景の変化
学習の見どころ	ハンドボールを通して、技能の向上はもちろん、他者を理解し配慮した行動をとることができるようになる。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか（目指す姿）
目標設定・共有	本時のテーマについて明確に課題設定できる。
言語化	ミーティング時に自信の弱み・悩みを発信でつきる。
率先垂範	ミーティングや練習時にリーダーシップが取れる。
同僚支援	他者の課題を共に見つめ、課題解決のためのアドバイス・プレー面での支援ができる。

---

— 切り取り —

[授業者へ一言エールをお願いします]

## 1 球技：ハンドボールを通して身に付けてほしい資質や能力 ～研究指定「SOSの出し方に関する教育」～

- 1、率先垂範し自ら考え行動することができるようになる。
- 2、他者の能力や性格を理解し配慮した行動がとれる。
- 3、他者と協力し課題解決に努め、個人スキル、チーム力の向上に努める。
- 4、自分や他者の強み・弱み(悩み)を理解し、協議することができる。
- 5、ハンドボールのルールを理解し、公正かつ公平にプレーし、事故やけがの防止に配慮した行動がとれる。

## 2 授業の展開方法について

SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)を毎時間実施する。

- ①: インストラクション(言語的教示) 【 教員 】
- ②: モデリング(手本) 【 教員 】
- ③: ロールプレイ(練習) 【 生徒 】
- ④: フィードバック(振り返り) 【 生徒 】
- ⑤: 定着化 【 生徒 】

※球技の授業では④フィードバックが最重要学習ポイントです！

### 授業(1時間)の流れ

- 1: 上記①～③を実施
- 2: フィードバック(協議)で、①～③を実施してできたこと、できなかったこと(課題)を明確にする。
- 3: 課題解決方法を考え、練習法を考案する。
- 4: 考案した練習を実践してみる。
- 5: 最後にもう一度振り返り、次時の課題を考える。

## 3 授業評価

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

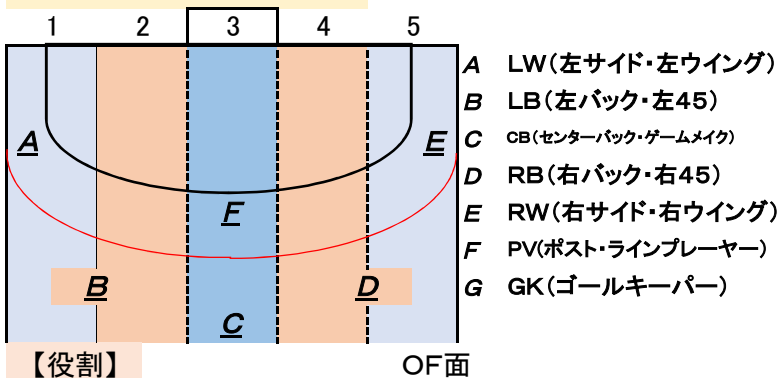
Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1 … 2 … 3 … 4 … 5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1 … 2 … 3 … 4 … 5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1 … 2 … 3 … 4 … 5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか	
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか	
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか	
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標	

**本時のテーマ**

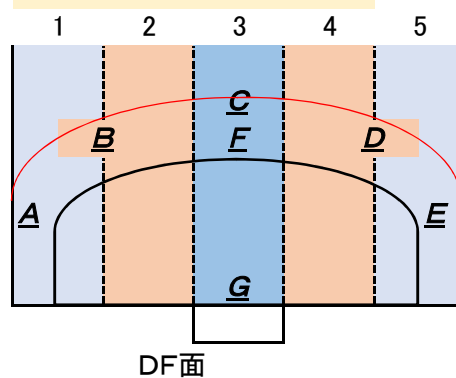
- 1、ハンドボールのポジション名とポジションの役割を明確に理解する。
- 2、ハンドボールコートの大ささと、ゴールキーパーのエリアを理解する。
- 3、ハンドボールの主な反則(ファウル)を理解して公正に競技できるようにする。
- 4、ハンドボールの特性を理解するために、攻撃と守備の2つの視点から話し合いを行い、特徴を発表する。

**●1、ポジションとその役割**

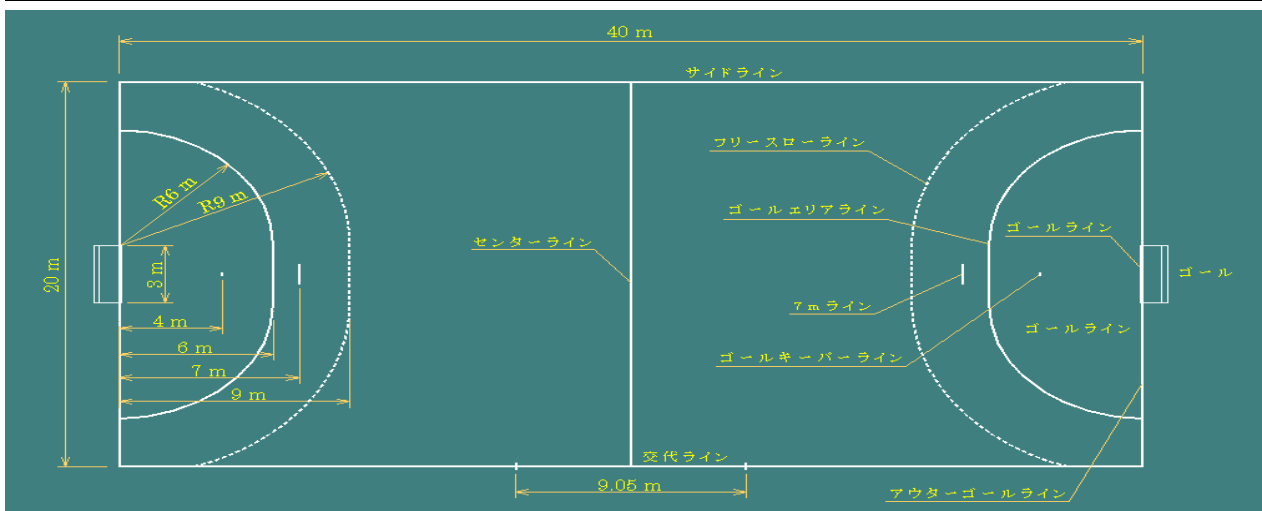
【攻撃(オフェンス)時】



【守備(ディフェンス)時】



AとE	ウイング	
BとD	45度	
C	センター	
F	ポスト	
G	GK	



**●2、ハンドボールの主なルール・用語**

- オフェンシブファウル…攻撃側ファウルの総称。チャージング、ブロッキングなども含む。
- 3歩3秒3m…歩くのは3歩まで、ボールを持ったら3秒以内にプレーする。(オーバーステップ、タイム)
- スクリーン…ボールを持たない選手が壁になり、味方のためにスペースを作る動き。
- パッシブプレー…シュートを狙わない消極的なプレー
- ダブルドリブル…ドリブル開始後一度ボールを持ち再びドリブル開始するファウル
- ラインクロス…オフェンス側選手はゴールエリアライン(6m)を超えることはできません
- チャージング…シュートやフェイントを仕掛けるときに相手ディフェンスに強引にぶつかるファウル
- DFファウル…プッシング、ハッキング、ホールディング、トリッピング

( )組( )号 氏名( )

**本時のテーマ〈パス・シュート①〉**

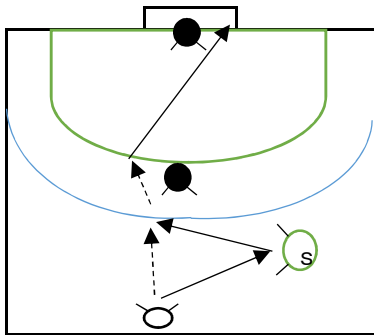
- 1、様々なパスを正確に出せるようになる
- 2、ステップシュートをゴール四隅に打てるようになる(ステップを正確に踏む)
- 3、ジャンプシュートをゴール四隅に打てるようになる

**練習1:パスの種類を知り、使い分ける**

<b>パス1:オーバーハンドパス</b>	… 投げたい場所と指先を一本の線で結ぶ。相手の頭からつま先までを指でなぞるように投げる
<b>パス2:ラテラルパス</b>	… 素早く横に展開したい時に使用する。腕と指先が一直線になるように投げる
<b>パス3:バックパス</b>	… 相手を引き付けて出せるパス。シュートモーションからDFを引き付けて出す
<b>パス4:プッシュパス</b>	… ボールを押し出すように出す。狭い隙間を通すのに最適なパス
<b>その他のパス</b>	… フックパス・ショルダーバックパス・利き手と反対でのパスなど

**練習2:ゴール前1対1【シュートを四隅に打ち分ける】**

**【MEMO】**



〈難しいポイント〉

→ (ボールの動き)    ⇨ (人の動き)    S(サーバー)    ○(オフェンス)    ●(ディフェンス)

**チームミーティング**

友達の意見(課題)やチームの課題等を話し合おう!

.....

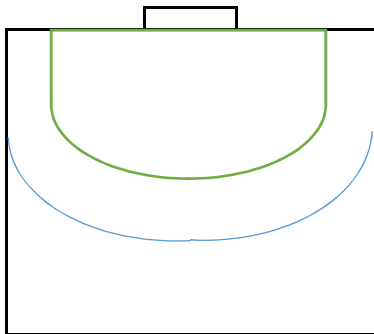
.....

.....

.....

**練習3:**

**【MEMO】**



.....

.....

.....

.....

**授業評価**

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

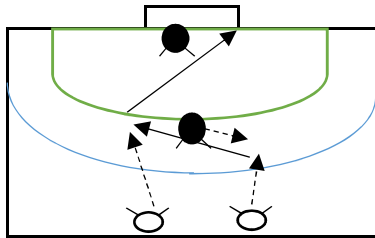
Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか	
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか	
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか	
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標	

( )組( )号 氏名( )

**本時のテーマ〈パス・シュート②〉**

- 1、攻撃の基本はDFの間を攻める。を理解する
- 2、ステップによるフェイントを使えるようになる
- 3ディフェンスがいてもシュートを正確に四隅に打ち分けることができる。

**練習1:2対1【空間を攻める】**



【MEMO】

.....

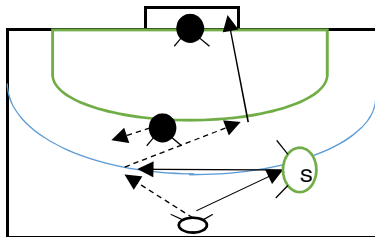
.....

.....

.....

.....

**練習2:ゴール前1対1【フェイントを使ってDFを抜きシュートを打つ】**



【MEMO】

.....

.....

.....

.....

.....

→ (ボールの動き) --→ (人の動き) S(サーバー) O(オフェンス) ●(ディフェンス)

**チームミーティング**

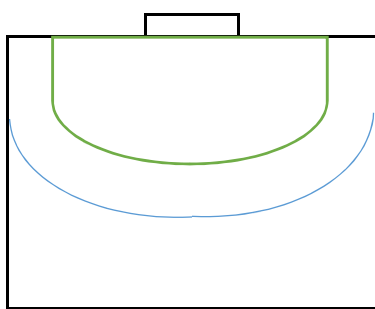
友達の意見(課題)やチームの課題等を話し合おう!

(.....)の課題(.....) 解決策(.....)

(.....)の課題(.....) 解決策(.....)

(.....)の課題(.....) 解決策(.....)

**練習3:**



【MEMO】

.....

.....

.....

.....

**授業評価**

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

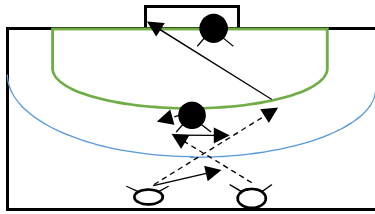
Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか									
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の								
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか									
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか									
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標									

( )組( )号 氏名( )

**本時のテーマ〈パス・シュート③〉**

- 1、2人組のコンビネーションを活用してシュートを打てるようになる。
- 2、フリーでシュートを打てる状況を作り出すことができる。
- 3、ゲームを実施してみて自チームの課題を発見し課外解決に向け話し合いを行うことができる。

**練習1:2対1【DFを動かして攻めの形を見つけよう】**



【MEMO】

.....

.....

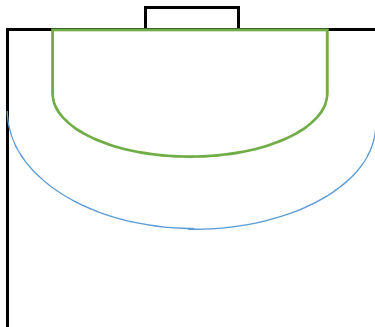
.....

.....

.....

→ (ボールの動き) --→ (人の動き) S(サーバー) O(オフェンス) ●(ディフェンス)

**ゲーム①:7対7【ポジションを定め役割を確認し試合を展開しよう】**



【MEMO】

.....

.....

.....

.....

.....

**チームミーティング**

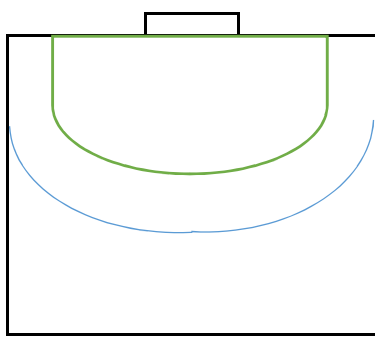
友達の意見(課題)やチームの課題等を話し合おう!

(.....)の課題(.....) 解決策(.....)

(.....)の課題(.....) 解決策(.....)

(.....)の課題(.....) 解決策(.....)

**ゲーム②:解決したい課題(.....)**



【MEMO】

.....

.....

.....

.....

.....

**授業評価**

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか	
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか	
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか	
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標	

**本時のテーマ〈守備①〉**

- 1、ディフェンスの基本的な構えを理解する
- 2、攻撃者のドリブルに合わせてステップをすることができるようになる
- 3、コンタクトとシュートブロックの判断を主体的にする

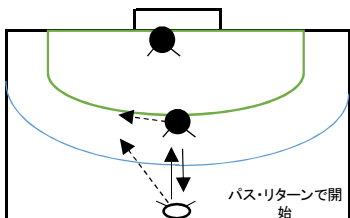
**DFの基本①:守備の基本姿勢を覚えよう!**



**DFの基本②:コンタクトの方法を覚えよう!**



**練習1:1対1【基本的な構えから攻撃を妨害しよう】**



**【MEMO】**

.....

.....

.....

.....

→ (ボールの動き) → (人の動き) S(サーバー) O(オフェンス) ●(ディフェンス)

- 〈ステップ1〉 相手攻撃者のドリブルに合わせてステップを踏み正面に入るようにしよう!
- 〈ステップ2〉 相手攻撃者のシュートに合わせて、ブロックか、コンタクトに行くのか判断しよう!

**チームミーティング**

友達の意見(課題)やチームの課題等を話し合おう!

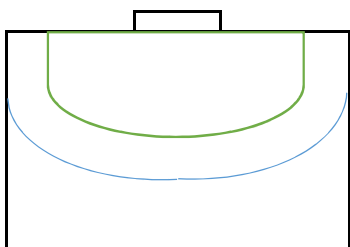
( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題

( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題

( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題

( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題

**練習2:**



**【MEMO】**

.....

.....

.....

.....

**授業評価**

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか									
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の								
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか									
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか									
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標									

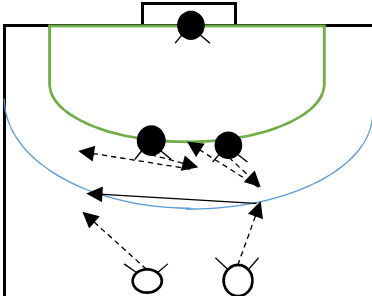


( )組( )号 氏名( )

本時のテーマ〈守備②〉

- 1、2対2の攻防で、チャレンジとカバーのポジショニングを身に付けよう
- 2、マークとボールを同一視野で捉え、守ることができるようになる。
- 3、相手選手の入れ替わりに対して、ステイとチェンジを使えるようになる。

練習1:2対2【チャレンジする人と、カバーの人の役割を明確にしよう】



【MEMO】

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

※応用練習:2対2 → 3対3 に変更して、チャレンジ可!

→ (ボールの動き) --→ (人の動き) S(サーバー) O(オフェンス) ●(ディフェンス)

チームミーティング

友達の見解(課題)やチームの課題等を話し合おう!

( )の課題( )解決策( )

.....

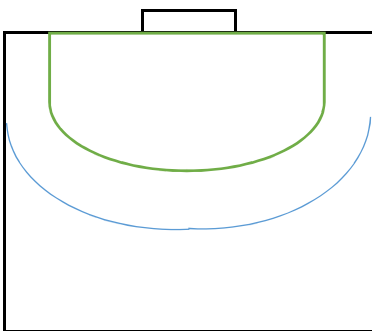
( )の課題( )解決策( )

.....

( )の課題( )解決策( )

.....

練習2:



【MEMO】

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

授業評価

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか	
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか	
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか	
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標	

**本時のテーマ〈 守備③ 〉**

- 1、ディフェンス時のフィールドプレイヤー6人の各システムの利点を理解しよう
- 2、実際の試合で相手選手に、得点の機会となり得る空間を与えないように工夫しよう
- 3、ゲームを実施してみて自チームの課題を発見し課外解決に向け話し合いを行うことができる。

**ディフェンス時のシステムを学ぼう！**

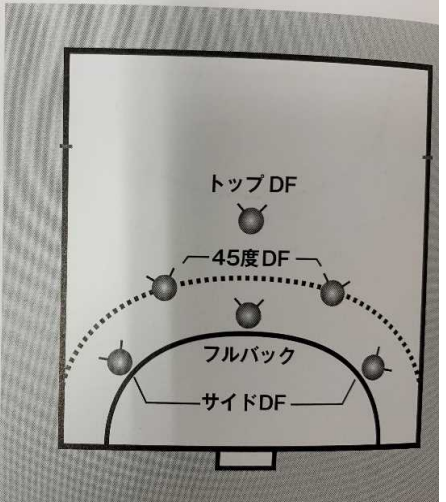
**システム ① (6:0)**

**マークチェンジで守る**  
 ライン際に6人を並べる守り方。一線DFとも言う。2枚目、3枚目に大きい選手を並べて、マークを受け渡ししながらゾーンで守る。特に真ん中2人(3枚目)に大型選手を配置できれば、DFの枝とGKとの連携でロングシュートを防げる。  
 2枚目に機動力のある選手を置き、豊富な運動量で相手の動きを牽制する。



**システム ② (3:2:1)**

**サイズ不足を脚力で補う**  
 6:0DFをやると上から打ち込まれる小柄なチームでも、3:2:1DFなら脚力で勝負できる。トップDFは豊富な運動量で相手のパス回しに圧力をかける。両45度は相手のエースをタイトに守る。相手のバックプレーヤー陣を、ボールをもらってからの動きにして、ロングを封じる。フルバックはポストと全体を見ながら、広いスペースを消すように指示を出す。スペースが広いので、退場が増えるリスクがある。



**システム ③ (5:1)**

**トップの運動量が命**  
 トップDFが前に出て、豊富な運動量でパス回しに圧力をかける。リーチの長い選手をトップに置けば、パス回しのリズムが崩れるし、ロングを打たれにくくなる。  
 トップDFに大型選手を置いたり、小柄でも動き回れる選手にするなど、バリエーションも多い。下の5人はゾーンで守るが、6:0DFよりもスペースが広いので間を割られやすく、退場者も出やすい。



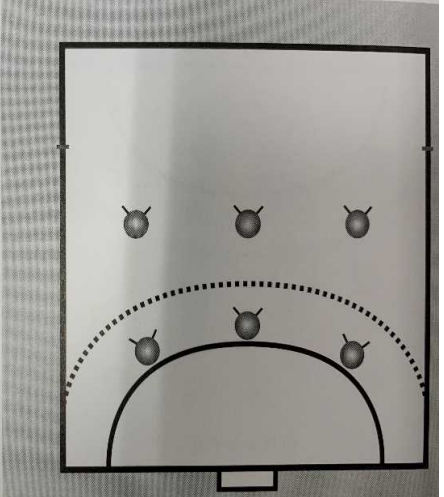
**システム ④ (4:2)**

**変則的なシステム**  
 運動量豊富な2トップを全面に押し出した、変則的なDFシステム。相手からすると見慣れない守備隊形なので、急にやられると戸惑いやすい。  
 スペースが広いので長時間だとリスクが大きいが、短時間でアクセントをつける分には効果的。パスカットの嗅覚の鋭い2トップがいれば機能する。



**システム ⑤ (3:3)**

**フットワークで勝負**  
 3:2:1DFよりもさらにマンツーマンに近い形で守る。タイトな守りで大きいバックプレーヤーの足を封じながら、ロングを簡単に打たせない。上3枚のラインの高さを調整して、圧力を変化させる。  
 ラインを高くすれば圧力も強くなるが、広いスペースを切りさかれるリスクもある。



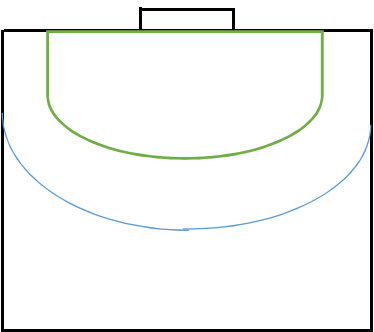
本時のテーマ〈 守備③〉 ( )組( )号 氏名( )

- 1、ディフェンス時のフィールドプレイヤー6人の各システムの利点を理解しよう
- 2、実際の試合で相手選手に、得点の機会となり得る空間を与えないように工夫しよう
- 3、ゲームを実施してみて自チームの課題を発見し課外解決に向け話し合いを行うことができる。

作戦会議: 守備の方法と役割を話し合おう!

自チームのディフェンスシステム(作戦)番号【                                  】  
 〈 ミーティング内容 〉  
 .....  
 .....  
 .....  
 〈チーム目標〉

ゲーム①: 7対7 【 各ポジションで守備のときの役割を理解しよう 】



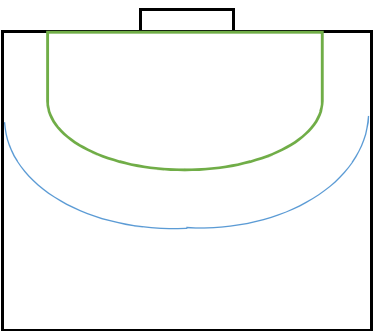
【MEMO】 ディフェンス時のシステム(作戦)番号【                                  】  
 .....  
 .....  
 .....  
 〈難しいポイント〉  
 .....  
 .....

チームミーティング

友達の意見(課題)やチームの課題等を話し合おう!

( ..... )の課題( ..... ) 解決策( ..... )  
 .....  
 ( ..... )の課題( ..... ) 解決策( ..... )  
 .....  
 ( ..... )の課題( ..... ) 解決策( ..... )  
 .....

ゲーム②: 解決したい課題( ..... )



【MEMO】 ディフェンス時のシステム(作戦)番号【                                  】  
 .....  
 .....  
 .....  
 .....

授業評価		(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)				
Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5					
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5					
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5					
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか						
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の					
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか						
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか						
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標						

**本時のテーマ<コンビネーション①>**

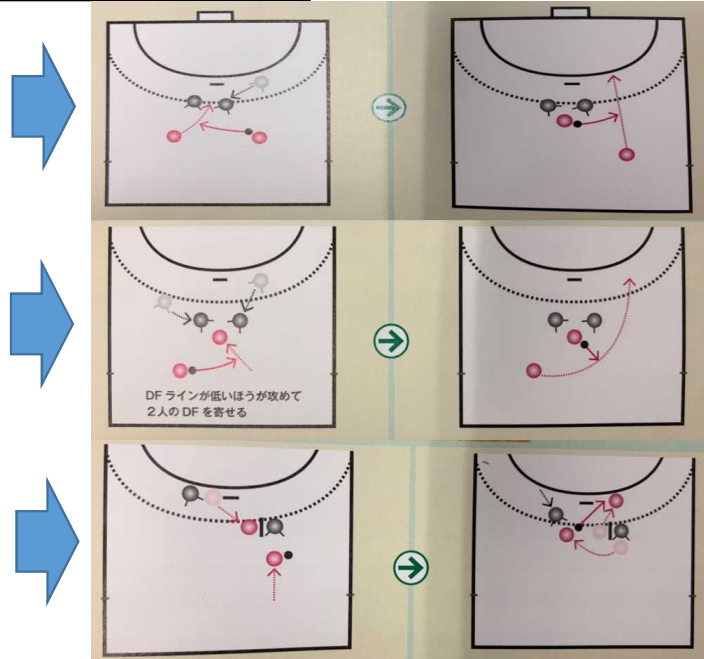
- 1、2人組平行、クロス、スクリーンを覚えよう
- 2、ディフェンスを引き付ける動き、シュートを打つのに十分な空間を保ちボールを受けられるようになる
- 3、フリーでシュートを打てる状況を作り出すことができる

**コンビネーションの形を覚えよう【平行、クロス、スクリーン】**

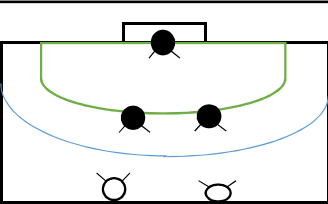
**<平行>**  
2人が平行に攻める動き。DF2枚を寄せて味方をフリーにする。

**<クロス>**  
2人が交差しながら攻める動き。DF2枚を寄せてから背後を大きくクロスする味方にパス。フリーを作り出す。

**<スクリーン>**  
ポストの選手がスクリーンになってスペースを作り、味方をプレーしやすくする。



**練習1:2対2【実際にコンビネーションを活用してシュートを打**



**【MEMO】**

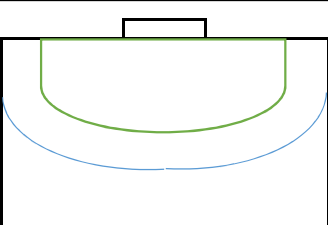
〈難しいポイント〉

**チームミーティング**

友達の意見(課題)やチームの課題等を話し合おう!

( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )  
 ( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )  
 ( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )の課題( )

**練習2:**



**【MEMO】**

**授業評価**

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

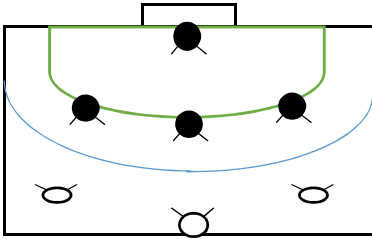
Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか									
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の								
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか									
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか									
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標									

( )組( )号 氏名( )

**本時のテーマ〈コンビネーション②〉**

- 1、パラレル、クロス、スクリーンを3対3でも活用できるようになる
- 2、ディフェンスを引き付ける動き、シュートを打つのに十分な空間を保ちボールを受けることができるようになる
- 3、正確なパス回しからシュートを打つことができるようになる

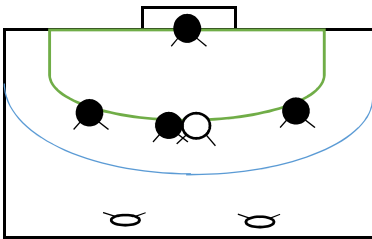
**練習1:3対3【崩しの形を作図してイメージしよう】**



【MEMO】

〈難しいポイント〉

**練習2:ポストありの3対3【2-1のシステムでコンビネーションを活用しよう】**



【MEMO】

〈難しいポイント〉

→ (ボールの動き) --→ (人の動き) S(サーバー) O(オフェンス) ●(ディフェンス)

**チームミーティング**

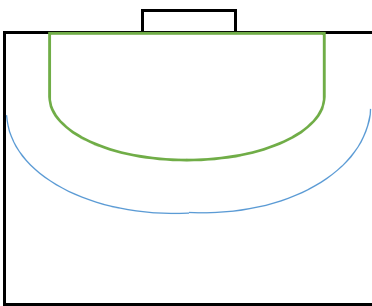
友達の意見(課題)やチームの課題等を話し合おう!

(.....)の課題(.....) 解決策(.....)

(.....)の課題(.....) 解決策(.....)

(.....)の課題(.....) 解決策(.....)

**練習3:**



【MEMO】

**授業評価**

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

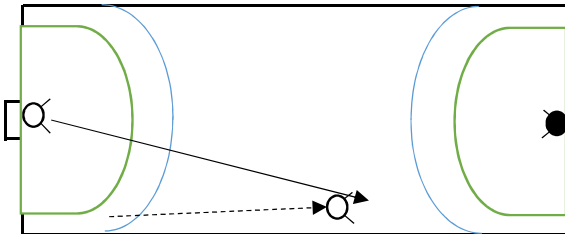
Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか									
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の								
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか									
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか									
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標									

( )組( )号 氏名( )

**本時のテーマ〈コンビネーション③速攻〉**

- 1、速攻を仕掛け、正確にシュートまで繋げよう
- 2、速攻に必要なGKスキルとシューターのスキルを理解しよう
- 3、早いスピードでも正確なパスとシュートを打つことができる

**練習1:シュート練習【ワイドのポジションから速攻を仕掛けよ】**

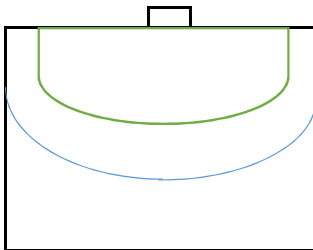


【MEMO】

〈難しいポイント〉

→ (ボールの動き) → (人の動き) S(サーバー) O(オフェンス) ●(ディフェンス)

**ゲーム①:7対7【コンビネーションと速攻を実戦で活用しよう】**



【MEMO】

〈難しいポイント〉

**チームミーティング**

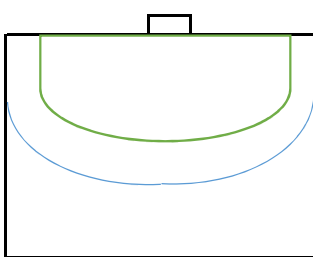
友達の意見(課題)やチームの課題等を話し合おう!

.....の課題(.....) 解決策(.....)

.....の課題(.....) 解決策(.....)

.....の課題(.....) 解決策(.....)

**ゲーム②:解決したい課題**



【MEMO】

**授業評価**

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか	
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか	
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか	
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標	

**本時のテーマ〈ゲーム〉**

( )組( )号 氏名( )

- 1、攻撃・守備の2点において約束(決まり事)を実行しよう
- 2、試合の分析を行い、次戦に向けて改善を図ろう
- 3、ゲームを実施してみて自チームの課題を発見し課外解決に向け話し合いを行うことができる。

**作戦会議: 攻撃と守備の約束(決まり事)を話し合おう**

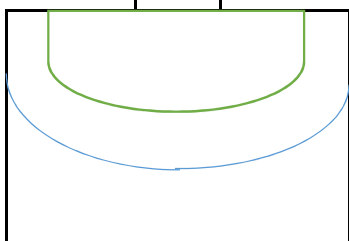
〈ミーティング内容〉

〈攻撃時のチーム約束〉

〈守備時のチーム約束〉

**ゲーム①: 7対7 【各ポジションで守備のときの役割を理解しよう】**

【MEMO】 ディフェンス時のシステム(作戦)番号【 】



〈難しいポイント〉

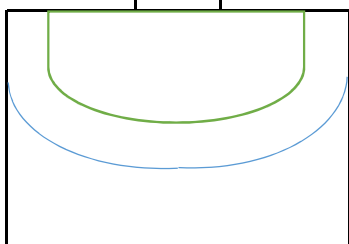
**チームミーティング**

友達の意見(課題)やチームの課題等を話し合おう!

- ( )の課題( ) 解決策( )
- ( )の課題( ) 解決策( )
- ( )の課題( ) 解決策( )

**ゲーム②: 解決したい課題**

【MEMO】 ディフェンス時のシステム(作戦)番号【 】



**授業評価**

(1よくできた 2できた 3ふつう 4できなかった 5全くできなかった)

Q1、チームメイトの意見を尊重した言動を取ることができた	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q2、本時では自分の課題(弱み、悩み)を発信できましたか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q3、本時の課題解決の達成状況はどのようですか	1	...	2	...	3	...	4	...	5
Q4、チーム内で一番リーダーシップを発揮していた人は誰ですか									
Q5、本日の協議で印象に残った意見は何ですか	の								
Q6、本時の授業での課題(難しい点)はどこでしたか									
Q7、Q6の課題解決に向けて次回実施したい練習はありますか									
Q8、本時の活動を振り返って、次回の目標									

## 1 基本情報

実施教科	コミュニケーション英語 I
月日時	令和2年11月6日(金)
実施教室	1年3組教室
授業者	仲村渠 雄次

※教科書 POLESTAR (数研出版) pp.170-171 “Real-World English 1”

## 2 授業者の課題意識

<p>これまで生徒たちは、ペットボトルのリサイクル問題や世界のゴミ問題に関する英文を読んできた。「ゴミをリサイクルするためにあなたは何かができますか」、「エネルギーや資源を節約するためにあなたは何かができますか」という問に対する解決策を考えさせる。SDGsとも関連させながら、他人事ではなく自分のこととしてこの問題を捉えさせる。課題解決に向けて、生徒同士で自分たちの考えを出し合い、お互いの意見を認め合いながらより良い解決策を考えてもらいたい。</p>
--

## 3 授業の見どころ

教授の見どころ	ペアやグループで協力しやすい雰囲気作りに努め、協力できていない場合には声掛け等を行う。各グループの発表の際にはそれぞれの意見を受容し、肯定感を養う。
学習の見どころ	他者と協力する態度を養い、さらにグループにおける自分の役割を見出して全体に貢献する態度を育みたい。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか(目指す姿)
目標設定・共有	ゴミ問題解決のために何ができるか、グループで考える。
言語化	グループで話し合った意見を英語で発表することができる。他のグループの意見を日本語でまとめることができる。
率先垂範	自分の考えを相手に伝え、相手の考えに耳を傾けることができる。グループの意見を積極的に発表することができる。
同僚支援	意見を出しやすい環境を作り、問題解決のためにお互いの意見を尊重しながら、協力することができる。

—————切り取り—————

[授業者へ一言エールをお願いします]



Name: \_\_\_\_\_

Class: 1-\_\_ Number: \_\_\_\_\_

Work with your partner!

Topic

What can you do to recycle waste? What can you do to save energy and natural resources? Compare your thoughts with your partner's and then tell your classmates about what the two of you think.

1. Your thoughts ( at least 2 sentences )

2. Partner's thoughts

3. You and your partner's thoughts ( at least 3 sentences )

4. Your group's thoughts ( at least 6 sentences! )

5. Other groups' thoughts

6. Evaluation

(1) Did you think about the problem seriously?

5 ( Yes )      4      3      2      1 ( No )

(2) Did the two of you help each other?

5 ( Yes )      4      3      2      1 ( No )

(3) Did your group do your best?

5 ( Yes )      4      3      2      1 ( No )

(4) Did your group members help each other?

5 ( Yes )      4      3      2      1 ( No )

(5) Which thoughts or ideas did you sympathize with the most? Name two or three thoughts that other groups made.

## 1 基本情報

実施教科	家庭科（家庭基礎）
月日時	令和2年11月11日（水）
実施教室	被服室
授業者	井手 文子

※教科書 家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）P182

※教材 社会への扉（消費者庁）P5

## 2 授業者の課題意識

<p>現代の消費社会では、商品の販売方法が多様化している。事前アンケートでは、クラスの中の約9割の生徒がインターネット販売を利用したことがあると回答した。また、高齢者や若者を狙った悪質商法が増加している。社会経験が少ない若者に、意思決定の重要性を認識させ、主体的な消費行動ができる消費者として育成することが大切である。また、悪質商法を防ぐ個人の行動が、次の被害者をなくしたり商品の改良に繋がったり、社会の変革に繋がる重要な意義を持っていることを理解することを目的とする。</p>
---

## 3 授業の見どころ

教授の見どころ	グループで話し合った悪質商法への対処方法を、限られた時間の中でわかりやすくまとめるために、班員が協力して、話し合いを深めることができるかがポイントである。
学習の見どころ	班で、それぞれが意見を出しやすい雰囲気を作り、自分の役割を果たし、班で発表できるかがポイントである。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか（目指す姿）
目標設定・共有	悪質商法への対処方法をグループで考える。
言語化	グループで話し合った結果を応用紙にまとめて表現する。また、発表として口頭で伝える。
率先垂範	意見をそれぞれが積極的に意見を出し合い、グループの意見としてまとめる。
同僚支援	意見を出しやすい雰囲気を作り、多くの意見が出るように活動する。また、わからない部分があればお互いに教え合う。

—————切り取り—————

[授業者へ一言エールをお願いします]

# おいしい話にご用心

おいしい話はないとわかっていても、なぜひっかかる人が多いのでしょうか。

ひっかけのテクニック、ひっかかる心理や事例から、常にあやしいと気づくアンテナをもとう。

## きっぱりはつきり断ろう

その1 最近、こんな商法が増えています。あなたは出会ったことがありますか？

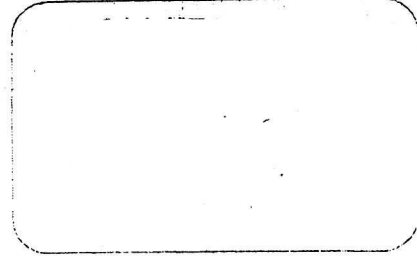
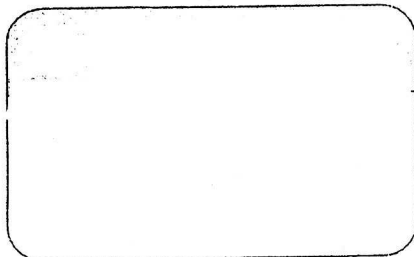
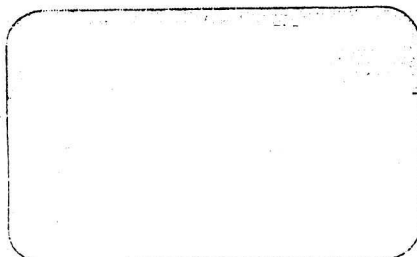
20才 Aさんの場合



20才 B子さんの場合



25才 Cさんの場合



## 消費者をめぐる問題

☆グループワークで悪質商法の対処の仕方を考える！

家庭基礎では、2学期に「社会の扉」を活用して、消費生活分野の学習をしてきました。2022年からの成人年齢引き下げ（18歳成人）に伴い、皆さん方の責任が重くなります。今回は、まとめとして、「若者がねらわれやすい悪質商法」を取り上げ、それぞれに対しての「対応の仕方」や「行動する意義」をグループで考えてみよう！

☆本日の授業の流れ

- ①グループ編成：4～5人のグループを編成・アイスブレイク（事前）  
「最近のマイブーム」
  - ②事例の選定：3つの事例から、班で話し合いをする事例を決定（2分）
  - ③対応策について考える（1）：個人で事例について考える（3分）
  - ④対応策について考える（2）：グループで事例について考え話し合う  
(20分)
- ※用紙に選んだ事例の番号・良くなかった点・対応・意義を記入  
※発表者を決めておく（じゃんけん・くじ以外の方法で） ← 合意形成  
※班での意見がどのようにまとまったのかを記録しておく（ワークシート）
- ⑤発表（10分）
  - ⑥自己評価（振り返り）（各班・全体）：（5分）
  - ⑦まとめ（5分）

☆本日の授業のポイント（権限のないリーダーシップのポイント）

（三大要素：目標共有、率先垂範、相互支援）

- （1）今回の授業の目標を全体的に理解することができたか（目標共有）  
→ 【今回の授業の目的：悪質商法への対処の仕方を考える】
- （2）グループでの話し合いを進んで行うことができたか（率先垂範）
- （3）自分が意見を出すことが、後の人の意見につながったか（率先垂範）
- （4）意味や内容が分からないメンバーにアドバイスを行うことができたか（相互支援）
- （5）他人の意見に耳を傾け、否定せずに聞くことができたか（相互支援）
- （6）意見を出しやすい雰囲気を作り、多くの意見を導き出すことができたか（相互支援）
- （7）他人の発表や態度の良い所を見つけることができたか（相互支援）

※上のポイントを考えながらグループワークを実践してみよう！

おいしい話にご用心（悪徳商法をきっぱり断る）

- (設定事例) ①20才 Aさんの場合 ( )  
②20才 B子さんの場合 ( )  
③25才 Cさんの場合 ( )

( ) 班 班 員 : ( )  
班で選んだ事例 : ( 番 : )

1 Aさん・B子さん・Cさんの相手に対する対応の良くなかった点を考えてみよう。

2 Aさん・B子さん・Cさんは、相手に対してどんな対応をしたら良かったのだろう。  
(具体的な言葉での断り方と対応)

3 悪質商法を断るために行動をすることは、本人や周りの人にどんな影響を与え、どんな意義があるのだろう。

4 授業の振り返り

☆チームメンバー全員に対して、良かった面を振り返ろう！

今回のグループワークから考えたことは何ですか？

### 1 基本情報

実施教科・単元	情報（社会と情報）	実施日	11月13日（金）6限
実施クラス・教室	1年4組（第1パソコン室）	授業者	金子 周平

### 2 授業者の課題意識

コンピュータを利用した実習は、普段の座学とは違う授業形態となる。一部の生徒は自分の得意な部分を生かし、熱心に取り組む様子が見られる。一方で、コンピュータを苦手と感じたり、操作に不安を覚えたりすることで、指導内容が完全に定着しない生徒も見られる。また、個人単位での活動になりやすく、理解できない生徒がそのままになってしまうことも考えられる。今回はグループでの活動を意識させ、生徒それぞれがグループのメンバーと関わり合い、互いに内容の理解ができる環境づくりを目指したい。

### 3 指導計画

JavaScriptによるプログラミング（全7時間）

1. アルゴリズム（1時間）
2. Javascriptによるプログラミング
  - (1) 表示と変数（0.5時間）
  - (2) 基本の処理（0.5時間）
  - (3) 判断分岐（0.5時間）
  - (4) 繰り返し（0.5時間）
  - (5) 数学関数と配列（1時間）
3. プログラムの作成（3時間）

本時

（注）本来「社会と情報」の指導内容においてプログラミングは必須ではない。しかし、2022年度から実施される「情報I」においてプログラミングの授業が導入されることを見据え、独自のテキストを利用しプログラミングの授業を実施している。

### 4 授業の見所

教授の見どころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士のコミュニケーションにより、互いに理解を深めていく活動</li> <li>・試行錯誤させ、「わかった」と実感できる環境づくり</li> </ul>
学習の見どころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解できた生徒が、戸惑っている生徒へ積極的に関わる様子</li> <li>・困ったときに、他の生徒へスムーズに尋ねることができる様子</li> <li>・教わったことを自ら実行し、理解できたことが実感できる様子</li> </ul>

## 5 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか（目指す姿）
目標設定・共有	プログラミングで使う命令文について理解し、活用することができる
言語化	プログラムの内容について正しく説明できる。
率先垂範	グループ全体で課題を解決できるよう行動している。
同僚支援	操作に困っている生徒にアプローチし、教えることができる。

## 6 本時の活動

### (1) 学習内容

- ・ for・while・do-while の使い方（繰り返し）
- ・ 数学関数の使い方

### (2) 活動内容

- ・ 繰り返しの構造及び数学関数について理解する
- ・ サンプルプログラムを入力し、動作確認を行う
- ・ グループ内のメンバーの進み具合を確認しながら作業を進める

### (3) 指導上の留意点

- ・ サンプルをただ入力することを目的とするのではなく、内容を理解しながら進めるよう助言する
- ・ グループ全員で協力しながら学習を進める環境づくりに配慮する



# Javascript で プログラミング やってみよう

(Ver.2020 マニュアル編)

## 全般的な注意

- ①入力する際には、基本的にすべて半角英数字で。(うまくいかないときの原因はほとんどこれ)
- ②特別な場合を除き、文の最後には ; (セミコロン) を入力する。(よく忘れる)
- ③<html><body><script>と</script></body></html>は絶対に消さない。(消すと大変)

## 本冊子の取り扱いについて

- ①隅々まで読んで、大事なことは書き込む
- ②よごさない
- ③なくさない (テキストの再配布はしない)

<補足説明等のメモ>

( ) 組 ( ) 号 氏名 ( )

<自己評価シート> **自己評価** があるところまで進んだら、該当する番号の評価をすること。

※それぞれの項目に対する、評価の基準は以下の通りとする。

評価	基準（【 】は内容理解についての基準）
4	自分でできた上、グループのメンバーを助けることができた【理解し、教えることができた】
3	自分ですべてできた【自分の力で理解できた】
2	グループのメンバーに助言をもらいながら、自分でできた【内容が理解できた】
1	グループのメンバーに直接手伝ってもらった【内容が理解できなかった】

内容理解					
理①	フローチャートの意味について理解できた	4	3	2	1
理②	変数について理解できた	4	3	2	1
理③	簡単な計算のさせ方や、演算子、入力のさせ方を理解できた	4	3	2	1
理④	条件分岐 (if) について理解できた	4	3	2	1
理⑤	for を使った繰り返しが理解できた	4	3	2	1
理⑥	while、do-while を使った繰り返しが理解できた	4	3	2	1
理⑦	数学関数について理解できた	4	3	2	1
理⑧	乱数の扱いについて理解できた	4	3	2	1
理⑨	配列について理解できた	4	3	2	1
技能・スキル					
技①	フローチャートを書けるようになった	4	3	2	1
技②	変数を使ったプログラムを作成し、動かすことができた	4	3	2	1
技③	簡単な計算や数字の入力を行うプログラムを作成し、動かすことができた	4	3	2	1
技④	if 文を使ったプログラムを作成し、動かすことができた	4	3	2	1
技⑤	for を使ったプログラムを作成し、動かすことができた	4	3	2	1
技⑥	while、do-while を使ったプログラムを作成し、動かすことができた	4	3	2	1
技⑦	乱数を使ったプログラムを作成し、動かすことができた	4	3	2	1
技⑧	配列を使ったプログラムを作成し、動かすことができた	4	3	2	1

## 序章 アルゴリズム編

### その1 アルゴリズムとは

☆アルゴリズムとは、(コンピュータ等で) データを処理するための流れや手順のことを指す。

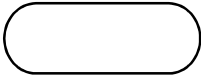
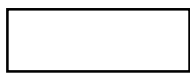

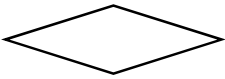
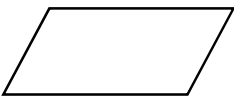
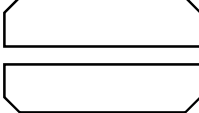


#### ・アルゴリズムについて

アルゴリズム(データの処理の流れ)には、3つの構造がある。

名称	説明
	各処理が直線的に並ぶ構造
	条件によって、ループ始端と終端の間を繰り返し実行する
	条件により処理が分かれる

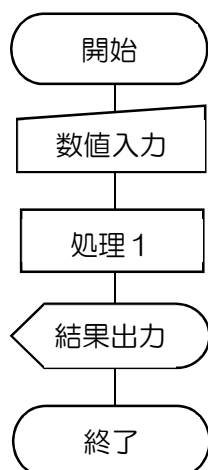
#### ・フローチャートについて

フローチャートを作成する際には、以下のような記号を用いる。

記号	名称	意味	記号	名称	意味
		プログラムの開始・終了			一般的な処理
		表示装置に表示されるデータ			条件分岐
		データの入出力			繰り返し
		キーボードから入力			データや制御の流れ

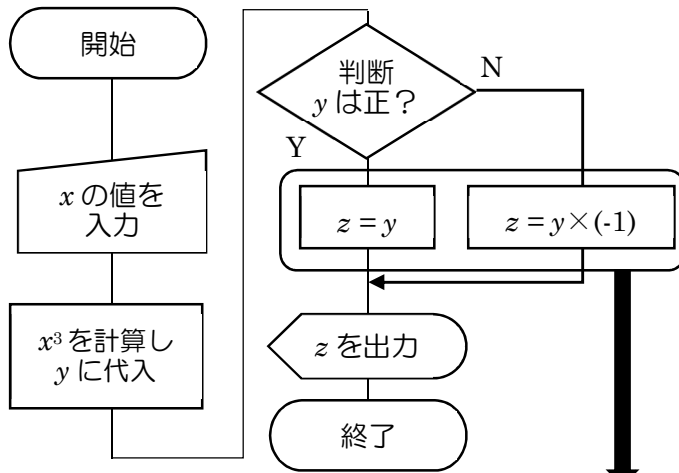
・下に挙げるフローチャートを見て、どのような流れで処理されるか考え、右側に書いてみよう

(1)



1	開始
2	数値を入力する
3	
4	
5	
6	

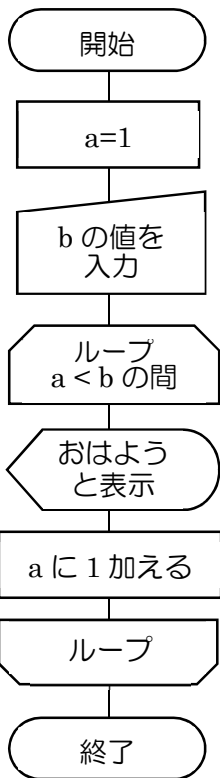
(2)



1	開始
2	
3	
4	
4	で のときは
5	4で のときは
6	
7	
8	

※補足  
 プログラミングでは、 $z = y$  や  $z = y \times (-1)$  のような表記をします。 $=$ があったら次のように覚えておいて下さい。「 $=$ の左に右の値を代入」

(3)



1	開始
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

問題にチャレンジ (イメージして、思考力を深めてみよう!)

- ・上記 (2) のフローチャートに従ってコンピュータが処理をする場合、 $x$  に  $-3$  を入力すると得られる結果は何になるか。
- ・上記 (3) のフローチャートで、 $b$  に  $3$  を入力すると、画面にどのように表示されるか。

自己評価  
 理① 技①

# 第1章 基本編

## その1 一般的な処理

### (1) 文字を表示しよう

- ① `alert("表示内容");` 「表示内容」をダイアログで表示する。
- ② `document.write("表示内容");` 「表示内容」をページ内に表示する。

#### (例1-1)

```
<html><body><script>  
alert("Good morning");  
document.write("Hello");  
</script></body></html>
```



### (2) 変数を利用してみよう

- `let a;` または `var a;` a という変数を、中身を空のまま定義する
- `let a,b,c;` または `var a,b,c;` a、b、c という変数を定義する
- `let a=0;` または `var a=0;` a という変数を定義し、0 を代入する

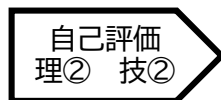
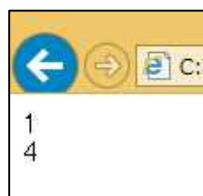
#### (例1-2)

※`<br>`は改行をするためのコマンド。

※命令は`<html><body><script> ~ </script></body></html>`の間に記述すること。

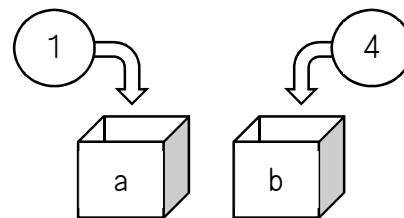
なお、これ以降は説明から省略する。

```
let a = 1;  
let b = 4;  
document.write(a,"<br>");  
document.write(b,"<br>");
```



#### 変数の考え方

変数とは、プログラム上で計算させるために準備する、数字や文字などを一時的に格納しておく箱のようなものです。この箱がないと、コンピュータが計算や処理をした結果を保存することができません。



また、フローチャートのところで  $z = y$  について記載しましたが、この意味は、「=の左に右の値を代入」でした。変数を利用して再度説明すると、「=があった場合は、左の変数に右の変数の中身を代入する」となります。覚えておきましょう。

```
let a = 1;  
let b;  
b = a;
```

右の例は、b という変数に変数 a の変数の中身を代入するものです。

※ (参考) b の値は？

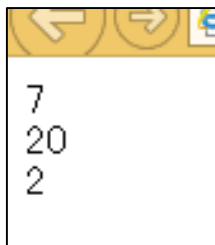
### (3) 計算をしてみよう

```
m = 1+2;
n = a*5;
s = 30%4;
```

変数mに1 + 2の結果を代入  
 変数nにa × 5の結果を代入  
 変数sに30を4で割ったあまりを代入

#### (例1-3)

```
let a = 3;
let b = 4;
let c = 5;
document.write(a+b,"<br>");
document.write(b*c,"<br>");
document.write(c%a,"<br>");
```



演算子 (実際はすべて半角)		意味	補足・注意点など
算 術 演 算 子	+	足し算	文字の結合にも使える
	-	引き算	
	*	かけ算	読み方：アスタリスク
	/	割り算	0で割ったらエラーになる
	%	割り算の余り	割り算の結果(商)は出ない
関 係 演 算 子	a == b	(aがbと) 等しい	代入の = と混同しない
	a != b	(aがbと) 等しくない	
	a < b	(aがbより) 大きい	
	a > b	(aがbより) 小さい	
	a <= b	(aがb) 以下	
	a >= b	(aがb) 以上	

### (4) キーボードから入力してみよう

```
m = prompt("表示内容");
```

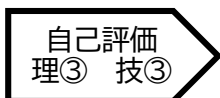
「表示内容」を表示した入力用のボックスを表示する。入力した内容を変数mに代入する

#### (例1-4)

```
let a;
a = prompt("Input the Number");
document.write(a,"<br>");
```



4を入力し、OKをクリック



## その2 判断分岐 (if文)

```
if (条件) {  
    条件が真の時の処理;  
}  
else {  
    条件が偽の時の処理;  
}
```

- ・条件には、関係演算子を利用する
- ・条件が真=条件に合う場合
- 条件が偽=条件に合わない場合

} (とじかっこ) を忘れないこと!

関係演算子は  
前ページ参照

### (例2)

```
let a,b;  
a=parseInt(prompt("NUMBER"));  
b=a%2;  
if(b==0){  
    alert("even number");  
}else{  
    alert("odd number");  
}
```

変数aとbを定義する

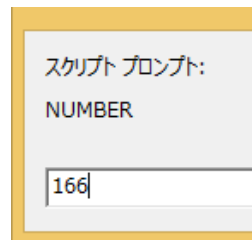
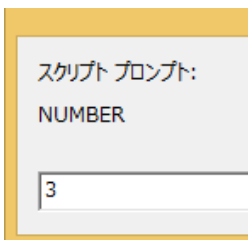
変数aに、キーボードからの入力を数値として代入する  
入力した数値の余りを求め、変数bに代入する

(if文開始) もし変数bの中身が0だったら  
「even number」と表示する

そうではない場合は

「odd number」と表示する

(if文終了)



※else ifを使うと、複数条件の分岐も可能。

```
if(条件1){  
    条件1が真の時の処理  
}  
else if(条件2){  
    条件2が真の時の処理  
}  
else if(条件3){  
    条件3が真の時の処理  
}  
else{  
    どの条件にも当てはまらないときの処理  
}
```

最後はelseのみ!  
else ifにしない

自己評価  
理④ 技④

### その3 繰り返し

#### (1) 規定回数繰り返す (for)

```
for ( 初期化 ; 実行条件 ; 増分処理 ){  
    実行内容  
}
```

初期化：数を変えたい変数にスタート値を代入する  
実行条件：「実行内容」を行いたい変数の範囲  
増分処理：初期化で定義した変数の変化量  
※ } (とじかっこ) を忘れないこと！

#### (例3-1)

```
let a,s=0;  
for(a=1;a<=10;a=a+1){  
    s=s+a;  
}  
alert(s);
```

変数 a、s を定義し、s に 0 を代入する  
a に 1 を代入。a が 10 以下なら繰り返す。a は 1 ずつ増える  
s + a の計算をし、s に代入しなおす  
(a <= 10 が真なら繰り返す)  
s の内容をダイアログで表示



#### (2) 条件を満たすまで繰り返す (while、do while)

```
while ( 実行条件 ){  
    実行内容  
}
```

実行条件を満たす間  
「実行内容」を繰り返す  
※ } を忘れない！

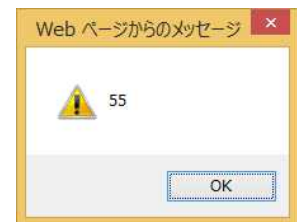
```
do{  
    実行内容  
}while ( 実行条件 )
```

繰り返し開始  
「実行内容」  
実行条件が真なら繰り返す

#### (例3-2-1)

```
let a=0,b=0;  
while(a<=10){  
    b=b+a;  
    a=a+1;  
}  
alert(b);
```

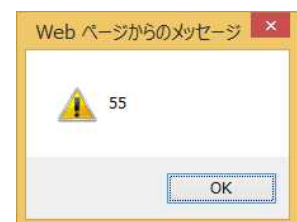
変数 a、b を定義し、両方に 0 を代入  
a が 10 以下の間、繰り返す  
b + a の値を b に代入する  
a + 1 の値を a に代入する  
(ループ)  
b の内容をダイアログで表示



#### (例3-2-2)

```
let a=0,b=0;  
do{  
    b=b+a;  
    a=a+1;  
}while (a<=10);  
alert(b);
```

変数 a、b を定義し、両方に 0 を代入  
(繰り返し開始)  
b + a の値を b に代入する  
a + 1 の値を a に代入する  
a が 10 以下の間、繰り返す  
b の内容をダイアログで表示



※上の例 (3-2-1) と例 (3-2-2) のプログラムの違いは何だろうか？

自己評価  
理⑤⑥ 技⑤⑥



## 第2章 初級編 ※記号はすべて半角英数!

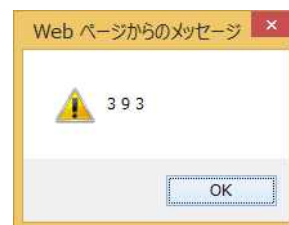
### その4 数学関数

Math.floor(n)	nの値の小数点以下を切り捨て	Math.sqrt(a)	aの平方根( $\sqrt{\quad}$ )を計算
Math.ceil(n)	nの値の小数点以下を切り上げ	Math.max(a, b)	aとbの大きい方
Math.round(n)	nの値の小数点以下を四捨五入	Math.min(a, b)	aとbの小さい方
Math.random()	0以上1未満の乱数を生成する	Math.sin(a)	sinを計算する
Math.PI	円周率( $\pi$ )の値を生成する	Math.cos(a)	cosを計算する
Math.pow(a, b)	aのb乗を計算する	Math.tan(a)	tanを計算する

#### (例4)

```
let a,b,c;
a = Math.floor(Math.random()*4);
b = Math.pow(a,2);
c = Math.sqrt(b);
alert(a+" "+b+" "+c);
```

変数 a、b、c を定義する  
 3以下の整数をランダムで発生させ、aに代入  
 bにaの2乗の値を代入する  
 cにbの平方根を代入する  
 a～cの値をダイアログで表示



※ランダムな数字を作りたい場合は、Math.random()を使うが、これは「0以上1未満の乱数」を作るところに注意。つまり、0から0.9999....の間の数字を作ることになる。例えば、3以下のランダムな数字を作りたい場合にMath.random()\*3とすると、0~0.99...\*3 = 0~2.99...となり、0以上3未満の数しか作れないため、工夫が必要となる。

自己評価  
理⑦⑧ 技⑦

### その5 配列

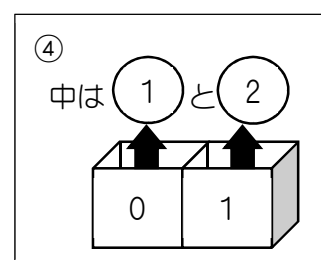
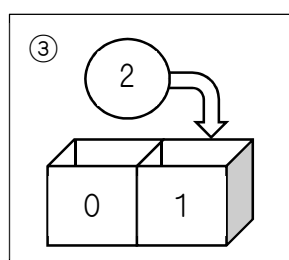
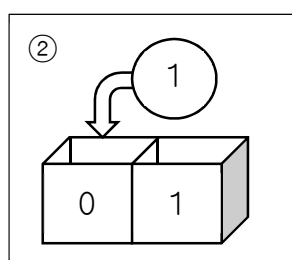
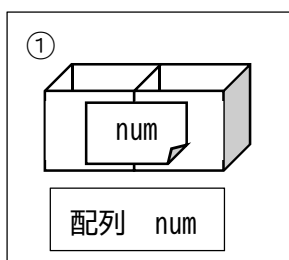
<配列名> = new Array()

<配列名>の名前のついた配列を作成

#### (例5)

```
let num = new Array;
num[0]=1;
num[1]=2;
alert("中は"+num[0] +"と"+ num[1]);
```

①配列を定義  
 ②0番ボックスに1を代入  
 ③1番に2を代入  
 ④配列の0番と1番の内容を合成してダイアログに出力



※配列の番号は0番から始まるので注意すること!

- ・ 配列の長さを指定する場合（長さ n の場合）

<配列名> = new Array(n)

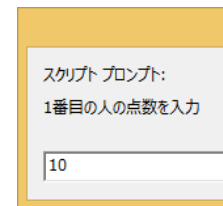
- ・ 配列を作成し、そのまま要素を入れる場合

<配列名> = new Array(1,2,3,4,...)

## その6 配列の応用

### (例6)

```
1 let a,i,j;
2 a = new Array(5);
3 for(i=1;i<=5;i++){
4     a[i] = parseInt(prompt(i+"番目の人の点数を入力"));
5 }
6 document.write("テスト結果発表<br>");
7 for(j=1;j<=5;j++){
8     document.write(j+"番目の人の点数は"+a[j] + "点<br>");
9 }
```



```
テスト結果発表
1番目の人の点数は10点
2番目の人の点数は20点
3番目の人の点数は30点
4番目の人の点数は40点
5番目の人の点数は50点
```

### <プログラムの説明>

- 1 変数 a、i、j を定義
- 2 変数 a に長さ 6 の配列を定義（箱が 6 つある配列（名前は a）を作る）
- 3 i が 1 から 5 の間繰り返す。i は 1 ずつ増える
- 4 配列 a の i 番目の点数をキーボードから入力させる
- 5 繰り返し終了
- 6 「テスト結果発表」と表示
- 7 j が 1 から 5 の間繰り返す。j は 1 ずつ増える
- 8 4 行目で入力させた、配列 a の j 番目の内容（点数）を表示
- 9 繰り返し終了

### <別解>

```
1 let a,i;
2 a = new Array(5);
3 document.write("テスト結果発表<br>");
4 for(i=1;i<=5;i++){
5     a[i] = parseInt(prompt(i+"番目の人の点数を入力"));
6     document.write(i+"番目の人の点数は"+a[i] + "点<br>");
7 }
```

自己評価  
理⑨ 技⑧

**（1）全般的な意見・感想**

○権限のないリーダーシップ教育を柱にして、生徒達が積極的に学習活動を行う中で、自己肯定感を高めてリーダーシップを育て、同僚支援等を経てグループで課題解決が達成できるようにするのは、今後の教育において大事であると思いました。

○今回の研究において、貴校では「リーダーシップ教育を柱に据える」ことを明確に打ち出し、その教育を通じて生徒に「自分自身の強みや弱みを掘り下げ、他者への支援行動や援助希求行動を選択できる」力を育成することを施行された。他者への働きかけまでを教育目標に掲げて取組まれている点が大いに参考となった。今後、本校生の実態に応じた授業作りに向けて活かさせて頂きたい。

○リーダーシップ教育で自己肯定感を高め、率先垂範や同僚支援などの力も高めながら教科活動や委員会活動等にも取組を広げ、学校における教育活動全般を通して取組となっており、大変すばらしい研究となっていると感じました。生徒にとっても生きていくうえで必要な多くの力を身に付けることができるとともに、授業等での学習効果も高めることができるすばらしい取組だと感じました。

○「SOSの出し方に関する教育」と聞いて、いじめ問題や仲間づくり、ストレスへの対処など、学校生活に関わることしかイメージできておりませんでした。が、「リーダーシップ」という視点からのカリキュラムマネジメントなどを行うというテーマ設定が素晴らしいと思いました。

○教科の授業での実践を見せて頂いて、自己肯定感や援助希求力を高める活動は、いわゆる「心の学習」のような特別な時間でなくともできるのだと学びました。生徒に態度目標を示し、振り返らせることで日常の授業が「教科の学び」と「自己肯定感・援助希求力の向上」の両方が得られる場が変わるのだと思いました。

○生徒さんたちが楽しみながら学んでいる姿が印象的でした。生徒さん達は、自分の役割を持ち、何らかの役に立っているという実感（自己有用感）や協力して答えを完成させる喜びを知っているから、積極的な授業参加ができるかもしれないな、と思いました。また、授業の中身に入る以前に授業規律がきちんと守られていて、学習環境の重要性を改めて感じたところです。

○研究授業の「リーダーシップ教育の視点を取り入れた物理実験の実践」や公開授業のグループエンカウンター「共同絵画」、「各教科でのリーダーシップ教育の実施状況」等、どの授業においても生徒が主体的に学習に参加し、取り組んでいる様子が見られ参考にさせて頂きたい内容が多くありました。

○VTRの中で、生徒同士が同じ目標・目的に向かって協力し合い、課題解決に向けてコミュニケーションがとれている場面が多く、人間関係の構築に向けた実践に学校全体で取

り組まれていると感じました。

○研究テーマである「リーダーシップ教育を柱とした援助希求力の育成」に沿って、各教科・特別活動等すべての場面において権限を持たない人が発揮できるリーダーシップが意識されており、その分野において得意な生徒がリーダーシップを発揮し、自己肯定感を高めることができるとともに、苦手な分野では得意な生徒に支援を求めやすい環境が整備されているように感じました。自己肯定感が低いのは、短所に目が行きがちの部分が多いからだと思いますが、自分の長所に気付きさらに高めようとする意欲が向上し、自己肯定感を高めることにつながると感じます。

○これまでのリーダーシップの概念を再構築した「権限のないリーダーシップ」の育成とは、全ての生徒を対象とした、これからの時代を生き抜くために必要な力の育成であると理解しました。

○動画の中で、生徒達がそれぞれに助け、助けられながら、課題に取り組み、学びを得ている様子が伺えました。また、先生方も生徒達にその様な場を提供するコーディネーターとしての役割を果たされているように感じました。

○「SOSの出し方に関する教育」というと、エンカウンターのような特別なプログラムととらえがちですが、各教科すべての授業において、SOS教育の視点を取り入れていくことが可能であり、必要なことなのだと改めて実感しました。

○貴校や本校の場合は、比較的にリーダーシップをとった経験がある生徒が多いように感じます。したがってひと押ししてあげると大丈夫だと思いますが、援助希求力は乏しいように感じます。教えることはいいけれど、教わるのはプライドが許さないというのがあるように思います。やはり、一年生の早い段階から取り組むことで効果が上がるのではと考えました。他校においても、中学校から進学して大きく周りの人間関係が変化するので、自分を変えるチャンスだと思います。このような取り組みを紹介することは、貴重だと思います。ありがとうございました。

○学校全体で1つのテーマに対して取り組まれたことが素晴らしいと感じました。教科の中でリーダーシップを養っていくということで、教科によっては難しい部分が多くあったと推察します。本校、本教科でも取り入れていきたい視点でありました。

○リーダーシップをとることから、SOSを出せるようになるという部分においてなかなかイメージが湧かないというのが率直なところです。

○グループ活動等の目標を明確にすることの大切さを再確認できました。

○リーダーシップ教育は今後必要になるものと考えます。特に、自分にできることを頑張り肯定感をあげるという活動は、大人数ではなく、グループの中の互いの理解が後押ししてくれるものであると研究を通して感じることができました。ただ、話す、ではなく内容や目的を明確にすること、フィードバックを行うこと等の準備をこちらもしっかりと学習する必要があります。

○しっかりと準備が整い、淀みなく進行する大変視聴しやすい発表会でした。また、多くの

先生が発表されましたがそれぞれポイントが良く整理されており、いずれも授業での狙いと成果が良く分かりました。

○今までの教育の仕方というのは生徒の自己肯定感をいかに育てるかというポジティブな面ばかりを強調するものが多かったと思います。ですが、今回の研修を経て、自分の強さだけに目を向けるのではなく弱さにも目を向けてそれを受け入れ、さらにそれを周りに発信し助けを求めていく生徒を育てようとしているのだということを理解することができました。また、SOSの出し方に関する教育とリーダーシップの育成がどのように関連づけられるのか研修を受ける前は分かりませんでした。が、研究校の先生方の実践を参考にさせて頂くことでイメージがわきました。

○SOSの出し方に関する教育というと、LHRだけで完結して特別扱いされるものというイメージが多かったですが、済々黌高校さんが各教科と関連づけて教科の中でそれを育成しようとしていることに感銘を受けました。自分にできないことを伝えてそれを共有し仲間と共に解決に向かうという協働作業が教科の特性とうまくブレンドされていると感じました。

○最近、優れたリーダーとは引っ張っていくワンマンタイプのリーダーから、共感できるリーダーだとある本で目にすることがあります。強いだけのリーダーではなく、仲間の弱さに気づき、受け入れ、時には自分の弱さもさらけ出して共に解決するリーダーこそこれからのリーダーに求められる資質かもしれません。生徒一人ひとりにその力を育成することは果てしない道のりではありますが、ぜひその手伝いができればと思います。

○主体的・対話的な学びがリーダーシップの育成につながり援助希求力の育成に繋がっていくことが新しい発見であった。そのためにカリキュラムマネジメントを手段として教科横断的に進められていることが素晴らしいと思った。また、自己肯定感の育成と自分のウィークポイントの理解・発信に着目されていることが私にとっても新しい発見であった。

○リーダーシップ教育というと、名前を聞いただけで身構えてしまうところもあったのですが、先生方の発表の様子を見て、想像以上に気軽でおもしろいものだ、ということに気づきました。何よりも、生徒がとても楽しそうにエンカウンターに参加し、授業を盛り上げていたと思います。今日は、「自己肯定感をあげながら、仲間づくりもする授業」を見させていただきました。ありがとうございました。

○それぞれの教科でリーダーシップ教育を行うための目標設定がなされ、実践、分析がなされている点がいへん参考になりました。生徒の皆さんの活動も活発で頼もしく感じました。

○高校生の時期に生徒の自己理解を促すということは非常に重要なことだと感じます。等身大の自己を受け入れ、そこから目標の自己を目指し、必要に応じてSOSを発信できる力を身に付けることは、今後の社会で必要だと思います。

○「権限のないリーダーシップ教育」を各教科で実践されており、限られた発表時間の中ではありましたが、その成果をうかがうことができました。本校の生徒の8割は中学校時代に

不登校経験があり、他者とのコミュニケーションスキルに課題のある生徒が多く在籍しています。従来のリーダーシップの捉え方で言うと敬遠してしまう生徒ばかりです。アンケートの結果からも、「自分は何の役にも立っていない」「自信や自慢できることがない」と感じている生徒が半数以上おり、自己有用感・自己肯定感の在り方が課題です。しかし、今回の発表であった非言語的コミュニケーションや各教科で実践されていた他者と協働して課題解決へ向かう授業デザインなど非常に参考になりました。是非本校でも実践し、今後の教育活動に活かしていきたいと思いました。

○本校での高校入学後、授業のスピードや課題を上手くこなせず、不登校になるケースがあり、課題は同じだと感じました。協力しやすい場面を多く取り入れることで、普段でもお互いに協力しよう、また、困った時に相談しようという気持ちが自然と身につくのではと思いました。

○リーダーシップ教育について紹介された記事を見たことがあったので、前から興味を持つ内容でした。「権限のないリーダーシップ」をベースにリーダーシップの育成を図ることが、本日の各教科の授業の映像をみて、また授業後の生徒の変容を見てよく理解できました。変化の激しい時代を生き抜くためには、主体性、共感力、やり抜く力が求められます。このような力を見につけさせるために、育成する資質能力を各教科が言語化、率先垂範、同僚支援という視点で組み立てられているところが大変優れていると思いました。多様な生徒が存在する中で、このような実践を積み重ねることで、自己肯定感が高まるのではないかと思います。

○昨年からの引き続きの取り組み、コロナ禍での実践、リモートによる発表会ということでご準備も大変だったかと思います。私が勉強不足で、授業を通して「SOSの出し方に関する教育」に取り組むことは想像もつきませんでした。ホームルーム活動で、なかま作りの一つとして取り組まれているのかと思っておりましたが、全ての教科で取り組まれており、授業の中でも実践できることを教えて頂きました。

○各教科・領域で具体性を持った展開が行われていることに、感銘を受けました。目標の共有化や同僚支援・率先垂範を先生方自ら実践されていることで、生徒自身に権限のないリーダーシップの力が身についていることに繋がっていると感じました。生徒が、今後課題や困難な問題に直面した場合でも、貴校のリーダーシップ教育により、生徒のレジデンスが発揮されることが予想できます。

○生徒は自己表現が苦手な子が多いです。自分の失敗や悩みを打ち明けることが苦手な子どもが多いです。困難な状況や苦しい状況の中でどのようにして、SOSを出していくのか大変興味がある内容でした。今回の発表会を通して「SOSの出し方」について知るきっかけとなりました。

○「権限のないリーダーシップ」という言葉を初めて知りました。生徒達は、グループワーク活動を通して、共通の目的を持ち、その目的に対して互いがどのように行動するのか考えていました。各教科で実践されているため、系統的横断的な指導ができるのだと思います。

○「SOSの出し方教育」という言葉からイメージするのは、「いじめを受けている生徒が自分から声を上げてくれたり、いじめの可能性に気付いた生徒が声を上げてくれるためのやり方を学ぶ」というものです。しかし、リーダーシップに注目して、集団としてもSOSを上げやすい雰囲気を作り出すという貴校の実践は、発想の転換であり、とても斬新なものを感じました。

○参観前は、SOSの出し方教育とリーダーシップ教育の関連が分かりませんでした。 「自分自身ができないことや困っていることなどの弱みを他者に見せずに自分自身だけで解決しようとする生徒がいる」という現状を踏まえた上で、誰もが困っていることを困っていると云えることと、それを受け止め支援する力の育成であると感じました。SOSを出すことは、緊急事態に限定されるものではなく普段の生活の中でも必要なものであり、そこで付けた力が緊急時にも役立つのだと思います。自分の授業でも取り組んでみようと思いました。また、特設LHR等の限定的な教育ではなく、全教科で取り組まれているところがすばらしいと思いました。

○市内の大規模な進学校でも様々な問題や課題を持つ生徒がいるのだということがわかりました。また、資料や発表内容から、教育相談部を中心としたしっかりとした推進体制ができていたことがわかりました。

○集団で何かを成し遂げる際、共通の目標を設定し、それを成功させるために協力していく。生徒が主体的・協働的・深い学びを意識した活動を行う中で自己肯定感を高め互いを尊重し合う支援行動や援助希求行動が見られた。何よりもそれが、全ての教科・授業で実践されていることが素晴らしいと感じました。大変勉強になりました。

○準備から動画編集など十分な取組と準備をされている様子を感じた。学校全体で取り組みをされていることもわかり、授業の様子など本校にとっても学びの多い内容であった。

○将来において社会のリーダーを育てる貴校の雰囲気を感じる事ができた。

○今回の実践だけでなく、従来からリーダーを育てることができる、学校の校風や教育実践がなされていることが分かり、さらにこの研究実践により深まるのだということが分かった。

○貴校においては、将来設計やグループで行う仕事での分担など自発的に行う生徒が多く、授業で支持されていなくても「権限のないリーダーシップ」の実践は普段から行う生徒が多くいるのではないかと思われた。

○授業（動画）では、「援助を求める表情」「自信がある表情」、さらに「自分の得意分野を他人に伝えるコミュニケーション」など、これまでの自分自身の授業でも生徒が似たようなサインを出す場面があり、そこをうまく拾えていなかったと反省すべき点が多かった。声掛けやそのタイミングなどのたくさんのきっかけがあり、今後の授業の参考にしていきたい。

○「SOSの出し方教育」と最初に聞いたとき、いじめやSNSなど生徒指導の観点や取組みが大きくかわることを予想していた。しかし、私自身のその発想のスタートが間違っており、普段の授業内での取組がいかに重要であるかに気付かされた。生徒に自信を持たせ、

さらに生徒自身の価値を見出していくことこそが教育の本質につながっていくものだと感じた。指導力の向上やスキルアップにつなげていきたい。

○今回の研究発表では、先生方が同じ目標に向かって、各教科で工夫されて授業に取り組んでおられる様子がよくわかりました。

○同じ目標に向かって職員が一丸となり、取り組まれている様子に感動しました。教科の内容を学ぶと同時に、コミュニケーション能力の向上や人間関係の構築ができるような授業の組み立ては、大変勉強になりました。どの教科においても、「権限のないリーダーシップ」が発揮できるような工夫ができることがわかり、とても参考になりました。

○休校で学校行事が激減し、生徒間の人間関係の構築の難しさ等は、本校でも当てはまった。

○「権限のないリーダーシップ3つの最小要素」（目標設定・共有 同僚支援 率先垂範）の説明が分かりやすかった。各授業のほか、部活等生徒の得意分野から自己有用感を高め、自己肯定感を高めることへ繋がると良いと思った。

○各教科、全員参加型のグルーピングが良かった。

○自己理解と他者理解の大切さを改めて感じた。

○気持ちの表出、他者への気持ちの授業の学習を自立活動等はじめ、児童生徒の実態に合わせて積み重ね、般化へつなげたい。併せてSOSの出し方や問題解決方法を一緒に考え、実践へつなげていきたいと思う。

○リーダーシップを発揮し、同僚と協働し率先垂範する人材を育てるために必要な能力を意識して伸ばす教育に様々な工夫を感じました。

○SOSの出し方よりも、いかにしてSOSを出していなくても周囲がそれを感じ取り集団として助けていくかに主眼があるように感じました。

○リーダーシップ教育の視点を取り入れた授業を拝見させて頂き、授業ごとに様々なアプローチで実践されており、自分自身の教育活動を改めて振り返ることができました。

○「SOSの出し方教育」と聞いて、自らSOSを出す手段を学ぶことに着目しがちであります。リーダーシップ教育を教育活動に取り入れ、自己肯定感を高め、他者理解を促す、根本的な部分に着目されており、非常に勉強になりました。私自身、生徒をすぐ援助してしまう部分があるため、学習性無極感を感じさせないよう見守りながら工夫していく必要があると感じました。

○貴校の研究目標にありました「自己肯定感」、「自分自身を掘り下げる」、「支援行動や援助希求行動」は、聴覚障がいのある本校生徒にとりましてきわめて重要な事柄です。日頃より意識して教育活動を進めてはおりますが、「毎時の授業や教材へ具体的にどのように反映させているか」と問われても即答できるよう、意識の水準を上げなければならないと感じました。説明の中で、「リーダーシップはスキルである」と言われていました。生徒達の卒業後の豊かな社会生活のために、必要な支援を行いつつ大切に育てたいと改めて感じました。

○対象となる生徒、職員、各部に浸透した取組で、課題に関しましても、きちんと分析が行われ、関連する各種取り組みや各教科の指導に反映されていることが発表を通じてわかり



ました。また、生き生きと活動に参加する生徒の皆さんや先生方の姿もとても素晴らしく、組織としての取組に感銘を受けました。

○「権限のないリーダーシップ」とはどのようなものであるか、より詳しく知ってみたいと思いました。

○生徒が生き生きと学習に取り組む姿勢が素晴らしかったです。

○「SOSの出し方に関する教育」を特別なものでなく、各教科の中で実践されていることが分かった。

○各教科で、生徒がグループワークをしながら課題解決に取り組んでいたが、その活動の中で、全員が「権限のないリーダーシップ」を取ることができたのか？積極的でない生徒やリーダーシップをとることに躊躇する生徒はいなかったのか？ということが動画では見えづらかった。

○授業の中では、ポジティブフィードバックを行われていたが、「自分を知り」「グループに貢献するために自分は何ができるか」を考える力を育てていくために大切だと思った。

○権限のないリーダーシップ教育について3つの要素を生徒に提示し、生徒も職員も意識して授業に取り組んでいる研究は授業改善の視点からもとても参考になった。3つの要素がいわゆる「態度目標」として生徒に提示され、自己評価、他者評価で振り返る一連の授業の組み立て方は、どの学校でも実践できると感じた。

○目指すべき生徒の姿を生徒も職員も共有し、学校全体で取り組むことの大切さを改めて感じた。

○研究指定校授業の取組はとても参考になった。特別支援教育的な視点が多く取り入れられ、生徒の自己肯定感の向上、さらには職員のスキルアップに繋がる取組であることが良く分かった。

○学校全体で取り組んでいらっしゃる様子が伝わりました。各教科での事例も示していただきましたので、本校職員にも貴校の取組を紹介し、取り入れていきたいと思いました。

○自分の困り感を他者にわかってもらうことの必要性を感じ、教員がそれぞれの立場で生徒にも話しますが、貴校のように学校全体で取り組んでいらっしゃることに意義があります。SOSの出し方に関する教育をリーダーシップ教育と関連づけて取り組んでいらっしゃる事が素晴らしいと思いました。

○SCの先生方と連携していらっしゃる点も参考になりました。大変お世話になりました。

○どの教科でも「目標を共有する」ことを大切にされていると伝わってきました。入学後から系統的にリーダーシップ教育を柱としたカリキュラムマネジメントを行い、現在必要と感じる自己肯定感を高める教育がされていることが分かりました。

○各先生方が同じ目標に向かって動いておられ、学校としての勢い・力強さを感じました。先生方の授業内容も動画を取り入れて説明して下さり、文章だけではイメージできない部分もしっかり伝わってきました。濟々賢の生徒の皆さんの授業に真剣に取り組む姿を見て、先生方の授業展開を参考にしたいと思いました。

○「リーダーシップ教育を柱とした援助希求能力の育成」を研究テーマとされておられることに発想の豊かさを感じました。「SOSの出し方」と言えば、困り感の強い生徒にどう言葉を発してもらおうのかというような内容だと思っていたところ、まったく違う内容の研究発表でした。自分自身を深く掘り下げ自己肯定感を高め、場に応じて支援行動や援助希求行動をとることのできる人材の育成を目指しておられ、有意義な研修になりました。しかし、自校にどのように取り入れたらいいのか、少し難しさを感じました。

○公開研究授業については、実際の授業の雰囲気を知ることはできませんでしたが、VTRに分かりやすくまとめてあり、また、各教科の実施状況についても、報告がなされ通常の研究発表会より多くの情報を知り得ることができました。

○本校でも自分自身の弱みを掘り下げることが必要以上にできる生徒がいます。しかし、逆に自分自身の強みをリーダーシップ教育という形で生徒に気付かせることが今回の「SOSの出し方教育」の実践の中でできていて、とてもすばらしいと感じました。

○普段参観する機会のない授業を見ることができ、とても新鮮でした。「SOSの出し方教育」と聞き、どのような教育なのかイメージすることが難しかったのですが、研究の概要報告の中で、目標や現状と課題、具体的な研究計画などを聞き理解することができました。また、公開授業のほかに、各教科のリーダーシップ教育の実施報告も聞くことができ、学校の教育活動全体で取り組まれているということがわかりやすく伝わりました。

○リーダーシップの3要素やリーダーシップの視点を取り入れた全員参加型のグループ学習方法を、授業開始時に伝えることで、生徒自身も意識することができるので、いい取組だと思いました。また、リーダーシップの育成の取組の中で、生徒一人一人が得意不得意の生じやすい教科や教科とは違う雰囲気のHR活動等学校生活のあらゆる場面で取り組むことで、どの生徒も支援行動や援助希求力が選択できる場面が設定されるので効果的だと感じました。

○貴重な研究授業を拝見させて頂き、ありがとうございます。様々な教科での授業を見させていただいたので、それぞれの工夫されている点があり、自分の教科でどのように活かせるのか、イメージしやすかったです。ただ、甲佐高校は少人数のため、1クラス40人程度の様子を久しぶりに見ました。生徒さんたちがなごやかに、積極的に取り組んでいて先生方の熱心な授業の成果が表れているように思いました。

○まず、学校全体で取り組んでいることが素晴らしいと思いました。目標共有・率先垂範・相互支援、リーダーシップ教育では、あきらかに生徒の意識が良い方向へと変わっていることが%で示されていました。どこまでできるかわかりませんが、参考にさせていただきます。

○コロナ禍で教育活動にも様々な制限がある中、苦心・工夫された研究実践に敬意を表します。

○不安な気持ちになった時に、自分の思いを伝えるための基本的な考え方と学校生活における日常的な手立てについて大変勉強になりました。また、各教科の授業で自己肯定感を高める工夫が随所で行われていたことが参考になりました。

○「SOSの出し方に関する教育」という見出しの研究だったため、始めはリーダーシップ教育と結びつかなかった。しかし、発表を受け、授業の中でリーダーシップを身に付けさせることが結果的に援助希求力（SOSを出す力）の育成に繋がるということに合点がいった。また、リーダーシップを先天的な資質ではなく、スキルであると捉え、授業の中で育成することができるという考え方は、本校の授業改善の中でも取り入れていきたい。

新指導要領総則の中では「学習活動と関連づけた生徒指導」を記されており、授業の中で生徒の発達を支援していかなければならない。今回の研究発表を受けて、授業では目指す生徒像から逆算した「問い」を立てることがより重要になってくることを再認識させられた。

○一般に学校における「SOS」は、いじめや不登校、虐待など緊急かつ深刻な問題について発信されるものをイメージする。しかし今回の研究では、「誰もが持つ日常の困り感」といった視点から展開されている。始めに研究で扱う「SOS」の定義を明らかにしておく、より分かりやすかったのではと感じる。

○「権限のないリーダーシップ」や援助希求能力など、不勉強なためもありますが、初めて知る考え方と出会った上で、組織的に取り組まれている、各教科の実践を豊富に拝見できたところで、大変有意義な研修となりました。

○「リーダーシップ」という考え方と結びつけていらっしゃるところに、学校の強みを踏まえていらっしゃるなど率直に感じました。「SOSの出し方」と聞くと、人間関係に困っている生徒が助けを求められるようになるというイメージを抱いていました。ですが、そういう生徒を対象にしつつもそうでない生徒の人間的な成長も後押しするという考え方が大変勉強になりました。年間を通して複数教科でご実施されていましたが、各教科の実践で生徒が生き生きと意見を発表する姿や、黙々と学習に励む姿を見て、コミュニケーションに係る教育の重要性を再認識できました。

○SOSを出すという観点も必要ですが、SOSを受け取るという視点も必要だと感じました。受け取ってくれるからこそ、安心してSOSを出せるのではないかと思います。

○「権限のないリーダーシップ」という考え方が素晴らしいと感じました。本校は農業高校であり、農業の実習中は集団での活動を行うことが多くありました。この考え方を入れることで、生徒がより主体的に対話的に実習ができるのではないかと感じました。

## （2）教科に対する意見・感想

○体育のハンドボールの授業で、チームミーティングを繰り返し行い意見を出し合って確実に次の試合に活かしていくことなど、グループで課題解決をしていくことが印象的でした。

○会の中で最も印象的だった言葉は物理の中山先生から「出席者から参加者へ」です。自分自身の授業を振り返ると、教師と生徒、生徒と生徒のやり取りが十分にできていないように感じました。「わからない」という意思表示も授業に参加していることを示す手段だということも印象的な表現でした。それを教師・クラスメイトがどうくみ取るのが大切なのだと

分かりました。理科の授業は実験という手段を使い、役割を持たせることで各々のリーダーシップを発揮することができることがわかりました。リーダーシップとは、主体的に参加することと同義のような気がしました。普段の授業で消極的な生徒、物理が苦手な生徒が積極的に実験をし、仲間と協働している姿を見ることができました。我々教師はその状態を作るために準備と努力を怠ってはならないと痛感しました。必要最低限の適切な言葉かけを日ごろから心掛けたいと思いました。

○目標を繰り返し提示することも大切なだと知ることができました。同じゴールを共有して、自分が今何をすべきなのか考えさせて授業への参加を促していきたいと思います。

○毎日の授業の中でSOS教育の視点を意識するという事は、日常的に、生徒全員の支援行動や支援希求行動を育むことに繋がると思います。今回の各教科における取り組みでは、SOS教育の視点が、「主体的、対話的で深い学び」と相互に作用していました。日常の授業の中でSOS教育の視点を持ち、意識することの重要性を学ぶことができました。

○各教科での実践、大変勉強になりました。普段の授業を少し工夫をすることで生徒に変化が見られるのであれば、実践する価値はあるように感じました。

○私も物理を担当しており、生徒実験はリーダーシップや援助希求力を身に付けるいい機会だと思っています。「こんな実験はつまらない」の話を入れたり、「態度目標」を明確にしたりすることで、学習内容を深めるだけでなく、生徒の行動をより積極的なものにできれば非常に効果的なものになると感じました。

○さらに興味を持ったのが、体育科の実践です。授業では、しっかり体を動かすことに重点があるように考えていました。しかし、その中身を理解して考えて動くことができれば、体育の授業だけでも技術力が向上しているのを感じることができました。部活動でも実践すれば、自らの力で技術力を高めることができると感じました。ワークシートや生徒が理想的な動きになるようにするには、多くの準備が必要だったと思います。お疲れ様でした。

○すべての教科での取り組みの発表を聞いたことが良かった反面、もう少し詳しく、取組の様子を聞きたいと感じたところもありました。(時間の都合で難しい部分があったと思います。)

○各教科においてリーダーシップ教育の実践を進められていたため、アクティブラーニングの授業が主流になりつつある今、授業に取り入れやすいのではないかと感じました。

○体育の授業では、「ハンドボールが好き」と答える生徒が増えたとのことが印象に残りました。

○評価について、よい評価シートなどに記入し、生徒が互いに伝え合う点は、ルーブリック評価に正確性が加わり、よい取り組みだと思いました。客観性が高く、またネガティブなレスポンスがないため、ルーブリック評価の利点が生かされていると感じました。評価に関しては、今までは尺度を設けて行うことが多く、恣意的になりがちでしたので、大変参考になりました。

○情報の授業では、生徒の意見に対して、他の生徒が共感し、拍手を送っている姿に、先生

自身が気付いていらっしゃいました。SOSのサインに生徒だけでなく、職員もそのサインに気付ける力があるのだと思いました。

○PC室は音を吸収するので生徒の声が良く聞こえ、外の光の影響もなく映像が見やすいと感じました。普通教室は音が反響してしまい、逆光にもなりやすいので難しいですね。

○体育科の発表はわかりやすくイメージしやすかった。

○実験室が「居場所」「学びの場」と大切にされているところが良かった。

○物理の報告で生徒にとって学ぶ場所が「居場所」になるというお話を聞き、感銘を受けました。私も授業を楽しみに来てくれる生徒を増やすために、魅力的な授業を展開したいと思います。

○物理の実験においては、開始時に臨まれることを明示し、生徒全員が同じ方向へ努力しているのを見て、実験だけではなく日ごろの授業においても工夫されていると感じました。

○英語の授業の発表や集団絵画での参加状況に生徒の意欲の高さや調整力の高さを感じました。

○物理実験のVTRで、実験の内容目標だけでなく、コミュニケーションの取り方等態度目標も明示されているところが、アクティブラーニングの手法に似ているなど感じました。

○各教科の取組を紹介いただき、大変勉強になりました。現在グループ学習を取り入れる中、どの教科でも質問しやすい雰囲気は授業の様子から伝わってきました。

○SOSの出し方教育の取り組みを通して数学科の先生が、生徒同士、生徒教員の相互作用が生まれると言われたことは、教科学習を超えて困った時にSOSが出しやすい環境が作られていると感じました。

○様々なタイプの生徒によるグルーピングを行い、理科の実験や製作活動など工夫した共同作業を取り入れ、習熟度の違いを超える分かりやすい授業づくりを行うことの大切さを考えさせられました。また、生徒主体の授業の中で、教師による最低限のサポートに徹するという点でも勉強になりました。

○体育の研究発表について

ディスカッションのテーマは「戦術」に関するものが多く、授業内容として非常にレベルが高いものを取り扱っている印象を受けた。本校の活動では基本的な技術やルールを理解を深めることが前提として重要であり、授業の中で戦術的要素を取り扱うのはごく初歩的なレベルに限られる状況がある。中学年代からの積み上げはもちろん、入学後の体育活動において継続的に指導されてきたことが、実践として成果を上げておられるのだと感じた。本校でも球技種目等で班活動を行う際の目標として、今後の授業実践に取り入れていきたい。

### (3) エンカウンター「共同絵画」に対する意見・感想

- 「共同絵画」の発表では、「1枚の絵を完成させる」・「一人ずつ絵を描く」などの条件が何のために与えられているのか、それぞれどの場面が「目標設定・共有」「同僚支援」「率先垂範」なのか、明確な説明があり理解が進みました。
- 共同絵画の授業は新しいクラスになった時のアイスブレイクにも良い手段だと思いました。どこかの機会に挑戦したいと思います。まわりからの頷き、共感が自信になり、授業への主体的な参加になることがわかりました。
- エンカウンターで実施されたプログラムは、コロナ禍においても実施できるよう工夫された、独自性の高いものであったと思います。SCと連携して教材開発をされたこと、SC活用の観点からも大変参考になるプログラムでした。
- グループエンカウンターなどのLHRは、コロナのため、学校行事の削減で逆にLHRの枠にも余裕があるため、このような特設LHRは、取り入れやすいし、学校行事を通して深めていた人間関係作りや経験などを補うのにも良いと感じました。
- 私自身の授業でいつも悩むことは、班活動をするとき、どうしても活発な班と、そうでない班が出てきてしまいます。「共同絵画」の取り組みから、そのようなことが解消されたことで、これからの参考にします。
- エンカウンターの取り組みは、ストラクチャーグループエンカウンターの実践であり、ノンバーバルな意思表示と他者への理解力も高まり、生徒自らの発信能力も高まると思いました。
- エンカウンターなどの学習内容と日常の行動が一致する出来事に出会った時、初めて生徒の中で「学んだことが自分の行動の一部になる」という実感が生まれてくると思いました。そのためにも生徒の実態を継続的に把握する取り組みは大変重要で、本校でもすぐ実践しようと思いました。
- エンカウンターとは「悩みを共感したり、違う考えを発見したりする中で、自己に気づき、人間的な成長を目指す」ものであると思います。つまり、「集団の中から自己を発見すること」です。だからこそ集団の方向性、特にどのように流れを持っていき、さらに自己の発見につなげるかというところで、指導者の力量が問われます。このような難しいテーマに挑戦されているところがとても尊敬できますし、それだけ準備や苦労も多かったと思います。
- 「共同絵画」の授業に大変興味を持ちました。生徒達は非言語的な協働作業を通して、積極的に自己表現をしながらグループに貢献し、協力して課題解決へ向かうことを実践していました。
- 「表情で相手に伝えることが大切」と生徒に伝えることで、コミュニケーションが苦手な生徒も「分からないサインができた」という感想があった。安心感に繋がったのではないかなと思った。
- エンカウンターの取組は本校でも実践しているが、エンカウンターの意義について教員各自が当事者意識を持ち、かつ学校全体で意識共有することが本校の課題である。済々黌高

校では、そのポイントが実践されており、成功している要因と感じた。

○高木ひろみ先生の補足説明がとてもわかりやすかったです。

#### (4) 「自己肯定感」アンケートについて

○10の質問で構成された自己肯定感のアンケート結果を個人面談の資料として活用されており、生徒が抱える悩みの早期発見、早期解決につながる取り組みであり大変勉強になりました。

○生徒の現状把握のための「自己肯定感アンケート」は、生徒の心の状態や成長をはかる指標として有効であると感じました。

○ローゼンバーグの自己肯定感アンケートについては、10の質問に対して、標準偏差の変化も結果として表示して頂ければ、このプログラムに関しての自己肯定感のそれぞれの因子として分析ができるのではないかと思います。

○「自己肯定感アンケートの継続実施」は大変有効だと思いました。やはり、単発で終わる内容ではなく、継続してこそこのようなソーシャルスキルは定着に繋がると思います。

○調査結果から、自己肯定感が1学期よりも2学期の方が下がっていることが衝撃的でした。休校等の感染症拡大防止対策が心にも影響していることがよくわかりました。

○自己肯定感アンケートで実態把握を行い、客観的な資料として、生徒支援につなげる試みは本校でもぜひ実践したい。

#### (5) 動画・リモート開催について

○リモートでの開催でしたが、動画で授業の様子を見ることができたり、各教科の先生方から取り組み状況等の説明があり大変わかりやすい研究発表会でした。

○御校に足を運び、教育の様子を間近に見ることができなかったことは残念ですが、オンラインで開催して下さり、ありがとうございました。

○生徒の記入や板書など画像が荒く見えにくい部分がありました。顔がぼやけるのは個人情報ですので、構わないと思います。

○動画の声はよく聞こえました。先生方の説明の声が重なり、聞き取りにくい場面がありました。

○編集の中に、活動の説明が言葉で入り、大変わかりやすかったです。

○「この生徒に注目して下さい」など、生徒の変化が見えるのがとても良かったです。

○普段の授業でも使用したいという先生方の意欲的な実践が大変勉強になりました。

○動画の編集は大変だったと思いますが、内容がわかりやすく伝わりました。また、一つの授業ではなく、いくつも見ることができたのが良かったです。

○昨年度も参加させて頂き、授業を参観させて頂きましたが、時間の都合上すべての授業を見ることができませんでした。その意味ではこのリモートでの取り組みはより多くの授業

の取り組みを担当の先生の声聞きながら見ることができましたので、これはこれでいいなど感じました。2時間があっという間に過ぎた感じです。準備に大変なご苦勞があったことと思います。ありがとうございました。

○生徒の感想が、オンラインのため、画像が不鮮明で読めず、残念でした。

○機械的な問題なのでどうしようもないことだと思いますが、動画の画質が悪く、生徒の表情をうまくつかむことができませんでした。

○動画の編集などは参考になることが多かったです。どこに注目して見たらよいのかをテロップで示してあるので、専門教科以外の授業でも理解しやすく感じました。

○どの教科でも生徒達が積極的に話し合っている場面が多く見られました。

○動画に場面ごとの見出しがあったので、分かりやすかった。

○動画の質が悪く、内容がわかりにくかった。

○リモートに不慣れなところもあり、途中で切れてしまい残念でした。(こちらの不手際です)

○内容の濃い研究発表だったと思いますが、動画については、Web上ゆえの支障が多く(画像の粗さ、画像が暗い、音声聞き辛い等)もったいない気がしました。

○動画の画質やスライドの文字、音声等がもう少し鮮明に受信されていればいいなと思いました。動画の編集等大変だったと思います。

#### (6) 質問について

(Q) ここ数年は、各教科の協力を得て、特設LHR以外の時間も使って実施している状況にあるが、貴校ではどのように時間確保の工夫をされているのか参考までにお聞かせいただきたい。(天草工業高校)

(A) エンカウンターについては、1・2年生とも1, 2学期にLHRを中心に実施しています。1年生の1学期の実施は、当初は新入生宿泊研修での予定でしたが、今年度は実施できませんでしたのでLHRでの実施をお願いしました。実施に当たっては、内容をSCと協議し、各学年の教育相談部の先生方に学年会でエンカウンターの内容の説明をしていただくようにしています。

(Q) 今後取り組みの中で生徒が自分のウィークポイントをどのような場面で表現することができたか、そのような場面や取組があったら紹介してほしい。(人吉高校定時制)

(A) 生徒が授業で活動に取り組むときには、「○○が苦手」とか「○○が得意」などグループで話をしている様子を見たことがあります。例えば家庭科を例にとるなら「調理で材料を切るのが苦手」とか「調理をやったことがない」などです。調理実習ならば、グループ活動ですので、生徒の活動のバランス(同じ生徒が同じことを何度もやらない)に注意をしながら



ら、自分ができる部分で班に貢献するということを目標としています。最後にワークで振り返りをさせているのですが、その中には「自分が班に貢献できた部分」と「他の人がどのように班に貢献したか」を記入するようにしており、生徒が自分の行動の振り返りと他者の良かったところを振り返れるようにしています。

(Q) 新型コロナ対策と対話のバランスで工夫されている点があったら教えてください。(人吉高校定時制)

(A) 当初、エンカウンター「共同絵画」は1学期に2年生のLHRで実施予定でした。ただ、生徒同士が近い距離で活動するという内容でしたので、1学期は見合わせました。また、1年生は本来「新聞タワー」を実施する予定でしたが、生徒同士の接触が多いということで非言語的コミュニケーションを中心とした「サインを読み取ろう!」に変更しました。コロナの様子と合わせ、活動内容は管理職の先生方や学年団の先生方と相談しながら進めました。したがって今年度は、予定通りには実施できなかった部分がたくさんありました。

(Q) 実際にこの研究を進められてきて、生徒達の様子やいじめの案件などに変化はありましたか? (宇土高校)

(A) この研究を2年間実施していますが、そのためにいじめの件数が減少したということはありません。ただ、県で実施しているいじめアンケートの記載が増えた部分があります。「自分の意見を表に出せる」生徒が増えたのだと感じました。また、授業の様子では、「リーダーシップ教育」を複数の授業で取り入れていることもあり、グループワークの時に意見が出やすい雰囲気になったと感じることはあります。

(Q) 授業の様子動画は、システムの関係で本来撮影した解像度で出せず、状況説明など苦労されたのではないかと思われた。他校へ自校の状況や雰囲気を伝えるために、どのような配慮をされたのか伺いたい。(玉名工業高校)

(A) 本校の発表会は、もともと11月上旬に予定しておりました。しかし、コロナ禍で学校開催が難しいだろうということでオンラインになったため、期日を12月4日に変更を致しました。動画という要請がありましたので、それぞれの先生方に動画を作成して頂きました。田上指導主事が来校されての簡単な配信確認を1回、校内だけで接続をしての通しのリハを1回行いました。実際に作成した動画と配信されるものとは随分様子が違いました。配信されたものを見た後(配信確認やリハ)で、動画に文字を入れたり文字を変更したり、口頭での説明を付け加えたりして頂きました。作成動画を早めに配信確認をされて、文字や音声の確認をされた方が良いかと思えます。

(Q) 貴校で取り組まれている、本研究とSGHとの関連性があれば知りたかった。(玉名工業高校・八代農業高校分校)

(A) SGHとの直接的な関わりはありませんが、12月11日(金)に校内で実施した「2020年度済々黷未来探求成果発表会」は、生徒の主体的な活動の場面となりました。生徒がそれぞれ選んだテーマについてポスターにまとめ、生徒を対象にポスターセッションをするというものです。生徒の課題設定・解決力、クリティカルシンキング(批判的思考)、コミュニケーション能力や自己表現力の育成を目的としたものです。生徒達の前で発表し、質疑応答したりなど、生き生きとした活動の姿を見ることができました。

(Q) エンカウターの重要性がどのあたりに関わりがあるか更に詳しく知りたかった。(玉名工業高校)

(A) エンカウターは、今までも実施をしていたのですが、この2年間は、「目的」をはっきりさせてエンカウターを実施してきました。例えば「共同絵画」の目的は、「リーダーシップ教育として協働作業を通して、他者理解を深め、支援行動や援助希求行動を経験し、他者と協力して課題解決へ向かう力を育成する。」です。目的を明確にして理解させた上で実施することで生徒達自身の振り返り(自己評価・相互評価)はより深いものとなりました。また、スクールカウンセラーは「振り返りが重要である」と言われていたので、振り返り(ポジティブフィードバック)も大切にしました。以下は、スクールカウンセラーから頂いた「エンカウターから生徒が身につけることができる力」についてのコメントです。『一般的に言われていることとして、自己理解、他者理解、自己受容、自己表現・自己主張、感受性(の促進)、信頼体験、役割遂行がある。このような力をつけることが、自分には得意なことで苦手なことがあって、それが自分であると受容できること、そして困ったときは援助も求めるといふ援助希求行動がとれるようにつながると思われる。援助希求行動は自殺防止、いじめの防止にもつながると考える。』

(Q) 計画書にある、完璧を求めるあまり自分を許せない、入学後、目的を見失ってしまった。という生徒は、この研究実践によりどのような変化が見られたのか知りたいと思った。(玉名工業高校)

(A) それらの生徒にこの研究に顕著な変化が見られたとは言い難い状況です。ただ、「自己肯定感アンケート」を継続して実施しているので、アンケートの回答の数値に変化があった生徒(極端に下がったなど)については、学年団や担任と情報を共有し、生徒の実態を把握した上で担任との個人面談を行うことができています。本校では、個人面談を頻繁に行っ

ており、アンケート結果は活用して頂いています。

(Q) ジェスチャーや絵で表現しながら協働作業を行う中で、動けずに固まってしまうような生徒はいなかったのか、また、人と関るのが苦手な生徒はどのような動きをしていたのか、そのような生徒達にはどう支援していけば良いのかも、知りたいと思いました。(北稜高校・熊本農業高校)

(A) 公開授業で見て頂いたクラスでは、動けずに固まってしまった生徒はいなかったように思います。各班が楽しそうにコミュニケーションを取りながらエンカウンターを行っていました。他のクラスも見に行きましたが、あまり気になる生徒はおりませんでした。ただ、これは、2年生の2学期に実施なので、生徒同士もある程度の人間関係の構築ができており、他者理解も進んでいるからなのかもしれません。スクールカウンセラーの先生との打ち合わせの中では、「対人緊張が高い生徒もいるので注意するように」と言われていました。もしそのような生徒がいた場合は、担任の先生がエンカウンターの様子をサポートされています。例えば、気になる生徒には声掛けを行うなどしてグループに介入したり、班分けを考慮するなどです。

(Q) 具体的な研究計画「自分にはできないことがあり、現状では目標達成に寄与できない」というのは、生徒のどういう状態を前提としているのか気になりました。授業が前提ではなく、何らかの特別活動等が前提とされているのでしょうか。(湧心館高校)

(A) これは、授業や特別活動ということではなく、学校生活で「生徒の理想が高く、目標には届かない」と感じる、ということです。全部の生徒がというわけではないのですが、中学校時代にトップクラスの経験をしてきた生徒が、本校に入学し、他者との比較の中で、自己肯定感を下げる生徒もいます。また、あまりにも完璧を目指すために、「目標達成ができない」と思う生徒もいます。その生徒が学校の中で自分の居場所を見出し、充実した学校生活を送るためには、学習・特別活動・学校行事・部活動、など学校生活の全てが必要だと、コロナ禍のこの1年間で深く認識したところです。

(Q) グループワークの中で、生徒はSOSを出すことができたのか？また、SOSを出しやすいようにするためにどのような手立てをしたのか？同僚支援はあったのか？等、具体的な内容や方法を知りたかった。(菊池支援高校)

(A) エンカウンター「共同絵画」の中で、テーマが伝わっていないことがわかり、一生懸命ジェスチャーをしている生徒がいました。多分、他の生徒にテーマが伝わっていないことがわかり、ジェスチャーで伝えようとしたのだと思います。1年生の1学期に行ったエンカ

ウンター「サインを読み取ろう！」でもジェスチャーシーンがたくさんありました。「分かっている人に伝えたい思いが生んだジェスチャー」は、同僚支援に当たるのだと思います。また、直接的な行動でなくても「発表者に拍手を送る」「一番に発表すると手を挙げる」などは、意見を出しやすい雰囲気を作ることにもなり、同僚支援に当たると考えます。

(Q) 様々な教育を行ってもどうしてもSOSを発せない生徒がいると思います。特に大規模校では場合によっては埋もれていることもあり得ると思います。その生徒への対応についてどのようにされているか気になりました。(人吉高校 五木分校)

(A) たくさんの生徒が在籍していますので、そのような生徒もいる可能性があります。そのため、学校独自の「自己肯定感アンケート」や県からの「熊本地震・コロナのアンケート」、それを活用した個人面談、通常の個人面談、職員の情報共有など様々なアンテナを張り巡らして、その中からそのような生徒を見つけ出せればと思っています。また、気になる生徒についてはSCからアドバイスを受けることも多々あり、本校は2名のカウンセラーが月に3～4回程度来校して頂いているのは、ありがたいと思っております。